



HONDA

Fit

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

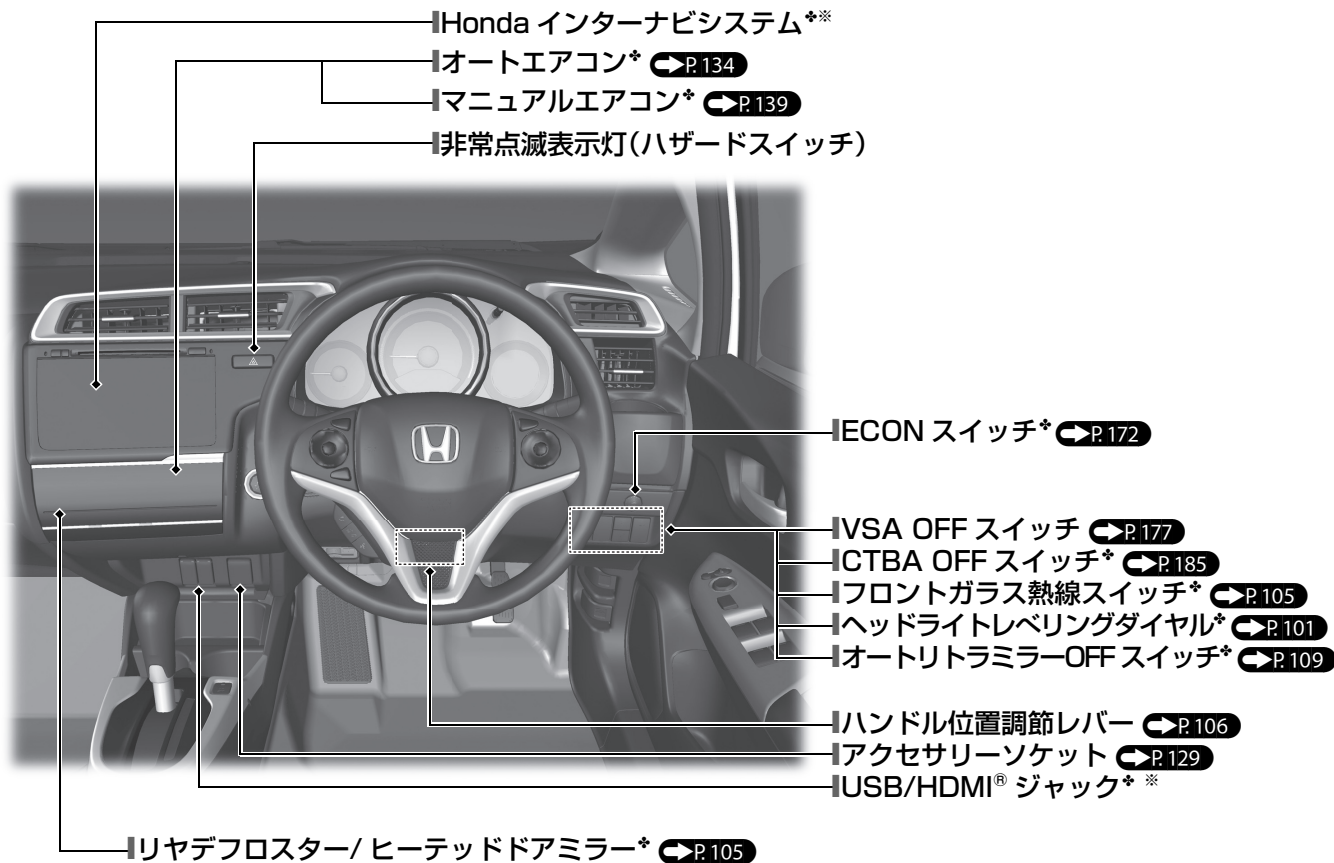
メンテナンス

万一の場合には

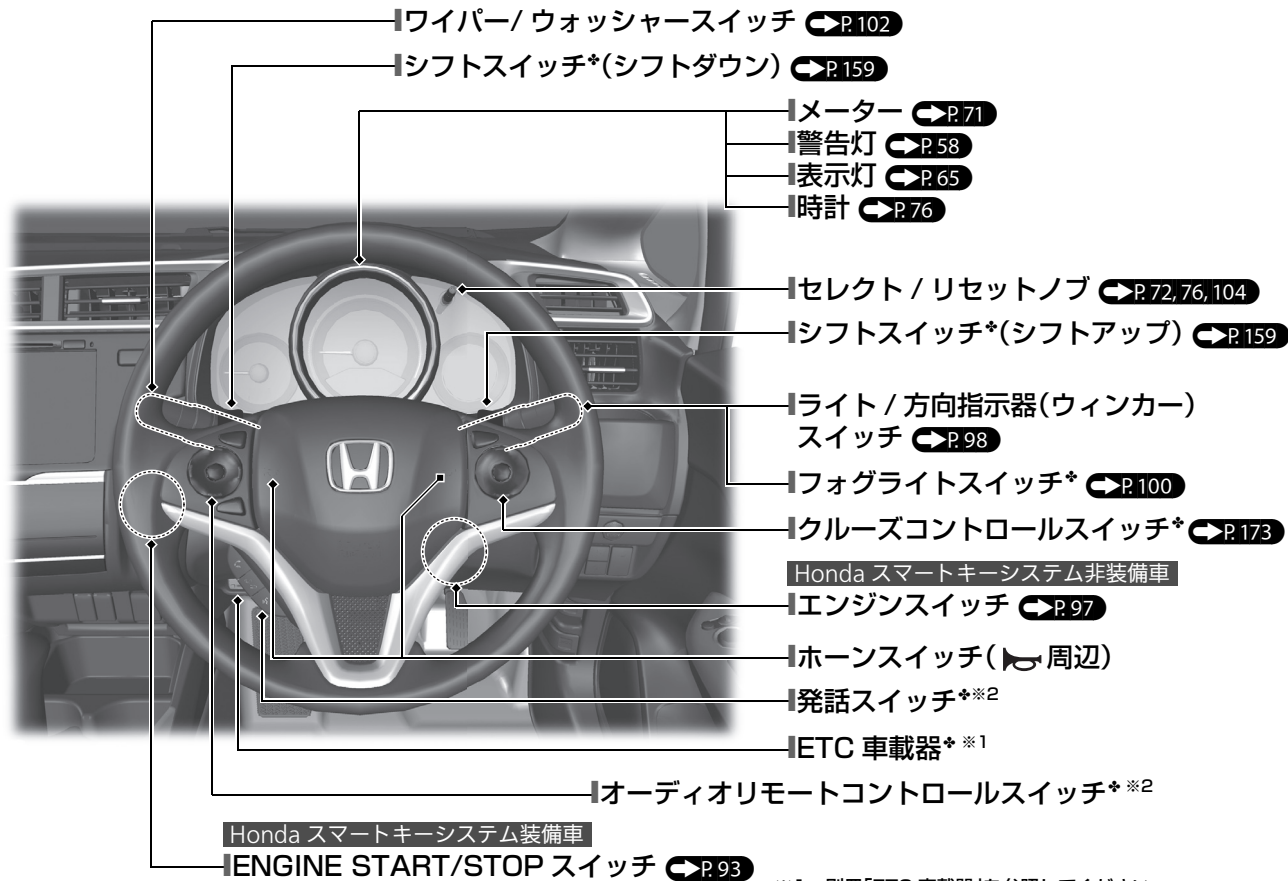
資料

索引

ビジュアル目次



※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

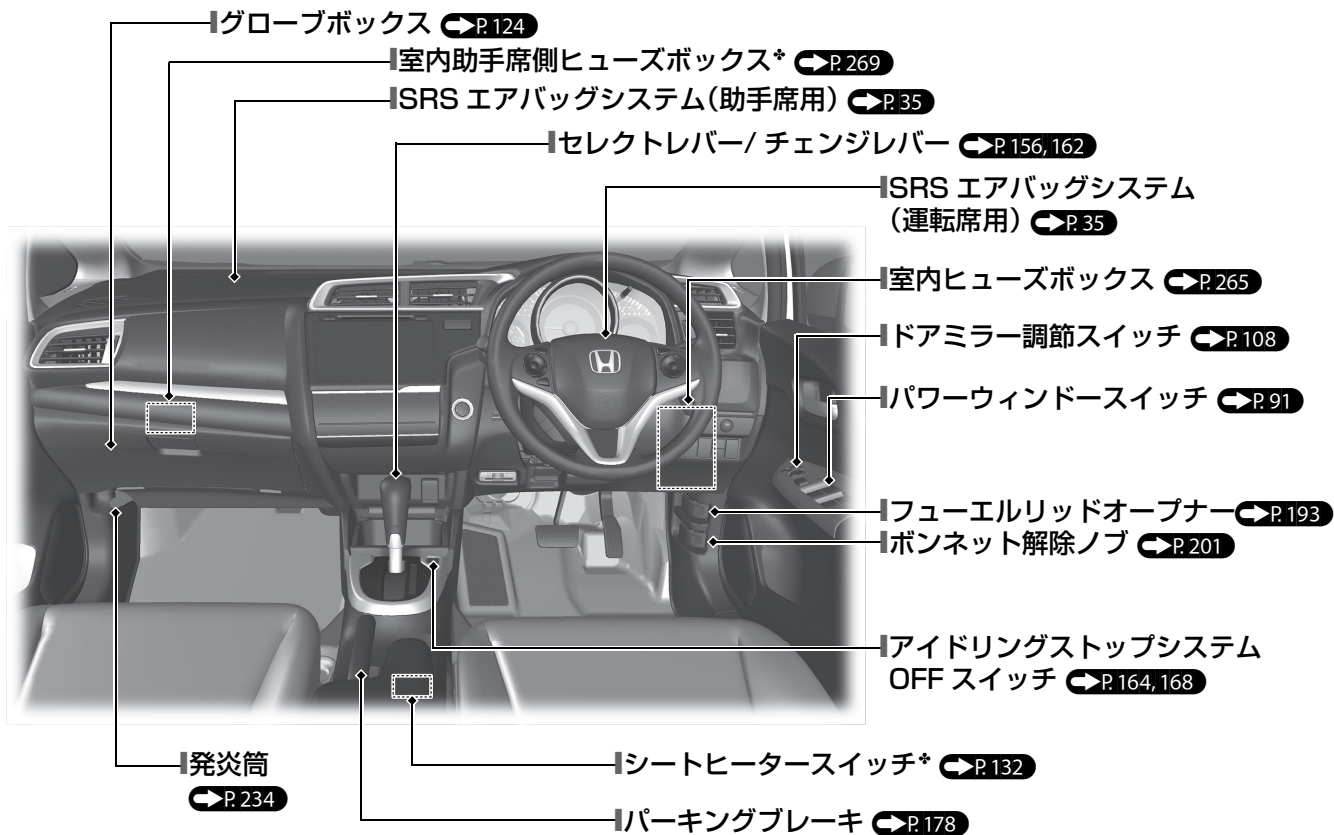


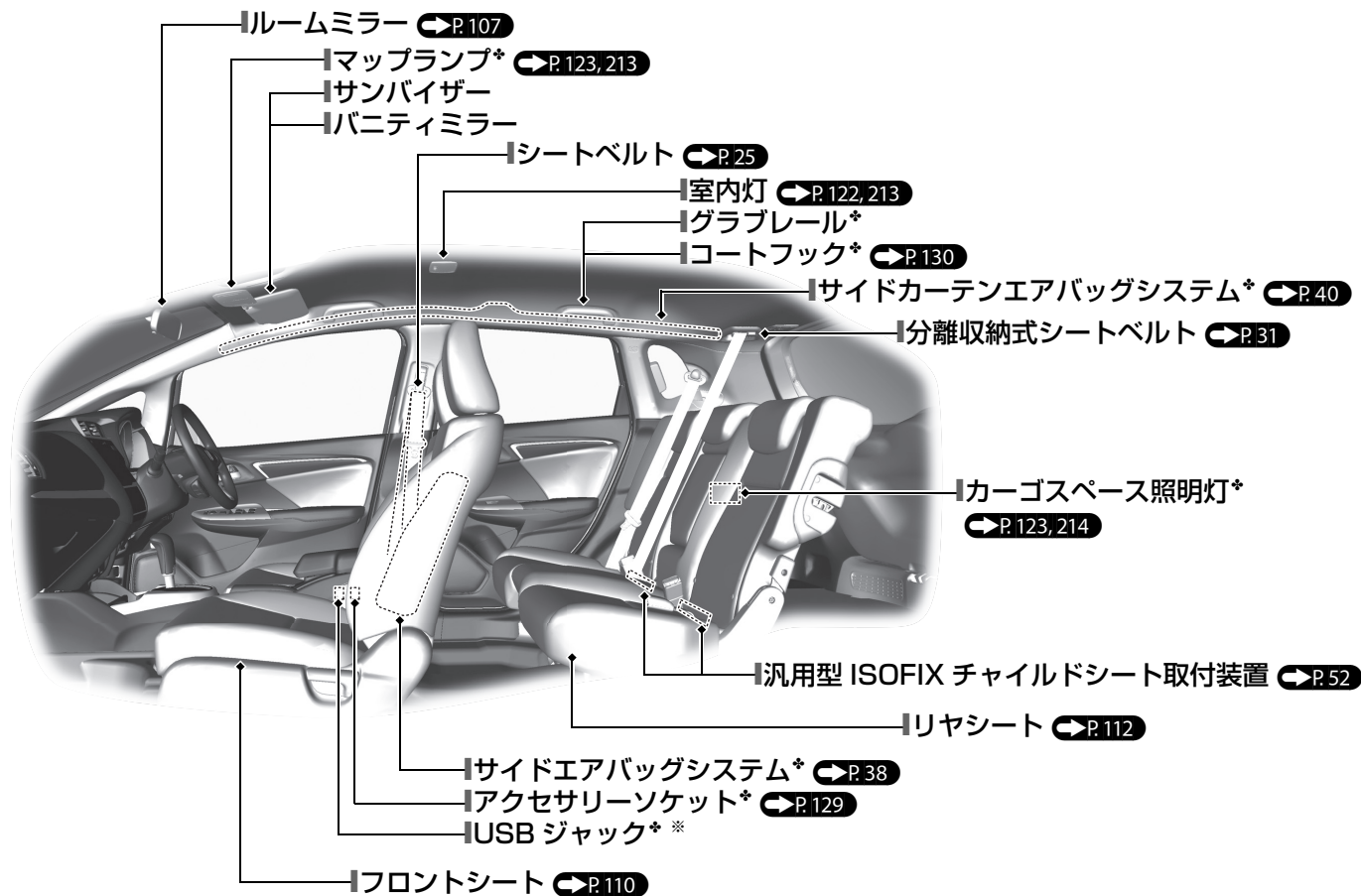
※1：別冊「ETC 車載器」を参照してください。

※2：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

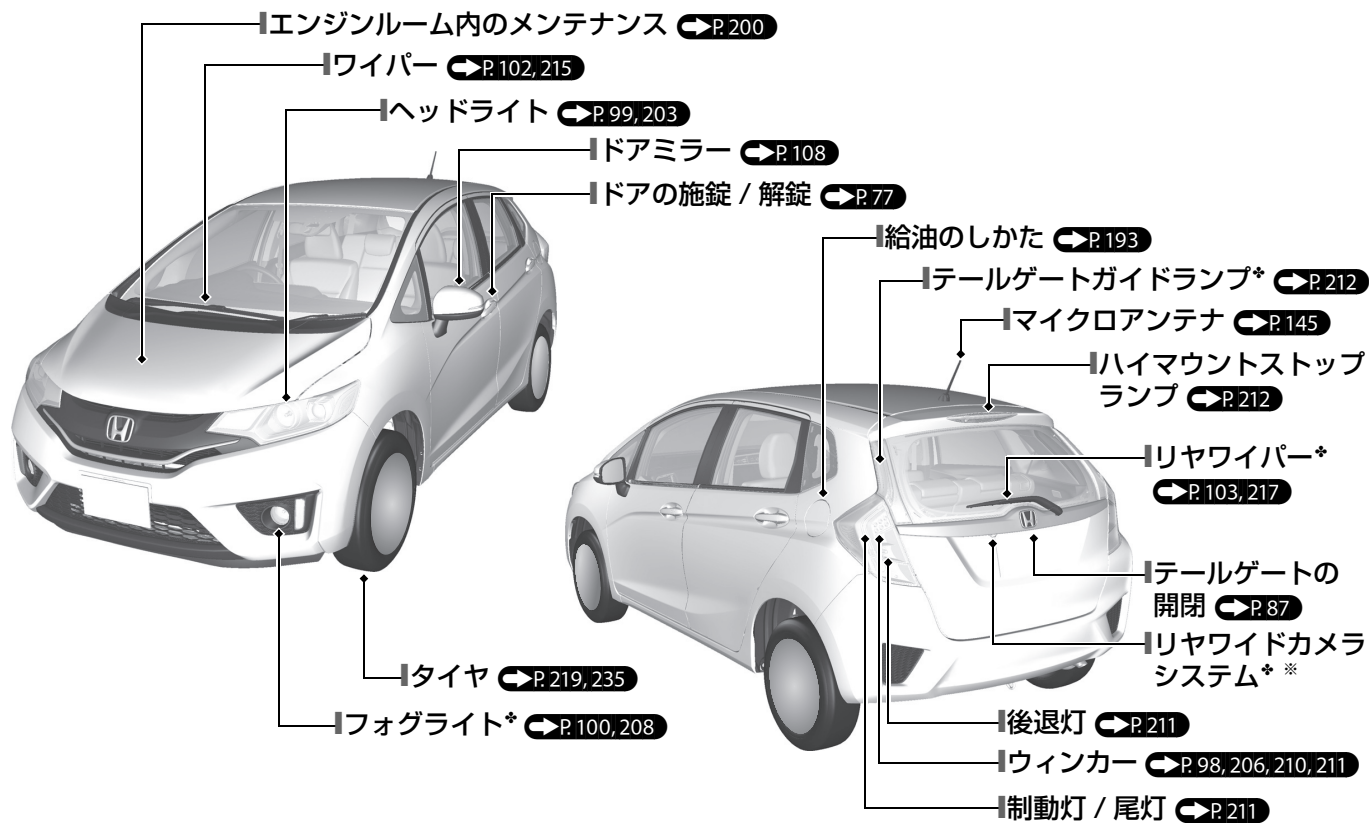




※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

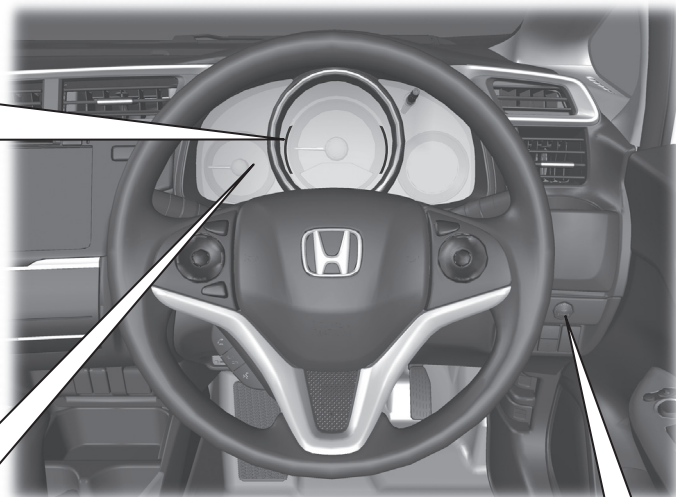


※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

エコアシストシステム

アンビエントメーター

- 運転の状態を表示します。運転操作の状態に応じて、メーターの色が変化します。
 - メーターの色
 - 緑色：省燃費状態
 - 青緑色：ゆるやかな加減速状態
 - 青色：急加減速状態
- ブレーキペダル、アクセルペダルの操作方法により、メーターの色が変わります。



ECON 表示灯*

- ECON モードが ON のときに点灯します。



ECON スイッチ* P.172

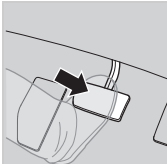
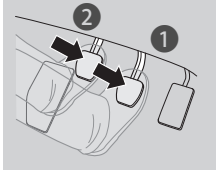

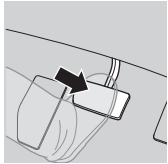
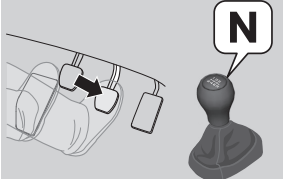
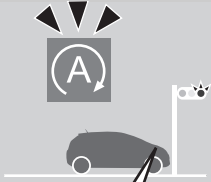
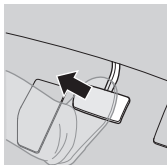
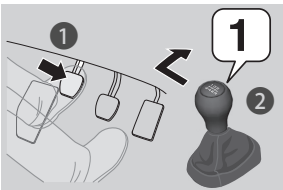
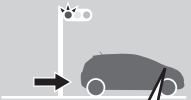
- スイッチを押すと、ECON モードが ON になり、運転の状況に応じて省燃費制御します。



アイドリングストップシステム

燃費向上のために、下記の手順によりアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。

アイドリングストップしているときは、メーター内のアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯します。▶P.164, 168

走行状態	無段変速オートマチック車の操作	マニュアル車の操作	操作後のエンジンの状態
減速	停車してブレーキペダルを踏む。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 停車してブレーキペダルを踏む。 2. クラッチペダルをいっぱい踏み込む。 	 <p>エンジン作動中</p>
停車	ブレーキペダルを踏み続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • ブレーキペダルを踏み続ける。 • チェンジレバーを N (ニュートラル) にする • クラッチペダルを離す。 	 <p>アイドリングストップ中</p>
発進	ブレーキペダルを離す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラッチペダルをいっぱい踏み込む。 2. チェンジレバーを 1 にする 3. 通常の発進時の操作をする。 	 <p>エンジンが自動的に再始動</p>

安全なドライブ ▶P.22

運転を始める前の確認 ▶P.23

- 運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

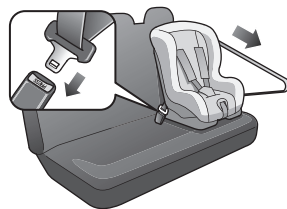
シートベルト ▶P.25

排気ガスについて ▶P.56

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

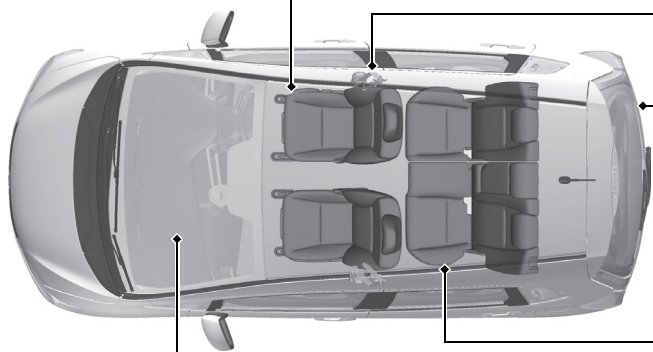
お子さまの安全 ▶P.44

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ ▶P.35


















- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

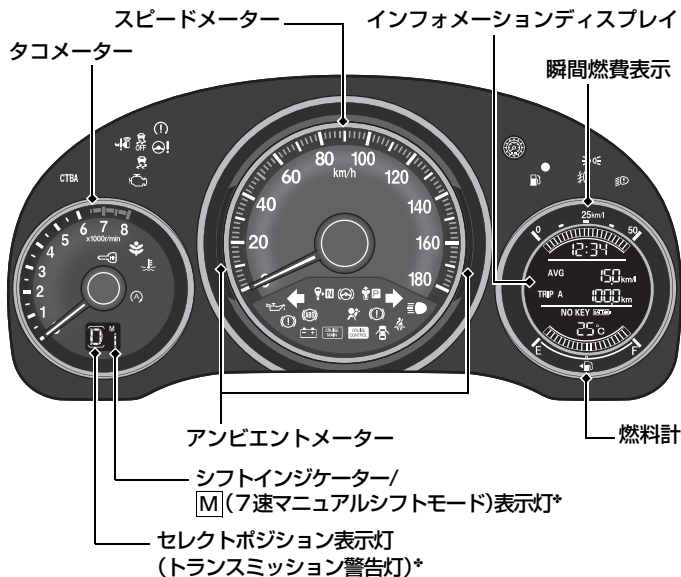


計器の見かた ➡P.57




警告灯 ➡P.58 表示灯 ➡P.65 メーター ➡P.71

警告灯 / 表示灯

















-  EPS システム警告灯
-  セキュリティアラームシステム作動表示灯*
-  Honda スマートキーシステム警告灯*
-  VSA OFF 警告灯
-  VSA 警告灯
-  オートライトコントロール警告灯*
-  ECON 表示灯*
-  PGM-FI 警告灯
-  低水温表示灯(ブルー)
-  高水温表示灯(レッド)
-  油圧警告灯
-  充電警告灯
-  アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)
-  アイドリングストップ表示灯(グリーン)
-  スタータシステム警告灯
-  セレクトポジション移動警告灯* P
-  チェンジポジション移動警告灯* N



ライト表示灯

-  ハイビーム表示灯
-  フォグライト点灯表示灯*
-  ライト点灯表示灯

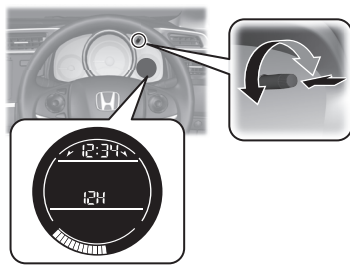
警告灯 / 表示灯

-  方向指示器 / 非常点滅表示灯
-  クルーズメイン表示灯*
-  クルーズコントロール表示灯*
-  エアバッグシステム警告灯
-  イモビライザーシステム表示灯
-  シートベルト非着用警告灯
-  ドア / テールゲート開閉警告灯
-  燃料残量警告灯
-  ABS 警告灯
-  ブレーキ警告灯(レッド)
-  ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
-  Honda スマートキー電池消耗警告灯*
-  NO KEY Honda スマートキー持ち去り警告灯*
-  ブレーキ踏み込み不足表示灯*
-  ハンドル操作表示灯*
-  シティブレーキアクティブ表示灯*

各部の操作 ▶ P.75

時刻を合わせる ▶ P.76

Honda インターナビシステム非装備車

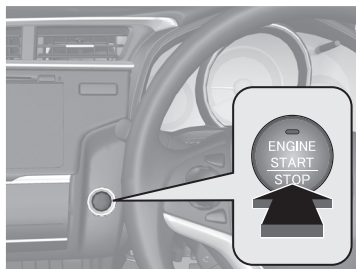


Honda インターナビシステム装備車

Honda インターナビシステム装備車の時計は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

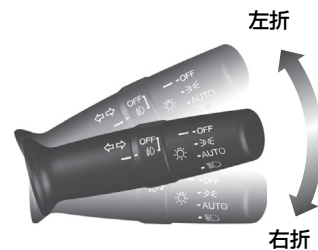
ENGINE START/STOP スイッチ* ▶ P.93

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



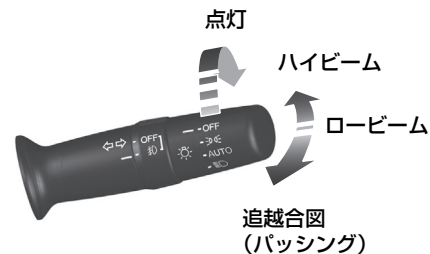
ウィンカー ▶ P.98

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



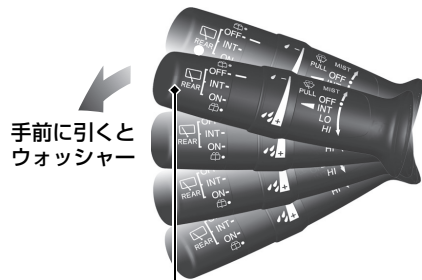
ライト ▶ P.99

ライトスイッチ



ワイパー **➡ P.102**

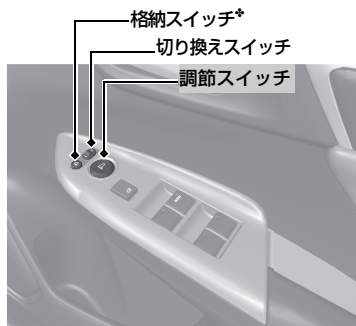
ワイパー/ウォッシャースイッチ



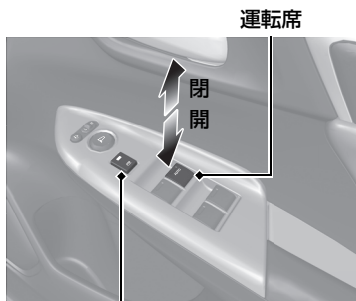
- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量の多いとき)

ドアミラー **➡ P.108**

- エンジンスイッチが **II**※1 のとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。

パワーウィンドー **➡ P.91**

- エンジンスイッチが **II**※1 のとき、ウィンドーの開閉ができます。



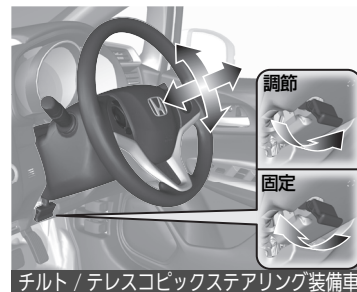
パワーウィンドーロックボタン

- ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF 全てのウィンドーが作動

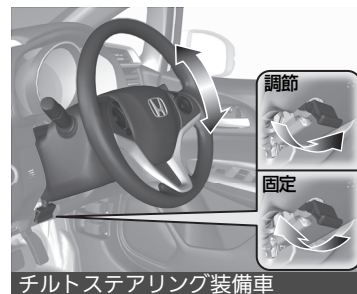
ハンドル位置の調節

➡ P.106

- ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



チルト/テレスコピックステアリング装備車



チルトステアリング装備車

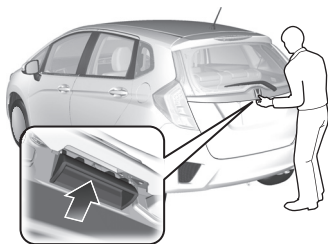
※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

テールゲート P.87

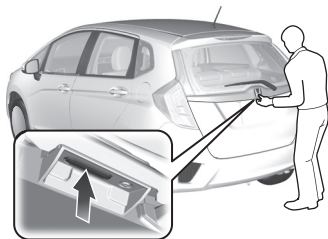
Honda スマートキーシステム非装備車

- テールゲートは、テールゲートハンドルを引いて開きます。



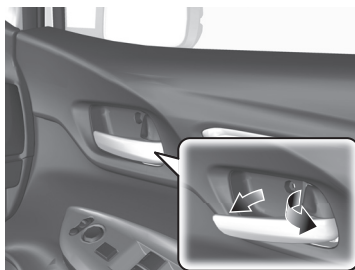
Honda スマートキーシステム装備車

- テールゲートは、テールゲートオープンスイッチを押して開きます。



運転席ドアハンドルでの 解錠

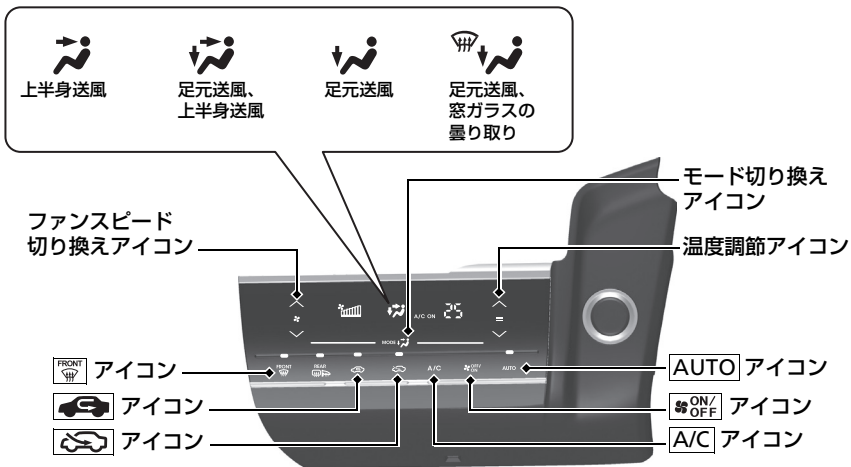
- 運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



エアコン P.133

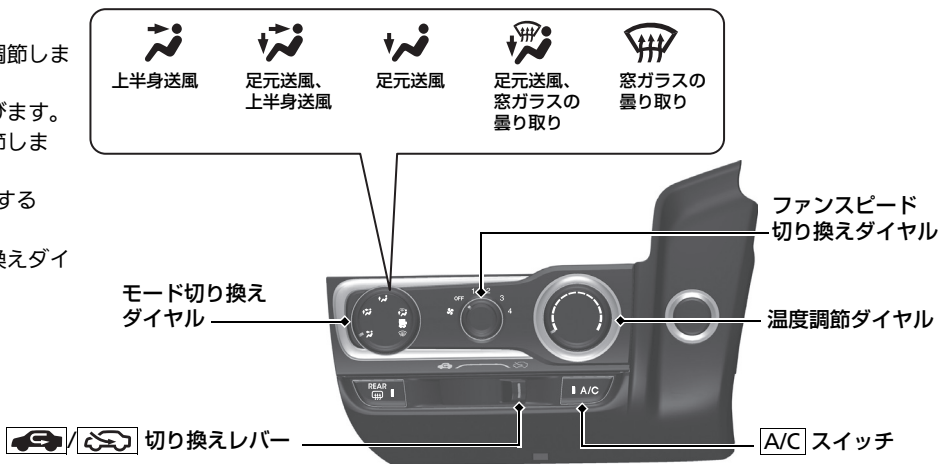
オートエアコン装備車

- **AUTO** を押すと、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、**FRONT DEFROST** を押します。



マニュアルエアコン装備車

- ファンスピード切り換えダイヤルで風量を調節します。
- モード切り換えダイヤルで吹き出し口を選びます。
- 温度調節ダイヤルで吹き出し風の温度を調節します。
- ファンスピード切り換えダイヤルを OFF にすると、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、モード切り換えダイヤルを にします。



運転 ➡ P.146




マニュアル車 ➡ P.162

無段変速オートマチック車 ➡ P.156, 160

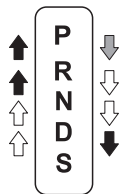
- セレクトレバーを **[P]** に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

セレクトレバー

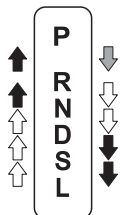
セレクトレバーの操作

-  ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作
-  ボタンを押して操作
-  ボタンを押さずそのまま操作

7速マニュアルシフトモード
装備車



7速マニュアルシフトモード
非装備車



- [P]** パーキング
駐車またはエンジンの始動
- [R]** リバース
車を後退
- [N]** ニュートラル
アイドリング状態
- [D]** ドライブ
・通常走行
・一時的に7速マニュアルシフトモード* にするとき
- [S]** ドライブ(S)
・上り坂や下り坂を走行するとき
・7速マニュアルシフトモード* にするとき
- [L]** ロー*
強いエンジンブレーキが必要なとき

7速マニュアルシフトモード*

- ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができません。

セレクトレバーが **[S]** のとき

- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードになります。**[M]** (7速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケータにギヤ位置が表示されます。

セレクトレバーが **[D]** のとき

- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に7速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケータにギヤ位置が表示されます。

M表示灯

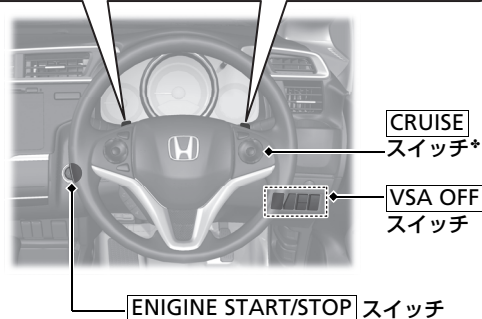


シフトインジケータ

-シフトスイッチ
(シフトダウン)





+シフトスイッチ
(シフトアップ)



この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

VSA

➡P.176

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。
- エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。

CRUISE スイッチ*

➡P.173

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために **CRUISE** を押して OFF にしてください。

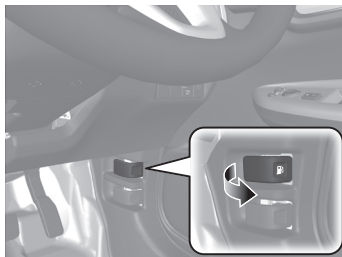
ガソリンを入れる

指定燃料： 無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

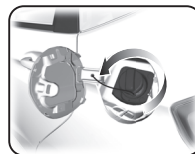
タンク容量： **Honda スマートキーシステム装備 2WD 車**
4WD 車
40 リットル

Honda スマートキーシステム非装備 2WD 車
32 リットル

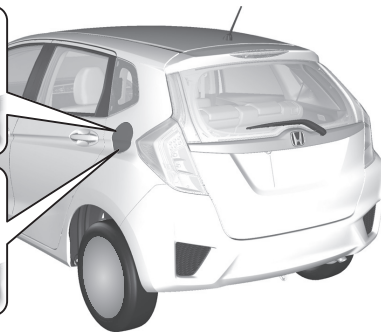
- 1 フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



- 2 ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。



- 3 キャップをホルダーにかける。



メンテナンス ➡P.197

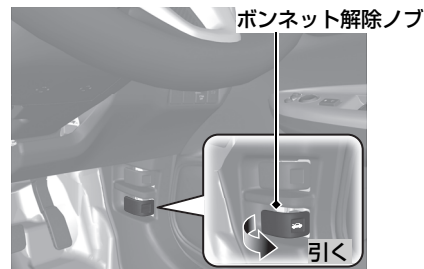
ワイパーブレード ➡P.215

- 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

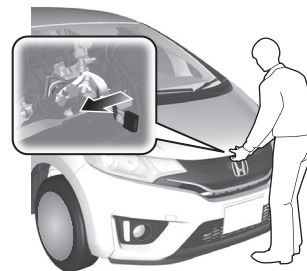
エンジンルーム ➡P.200, 202, 258

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- バッテリーを点検します。

- 1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



- 2 レバーを押してボンネットを開ける。



タイヤ ➡P.219

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト ➡P.203, 232

- ヘッドライト、フォグライト電球*、テールライト電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 ➡P.271

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

万一の場合には

➡ P.233

パンクした

➡ P.235

パンク修理キット装備車

- 安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。

応急用スベアタイヤ装備車

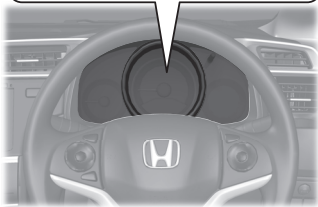
- 安全な場所に停車し、応急用スベアタイヤに交換します。



警告灯が点灯した

➡ P.259

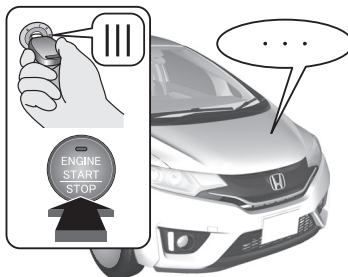
- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

➡ P.252

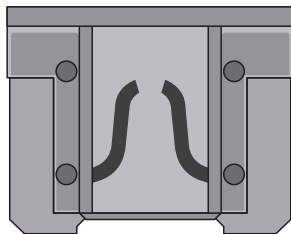
- バッテリーあがり考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた

➡ P.262

- 室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした

➡ P.258

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

➡ P.272

- 必ず専門業者に依頼してください。やむをえず4輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

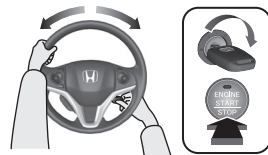
Q

Honda スマートキーシステム装備車
ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリモードにならない

Honda スマートキーシステム非装備車
キーが 0 から 1 に回らない

A

- ハンドルがロックされていませんか？
ハンドルを左右に回しながら、キーを回してください。Honda スマートキー*装備車は、ENGINE START/STOP を押してください。



Q

Honda スマートキーシステム装備車
ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない

Honda スマートキーシステム非装備車
キーが 1 から 0 に回らない
(キーが抜けない)

A

- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？



Q

ブレーキペダルを踏んだら
ガタガタと振動した

A

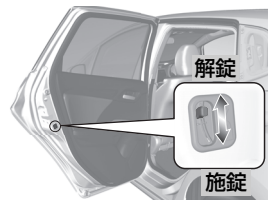
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q

後席ドアが車内から開けられない

A

- チャイルドブローフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドブローフのつまみを解錠の位置にしてください。



Q キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている

A • キーレスエントリー、Honda スマートキー*で解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A **Honda スマートキーシステム非装備車**
• キーをエンジンスイッチに差し込んでいませんか？

Honda スマートキーシステム装備車

• パワーモードを OFF モード以外にしていますか？

共通

- 「ピー」と鳴るときはライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けると「ピーッピーッピーッ…」と鳴ります。

Q 走行するとブザーが鳴る

A • 運転席および助手席シートベルトを着用していますか？
• パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がる

A • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A • プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

安全なドライブ P.22

安全なドライブのために 23 シートベルト 25 エアバッグ 35 お子さまの安全 44
排気ガスの危険性 56

計器の見かた P.57

警告灯と表示灯 58 メーターとインフォメーションディスプレイ 71

各部の操作 P.75

時刻の設定 76 ドアロック 77 テールゲート 87 セキュリティシステム 89
ウィンドー 91 ハンドルまわりのスイッチ 93 ミラー類 107
シート 110 室内灯 / 室内装備品 122 エアコン 133

オーディオ P.143

オーディオ装置* 144

運転 P.146

運転の前に 147 運転 149 ブレーキ 178 駐停車 190
リヤワイドカメラシステム 192 給油 193 アクセサリーと改造 196

メンテナンス P.197

メンテナンスの前に 198 エンジンルーム内 200 電球 203 ワイパー 215
タイヤ 219 キーレスエントリー/Honda スマートキー 223 エアコンのお手入れ 225
清掃 227

万ーの場合には P.233

工具、発炎筒 234 パンク 235 ジャッキ 248 エンジンが始動しない 252
ジャンプスタート 255 セレクトレバーが動かない 257 オーバーヒート 258
警告灯が点灯 / 点滅した 259 ヒューズ 262 けん引 272

資料 P.277

仕様：13G 278 仕様：15XL 280 仕様：RS 282

安全なドライブ P.22

計器の見かた P.57

各部の操作 P.75

オーディオ P.143

運転 P.146

メンテナンス P.197

万ーの場合には P.233

資料 P.277

索引 P.284

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために	23	お子さまの安全	44
シートベルト		乳幼児の安全	45
シートベルトについて	25	大きなお子さまの安全	54
シートベルトの着用	28	排気ガスの危険性	
シートベルトの点検	34	一酸化炭素について	56
エアバッグ			
エアバッグの種類	35		
SRS エアバッグ	35		
サイドエアバッグ*	38		
サイドカーテンエアバッグ*	40		
エアバッグシステム警告灯	42		
エアバッグのお手入れ	43		

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
 - ❏ **車内での施錠 / 解錠** P.85
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
 - ❏ **フロントシート** P.110
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
 - ❏ **フロントシート** P.110
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員全員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
 - ❏ **シートベルトの着用** P.28
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
 - ❏ **エアバッグ** P.35
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
 - ❏ **お子さまの安全** P.44

❏安全のための確認事項

ドア/テールゲート開閉警告灯が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、テールゲートがあります。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。「ドア/テールゲート開閉警告灯」は消灯し、正常な状態に戻ります。

❏ **ドア/テールゲート開閉警告灯** P.61

- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを **P** またはチェンジレバーを上り坂の場合 **1**、下り坂と平地の場合 **R** にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
 - 🔘 シフト操作 P.156, 160, 162

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■ シートベルトリマインダー



エンジンスイッチを **II**※1 にしたときや、走行したとき、運転席および助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

※シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子様や小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

無段変速オートマチック車

- セレクトレバーを **R** に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面*からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



※ シートベルトプリテンショナー

⚠ 注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

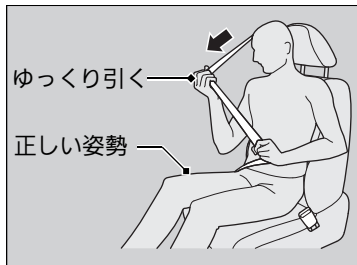
SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

サイドカーテンエアバッグ装備車

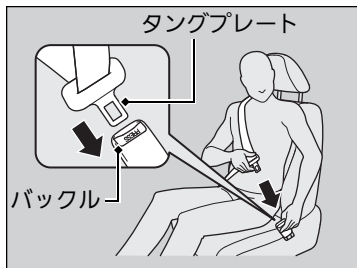
側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

シートベルトの着用

■ 三点式シートベルト



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

※ シートベルトの着用



注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをす
るおそれがあります。

**シートベルト着用時にアームレストに引っ
かけない。**

万一のときにシートベルトの機能が発揮で
きず、重大な傷害を負うおそれがありま
す。

シートベルトを外すには、バックルの赤色
の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベ
ルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バッ
クルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を
入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでくださ
い。正常に作動しないおそれがあります。

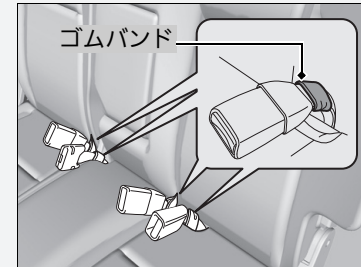


4. ベルトを、腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

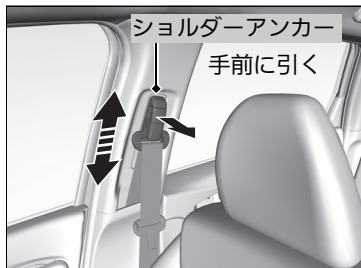
※シートベルトの着用

リヤシートのシートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。

シートアレンジなどのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。



■ ショルダアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. 適切な高さで解除ボタンを離し、ショルダアンカーを固定する。

※ ショルダアンカーの高さ調節



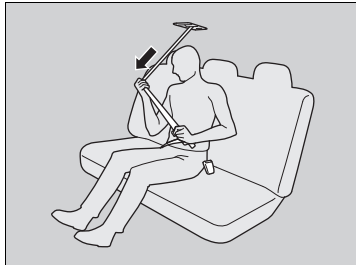
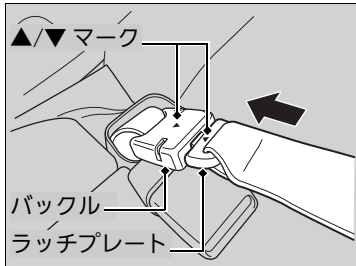
注意

調節後は、ショルダアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首に当たるときは、下げて調節してください。

分離収納式シートベルト



1. 天井の固定部からシートベルトのラッチプレートを外す。

2. ラッチプレートを引き出し、▲マークがついているバックルに差し込む。

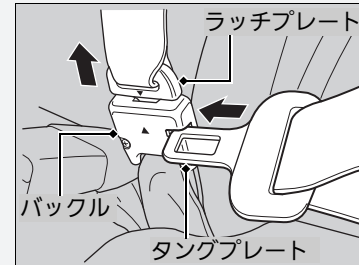
▶ ラッチプレートの▼マークとバックルの▲マークを合わせて差し込みます。

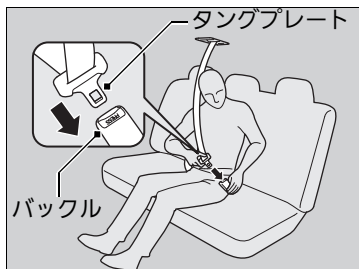
3. 正しい姿勢でシートにすわる。

4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

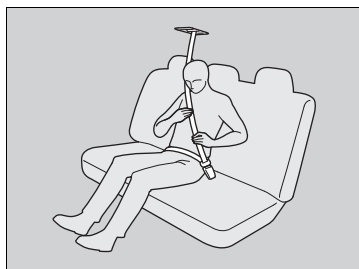
☒分離収納式シートベルト

シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを▲マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。





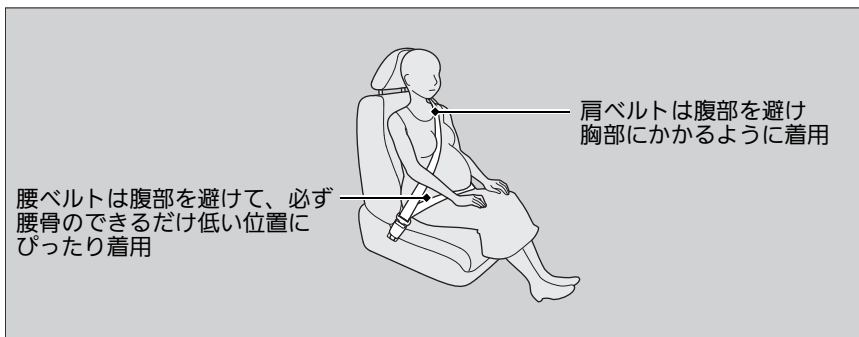
5. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。



6. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるとように合わせる。
7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた



注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

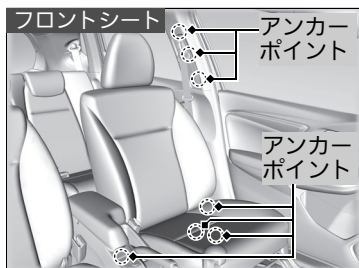
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

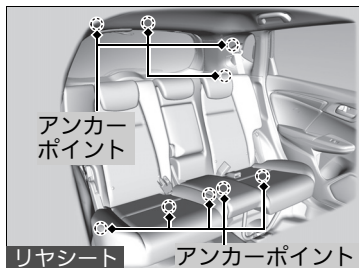
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグ

エアバッグの種類

エアバッグは、エンジンスイッチが **II***1 のときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ***：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ***：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメントレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

⚠️エアバッグの種類

⚠️警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグシステム装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠️注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

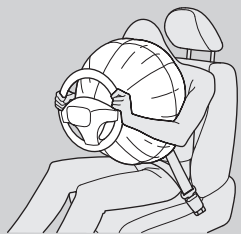
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

※SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

※SRS エアバッグの作動



注意

SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ*

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

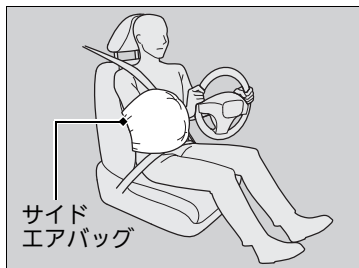
格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。

どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

※サイドエアバッグ*



注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいなくてもサイドエアバッグが作動します。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■ 作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

※ サイドエアバッグ*



注意

**ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
リヤシート同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。**

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

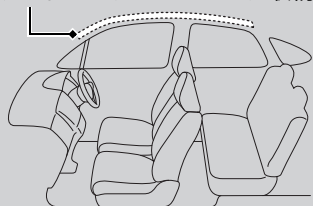
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ*

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所

サイドカーテンエアバッグ収納部



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

※サイドカーテンエアバッグ*

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

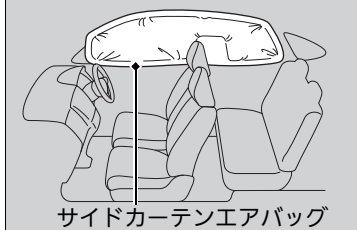
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■ 作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■ 作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

☑ 作動条件 P.39

■ 前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあとに必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

☒ サイドカーテンエアバッグ*

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

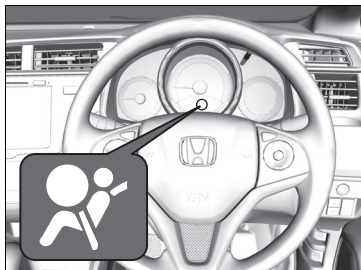
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。



不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯で知らせます。

エアバッグシステム警告灯



■ **エンジンスイッチを  ※1 にしたとき**
エンジンスイッチを  ※1 にすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。


■ **異常が発生したとき**
エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるとき点灯します。

ⓧ エアバッグシステム警告灯



警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。エンジンスイッチを  ※1 にしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

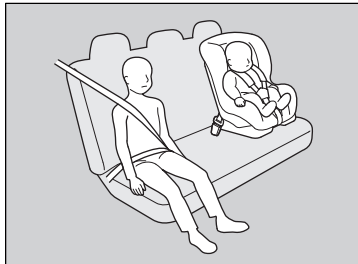
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

☒エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があるため危険です。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができず危険です。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 窓から手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが窓から手や顔、物などを出さないように注意してください。思わぬ障害物により事故のおそれがあり危険です。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になり危険です。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❗ お子さまの安全を守るために

警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

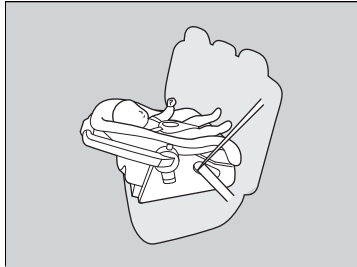
お子さまを助手席に乗せないほうが良い理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置してください。

推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

乳児のチャイルドシート



警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

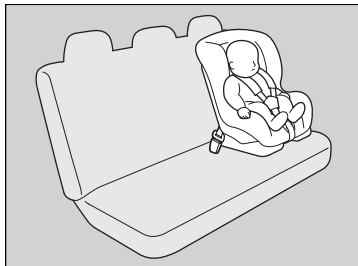
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 前向きチャイルドシートの設置場所
リヤシートへの設置を推奨します。

※ 幼児のチャイルドシート



警告

助手席に前向きチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付けの車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

☒チャイルドシートの選びかた

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けが簡単です。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	前席 助手席	座席位置		
		外側席	後席 中央席	
			リヤセンターヘッドレスト装備車	リヤセンターヘッドレスト非装備車
グループ0 ～10kg	X	U	U	X
グループ0+ ～13kg	X	U	U	X
グループI 9kg～18kg	UF※	U	U	X
グループII 15kg～25kg	UF※	U	U	X
グループIII 22kg～36kg	UF※	U	U	X

記号の説明

- U : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが取り付け可能です。
- UF : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
- X : チャイルドシートを取り付けできません。
- ※ : シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

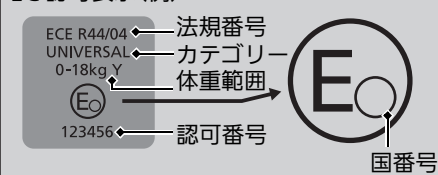
※シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入の際は、重量グループに一致したものをお選びください。

U と UF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL (汎用)と案内されているものもあります。

EC 認可表示(例)



汎用型 ISOFIX チャイルドシート以外のチャイルドシートを使用するときは、シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロックングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のリヤシート外側 2 座席には、汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ 等級	固定具	座席位置		
			前席 助手席	後席	
				外側席	中央席
キャリコット グループ 0	F	ISO/L1	—	X	—
	G	ISO/L2	—	X	—
グループ 0 + ~ 10kg	E	ISO/R1	—	IL	—
	E	ISO/R1	—	IL	—
グループ 0 + ~ 13kg	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
グループ I 9kg ~ 18kg	B	ISO/F2	—	IUF	—
	B1	ISO/F2X	—	IUF	—
	A	ISO/F3	—	IUF	—
	A	ISO/F3	—	IUF	—
グループ II 15kg ~ 25kg	—	—	—	X	—
グループ III 22kg ~ 36kg	—	—	—	X	—

記号の説明

IL : Honda ISOFIX Neo チャイルドシートが取り付け可能です。

IUF : 汎用型(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。

X : ISOFIX チャイルドシートを取り付けできません。

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

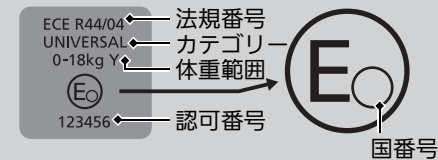
固定具	お子さま の大きさ	使用の 向き	形状、 大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

IL は UN-ECE R44 に適合した、Honda ISOFIX Neo チャイルドシートを取り付けることができます。

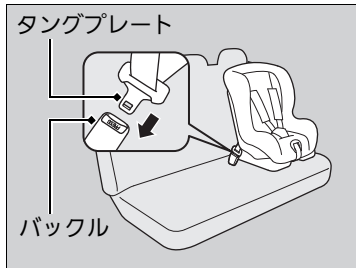
ご購入は Honda 販売店にご相談ください。

IUF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL ISOFIX (汎用) と案内があります。

EC 認可表示(例)



■ シートベルトでの取り付け



1. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。
 ※ 背もたれの調節* P.112
2. チャイルドシートを座席に置く。
3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タンクプレートをバックルに差し込む。
 ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■ チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

※ シートベルトでの取り付け



注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

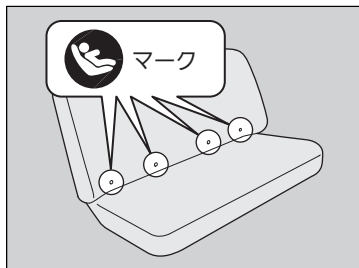
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。
2. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。
※ 背もたれの調節* P.112
3. ノブを押しながら、ヘッドレストを一番下まで下げる。
4. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。
 ▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け



注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

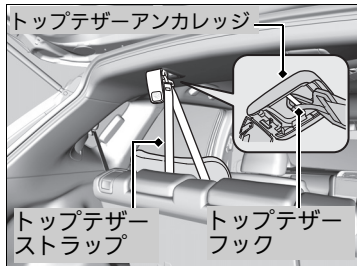
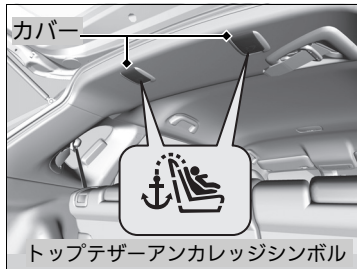
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

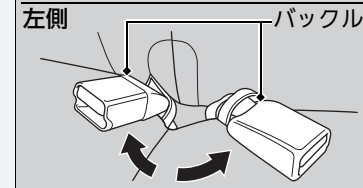
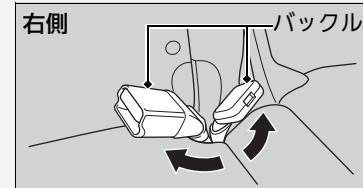
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



5. カバーを開ける。
6. トップテザーフックをトップテザーアンカレッジに引っ掛け、ストラップを締める。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

※汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

チャイルドシートを取り付けるときは、シートベルトのバックルを図のように動かしてください。



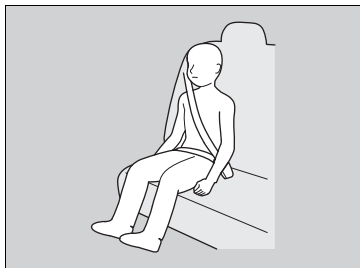
注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

大きなお子さまの安全

■シートについて

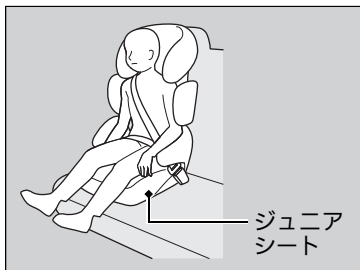
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

※大きなお子さまの安全



お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

※ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけ、足をフロアーにつけるよう指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する
- お子さまの行動を見守る

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

☒一酸化炭素について



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままエンジンをかけないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンをかけるようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。




警告灯と表示灯

警告灯	58
表示灯	65





メーターとインフォメーションディスプレイ

メーター	71
インフォメーションディスプレイ	72

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II※¹ にすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) ブレーキフルード量が低下したときに点灯 ブレーキシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☞ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.260
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II※¹ にすると数秒点灯したあと、消灯 シティブレーキアクティブシステム* が異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 シティブレーキアクティブ表示灯と同時に点灯したときは、シティブレーキアクティブシステムが故障して作動しません。Honda 販売店で点検を受けてください。 ☞ シティブレーキアクティブシステム* P.183
	油圧警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II※¹ にすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ☞ 油圧警告灯が点灯した P.259





※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	PGM-FI 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II^{※1} にすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上エンジンを止めて冷えるのを待ちください。 ▶ PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.260
	充電警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II^{※1} にすると点灯し、エンジン始動で消灯 バッテリーが充電されていないと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中に点灯＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどをOFFにし、対処してください。 ▶ 充電警告灯が点灯した P.259
	トランスミッション警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションが異常のときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	シートベルト非着用警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 エンジンスイッチを II^{※1} にしたときや走行中、運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ▶ シートベルトリマインダー P.26




※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	Honda スマートキーシステム警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点灯した • エンジン始動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した
	燃料残量警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 5.3 リットルになったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS (アンチロックブレーキシステム) 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンスイッチを II*1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯 	<p>点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。</p> <p>▶ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.180</p>
	エアバッグシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンスイッチを II*1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • 下記の異常を検知すると点灯 <ul style="list-style-type: none"> • エアバッグシステムの異常 • プリテンショナーシステム異常 	<ul style="list-style-type: none"> • 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。





※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	VSA (ビークルスタビリティアシスト) 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II※¹ にすると数秒点灯したあと、消灯 VSA が作動しているときは点滅 ブレーキアシストシステム、ヒルスタートアシストシステム、発進補助ブレーキ機能*、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に点灯した時は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ☑ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.176
	VSA OFF 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II※¹ にすると数秒点灯したあと、消灯 VSA を OFF にすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.176
	オートライトコントロール警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 オートライトコントロールシステムが異常のとき点灯 ロービームヘッドライトの機能に異常があると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ドア / テールゲート開閉警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ドア、テールゲートが閉まっているときは、エンジンスイッチを II※¹ にすると数秒点灯したあと、消灯 ドア、テールゲートが完全に閉まっていないとき点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ドア、テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II ※1 にすると点灯し、エンジン始動で消灯 EPS システムの機能に異常があると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯が点灯した P.261
	高水温警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 エンジンの冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 ☑ 低水温表示灯 (ブルー) P.65 • 走行中に点滅 = ゆっくり走行してください。 • 走行中に点灯 = ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 ☑ オーバーヒート P.258
	スターターシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを II ※1 にすると点灯し、エンジン始動で消灯 スターターシステムが異常のときに点灯 	<p>Honda スマートキーシステム装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> ブレーキを踏んだまま、クラッチペダルを踏み (マニュアル車)、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <p>Honda スマートキーシステム非装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> ブレーキを踏んだままエンジンスイッチを III にして、エンジンが始動するまで約 15 秒間待ってください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。






※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。



警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	Honda スマートキー 電池消耗警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、ブザーと同時に点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電池交換のしかた P.223
	アイドリングストップシステム警告灯 (オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンスイッチを II※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 • アイドリングストップシステムに異常があるときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	セレクトポジション P 移動警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • セレクトレバーが P 以外のときに、パワーモードが ON モードからアクセサリモードになると点灯 • アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードをOFFモードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキを踏まずに ENGINE START/STOP を2回押してください。 • エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ■ エンジンの始動 P.149
	チェンジポジション N 移動警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • アイドリングストップ中に、クラッチを踏まずにチェンジレバーを N 以外に入れると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリー残量が低下しても自動的にエンジンは再始動しません。バッテリー上がりを防止するためにチェンジレバーを N (ニュートラル) にしてください。 ■ アイドリングストップシステム(マニュアル車) P.168

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。


警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
NO KEY	Hondaスマートキー 持ち去り警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示 	<ul style="list-style-type: none"> • Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると消灯します。 ▶ Honda スマートキー持ち去り警告 P.95


表示灯





表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 電球の交換 P.206, 210, 211
	ハイビーム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドライトを上向きにしたときに点灯 	—
	ライト点灯表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯 (AUTO* のときは車幅灯点灯時に点灯) 	<ul style="list-style-type: none"> ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにしたり、Honda スマートキーシステム非装備車はキーを抜くと、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。
	フォグライト点灯表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> フォグライトを点灯させると点灯 	—
	低水温表示灯 (ブルー)	<ul style="list-style-type: none"> エンジン冷却水の温度が低いときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	イモビライザーシステム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンスイッチを II※1 にすると一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 • Honda スマートキーシステム非装備車 エンジンスイッチをいったん 0 へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み II にしてください。 • Honda スマートキーシステム装備車 パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP スイッチ・エンジンスイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	セキュリティアラームシステム作動表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> • セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅 	<p>☞ セキュリティアラームシステム* P.89</p>

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	クルーズメイン表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> クルーズスイッチを押して、クルーズコントロールを ON にすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☒ クルーズコントロール* P.173
	クルーズコントロール表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☒ クルーズコントロール* P.173
	ECON 表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> エンジンスイッチを  ※1 にすると数秒点灯したあと、消灯 ECON スイッチを押して、ECON を ON にすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☒ ECON スイッチ* P.172
	セレクトポジション表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> 現在のポジションを表示 	<ul style="list-style-type: none"> 外気温が低い場合には、セレクトポジションの表示が遅れます。 ☒ セレクトレバーの操作 P.157, 161
	シフトインジケータ/  (7 速マニュアルシフトモード) 表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> セレクトレバーが  で、7 速マニュアルシフトモードのとき  表示灯が点灯 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示 	<ul style="list-style-type: none"> ☒ セレクトレバーの操作 P.157

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに  が適用されています。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	アイドリングストップ表示灯 (グリーン)	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車) P.164 ▶ アイドリングストップシステム(マニュアル車) P.168
		<p>マニュアル車</p> <ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップ中、車内の快適性が維持できなくなったり、を押すと点滅 	<p>マニュアル車</p> <ul style="list-style-type: none"> クラッチペダルを踏んで、エンジンを再始動させてください。 ▶ アイドリングストップ中に表示灯(グリーン)が点滅したとき P.171
	ブレーキ踏み込み不足表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏み込んでください。
	ハンドル操作表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> ハンドルのロックが解除されていないときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ENGINE START/STOP を押しながら、ハンドルを左右に動かします。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
CTBA	シティブレーキアクティブ表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> • パワーモードを ON モードにすると数秒点灯した後、消灯 • 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り表示灯が点滅 • システムにより車両が停車したときは、ブザーが鳴り止み、表示灯は10数秒点滅した後、消灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 減速などして十分な車間距離を確保してください。車間距離が確保されると警報は消えます。 • 衝突のおそれがあると、自動でブレーキがかかります。 ☒ シティブレーキアクティブシステム* P.183
		<ul style="list-style-type: none"> • CTBA OFF スイッチでシステムを停止すると点灯 • スイッチを押してシステムを作動状態にすると消灯 	<ul style="list-style-type: none"> • ☒ シティブレーキアクティブシステム* P.183
		<ul style="list-style-type: none"> • フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点滅 • 雨、霧、雪など悪天候のときも点滅することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車して、レーザーセンサー付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 ☒ シティブレーキアクティブシステム* P.183 • 遮蔽物が落ちるとシステムは復帰します。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
CTBA	シティブレーキアクティブ表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> ボンネットに雪などが積もっているときに点滅することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な場所に停車して、ボンネット上の雪などを取り除いてください。
		<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度が高くなると点滅することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンで室内温度を下げるなどしてフロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度を下げてください。 温度が下るとシステムは復帰します。
		<ul style="list-style-type: none"> システムに異常があるとブレーキシステム警告灯(オレンジ)と共に点灯 	<ul style="list-style-type: none"> システムは作動しません。Honda 販売店で点検を受けてください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーター

メーターには、スピードメーターとタコメーターがあります。
エンジンスイッチが **II**※1 のとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに
ENGINE START/STOP が適用されています。

☒ タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

セレクトレバーが **R** のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃料計などが表示されます。

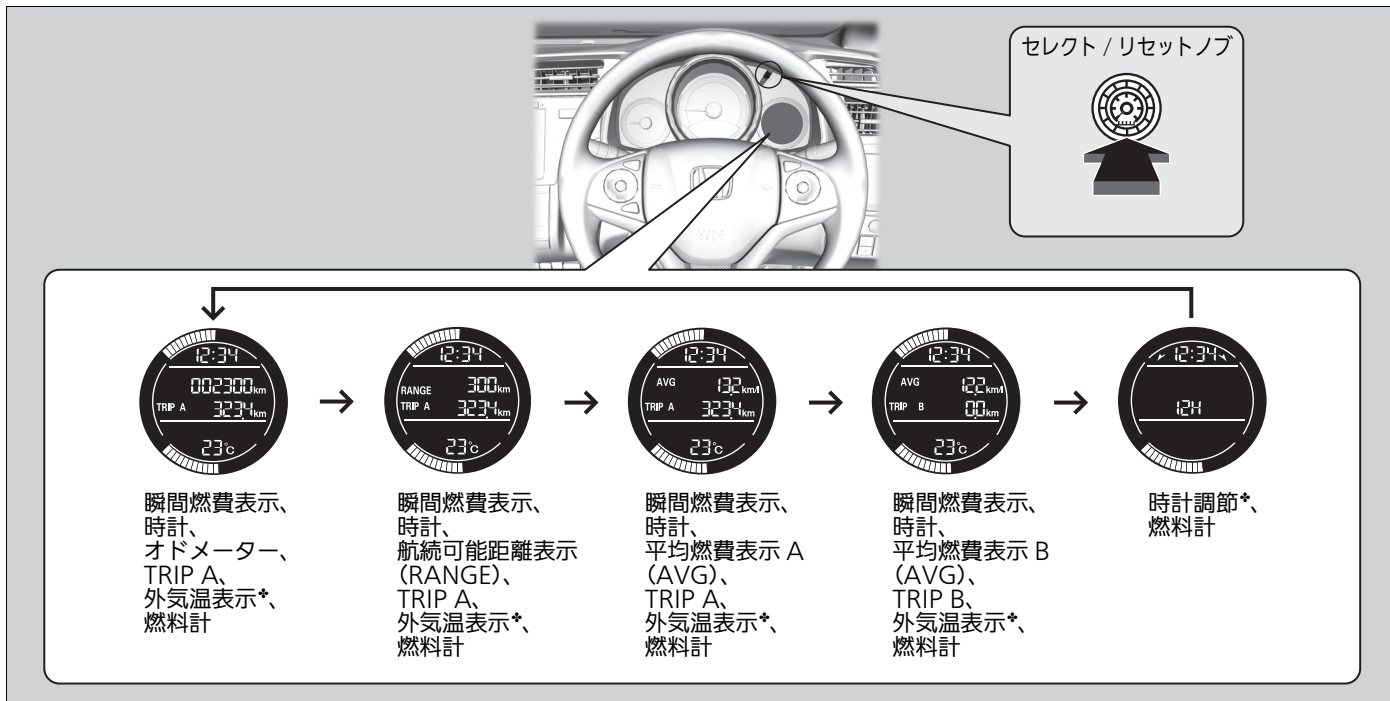
※表示の切り換えかた

Honda インターナビシステム非装備車

▶ 時計の時刻を合わせる P.76

表示の切り換えかた

セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、セレクト/リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■ 瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■ 平均燃費表示(AVG)

トリップメーターA、B と連動し、平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■ 航続可能距離表示(RANGE)

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

☒ トリップメーター

トリップメーターA とトリップメーターB は、セレクト/リセットノブを押して切り換えます。

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

☒ 平均燃費表示(AVG)

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

☒ 航続可能距離表示(RANGE)

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

■外気温表示*

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。

補正するには、セレクト/リセットノブを押し続け、設定したい補正值が表示されたら指を離します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※外気温表示*

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

エンジンスイッチを **II**※1にしたとき、外気温が 3°C 以下の場合、外気温表示が数秒点滅します。

※燃料計

アドバイス

燃料計が「E」に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定	76
ドアの施錠と解錠	
キーの種類と機能	77
車外でのドアの施錠 / 解錠	80
車内での施錠 / 解錠	85
チャイルドプルーフ	86
テールゲートの開閉	87
セキュリティシステム	
イモビライザーシステム	89
セキュリティアラームシステム*	89
ウィンドーの開閉	91

ハンドルまわりのスイッチ操作

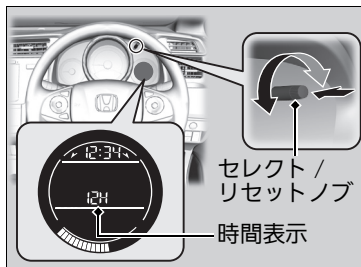
Honda スマートキーシステム装備車	
ENGINE START/STOP スイッチ	93
Honda スマートキーシステム非装備車	
エンジンスイッチ	97
方向指示器(ウィンカースイッチ)	98
ライトスイッチ	99
フォグライトスイッチ*	100
ヘッドライトレベリングダイヤル*	101
ワイパー/ウォッシャー	102
イルミネーションコントロール	104
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー*	105

フロントガラス熱線スイッチ*	105
ハンドルの調節	106
ミラー類の調節	107
シート調節	110
ヘッドレスト	119
アームレスト*	121
室内灯 / 室内装備品	122
エアコン	
エアコンの吹き出し口	133
オートエアコンの使いかた*	134
オートエアコンのセンサー*	138
マニュアルエアコンの使いかた*	139

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時計の時刻を合わせる

時計はインフォメーションディスプレイに表示されます。



Honda インターナビシステム非装備車

1. セレクト/リセットノブを押して、時計調節表示にする。
 - ▶ 「時」、「分」が点滅します。
2. セレクト/リセットノブを回して、時間を合わせる。
 - 右に回す**：「分」が進みます。
 - ▶ 「59」を超えると「時」が1時間進みます。
 - 左に回す**：「分」が戻ります。
 - ▶ 「00」を超えると「時」が1時間戻ります。
3. セレクト/リセットノブを押す。

時間設定が完了しました。画面に設定した時間が表示されます。

■時間表示の選択

1. セレクト/リセットノブを押して、時計調節表示にする。
 - ▶ 「時」、「分」が点滅します。
2. セレクト/リセットノブを長押しする。
 - ▶ 長押しを繰り返すたびに、12H/24H/OFF に切り換わります。
 - ▶ 「12h」または「24h」を選択すると時計の時間表示が12時間または24時間に切り換わります。
 - ▶ 「OFF」を選択すると時計が非表示となります。
3. セレクト/リセットノブを押す。

時間表示設定が完了し、画面に表示されます。

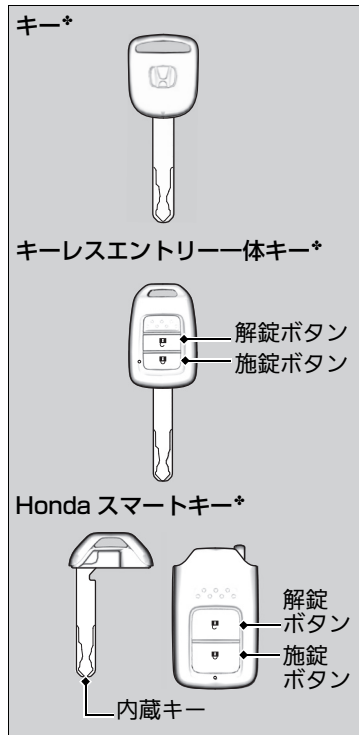
※時計の時刻を合わせる

Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。インフォメーションディスプレイに表示されている時計もナビシステムの時計表示に連動します。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。キーの組み合わせは、車両のタイプにより異なります。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。

キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

■キーの種類と機能

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

■イモビライザーシステム P.89

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。

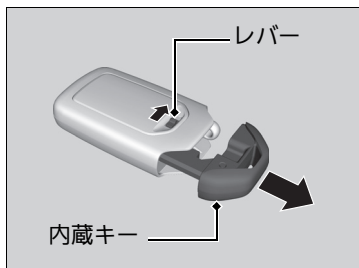
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ Honda スマートキー*



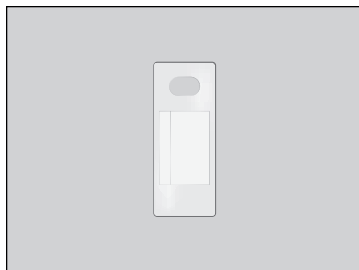
Hondaスマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、カチッと音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

※ Honda スマートキー*

キーレスエントリー一体キーおよび Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
 - 電池交換時以外は分解しない
 - 改造しない
 - キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない
- 分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。**

■ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.253

※ キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

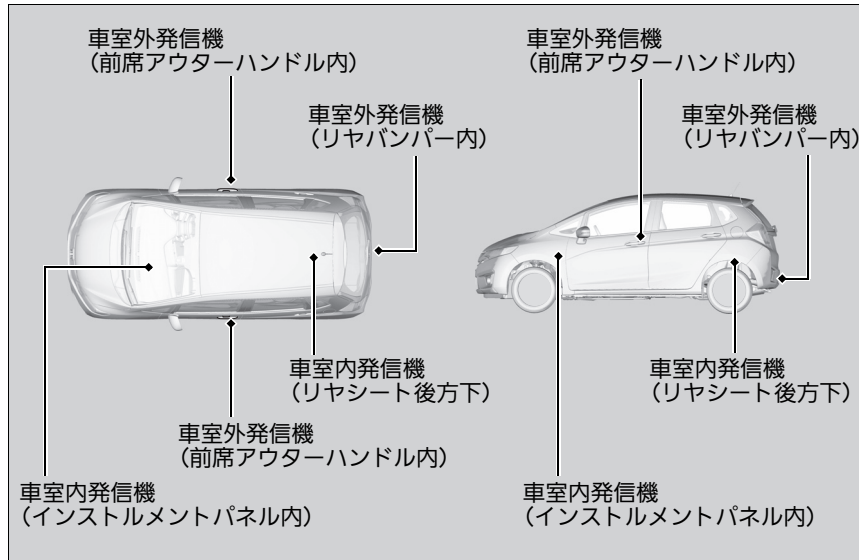
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠️ Honda スマートキーの微弱電波

⚠️ 注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

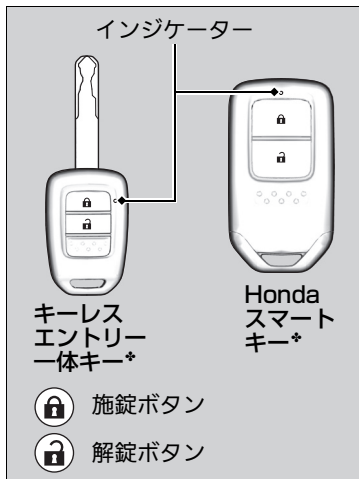
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

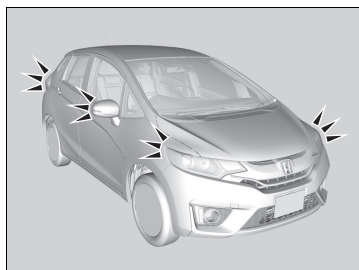
■キーレスエントリーでの施錠 / 解錠



■施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。



※車外でのドアの施錠 / 解錠

Honda スマートキーシステム装備車

パワーモードが OFF モード以外のおときはキーレスエントリーおよび Honda スマートキーによる施錠 / 解錠はできません。

Honda スマートキーシステム非装備車

次の場合、キーレスエントリーは作動しません。

- エンジンスイッチが [0] 以外のおとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

※キーレスエントリーでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。キーレスエントリーで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。

約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

※ 室内灯 P.122

キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーで施錠できません。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

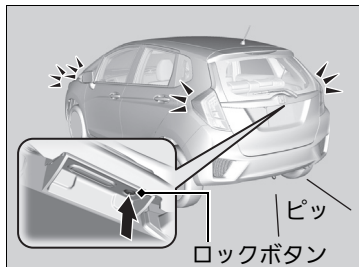
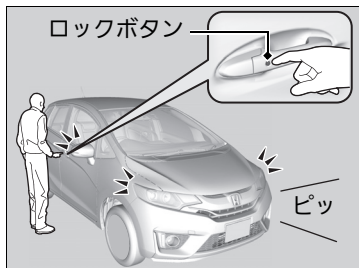
☒キーレスエントリーでの施錠 / 解錠

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

☒ **電池交換のしかた** P.223

■ Honda スマートキー*での施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠を操作します。ドア、テールゲートの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

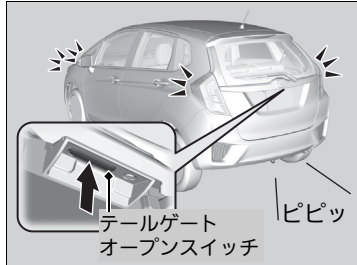
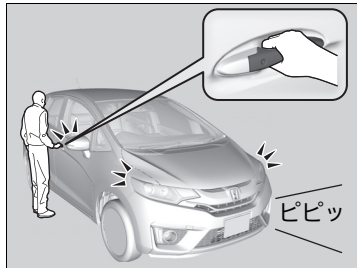
■施錠するには

運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■Honda スマートキー*での施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかつたりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルまたはテールゲートオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。



■解錠するには

運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

- ▶ 「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

※Honda スマートキー*での施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。

Honda スマートキーで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

カスタマイズ機能について

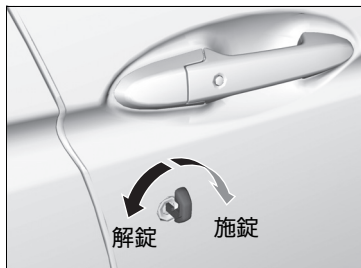
施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバック音の設定は、変更することができます。

カスタマイズ機能の詳細は Honda 販売店にご相談ください。

カスタマイズ機能	選択できる設定内容
アンサーバック音量	大 [*] 、小
アンサーバック音作動	作動 [*] 、非作動

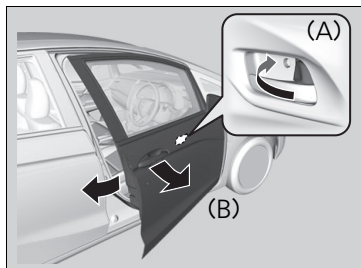
※：工場出荷時の設定

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠



キーを確実に差し込んで回します。
Honda スマートキーの場合は、内蔵キーを取り出して操作してください。

■キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込み、外側のドアハンドル(B)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

■Honda スマートキーシステム装備車

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

■Honda スマートキーシステム非装備車

キーがエンジンスイッチに差し込まれていると施錠できません。

▶▶キーを差し込んでの施錠 / 解錠

■運転席ドアでのキー操作

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■オートリトラミラー装備車

キーでのドアの施錠や解錠に連動してドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

❖ オートリトラミラー* P.109

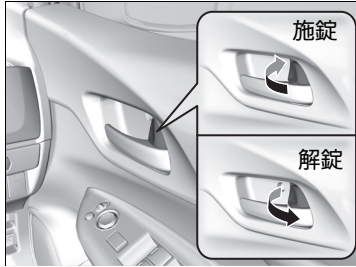
▶▶キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



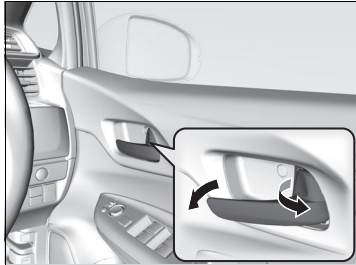
■ **施錠するには**
ノブを押し込みます。

■ **解錠するには**
ノブを引き出します。

※ ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠



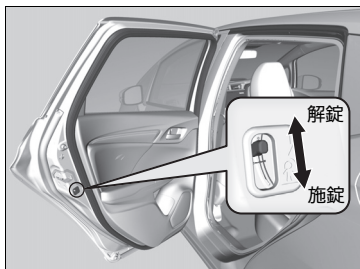
運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドブルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

※チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRSエアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグ装備車の場合で、サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

※衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■テールゲートを開けているとき

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■テールゲート閉めるとき

- キー、キーレスエントリーまたは Honda スマートキーを、カーゴスペース内に置き忘れないように注意する。

※テールゲート開閉時の注意



注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

テールゲートを開ける



Honda スマートキーシステム非装備車



Honda スマートキーシステム装備車

解錠されているときに、ハンドルを引き上げます。

▶▶ テールゲートを開ける

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

▶▶ Honda スマートキー* での施錠 / 解錠 P.82

運転席ドアを施錠したあとに、テールゲートを閉めると施錠されます。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。**ENGINE START/STOP** を押すときや、エンジンスイッチにキーを差し込むときは、下記の点に注意してください。

- **ENGINE START/STOP** またはエンジンスイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム*

セキュリティアラームシステムは、キー、キーレスエントリーまたは Honda スマートキーを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

キー、キーレスエントリーまたは Honda スマートキーで解錠するか、エンジンスイッチを **II**※1 にしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

❖イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
エンジンシステムが故障するおそれがあります。

❖セキュリティアラームシステム*

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、最大5分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動につき約30秒間作動し、その警報作動が最大10回行われます。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

Honda スマートキーシステム装備車

- パワーモードが OFF モードになっている

Honda スマートキーシステム非装備車

- エンジンスイッチを **0** にして、キーを抜く

共通

- ボンネットが閉まっている
- キー、キーレスエントリーまたは Honda スマートキーですべてのドアとテールゲートが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

キー、キーレスエントリーまたは Honda スマートキーで解錠するか、エンジンスイッチを **II**^{*1} にすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※セキュリティアラームシステム*

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーが上がり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、キー、キーレスエントリーまたは Honda スマートキーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

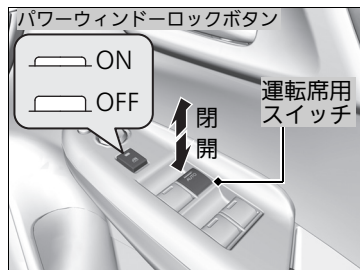
エンジンスイッチが **II**^{※1} のときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。

パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、スイッチにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON (表示灯点灯) にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■ 手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■ 自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる

自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ/下げします。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

ⓧ パワーウィンドーの開閉



警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。



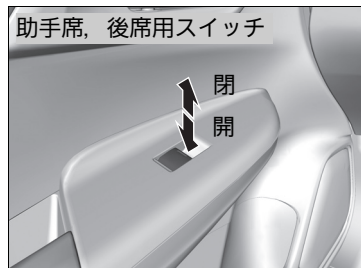
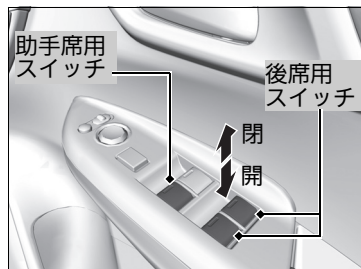
注意

指などはさみ込まないように注意する。 確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

エンジンスイッチを OFF^{※1} にしても、約 10 分間はキーオフオペレーションにより自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■ 自動開閉機能なしのウィンドーの開閉



開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

☒ パワーウィンドーの開閉

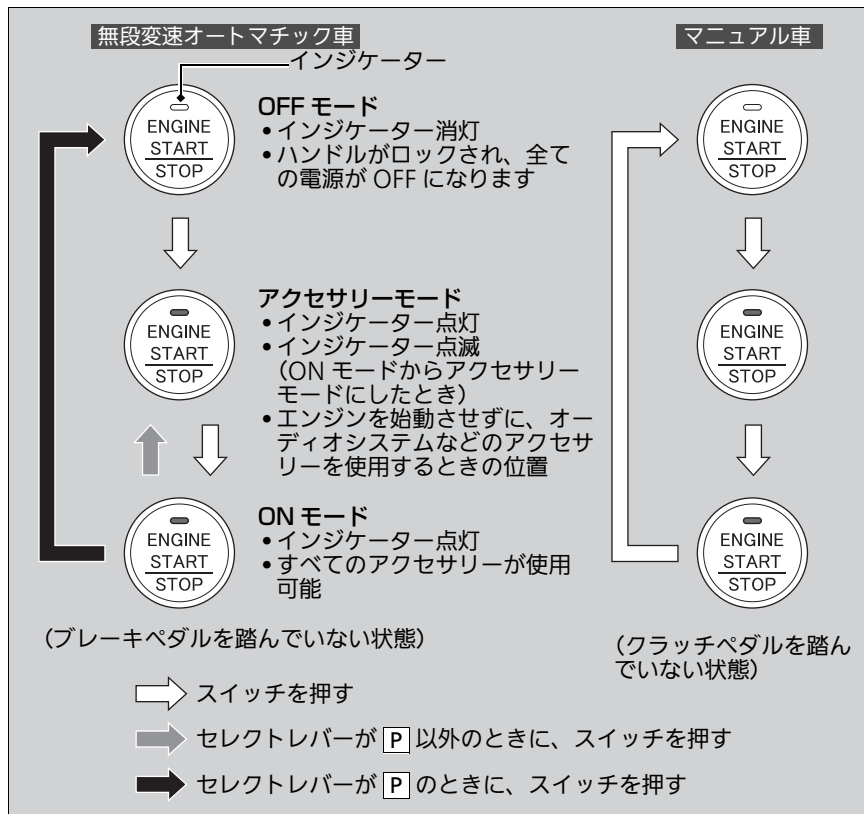
後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

ハンドルまわりのスイッチ操作

Honda スマートキーシステム装備車

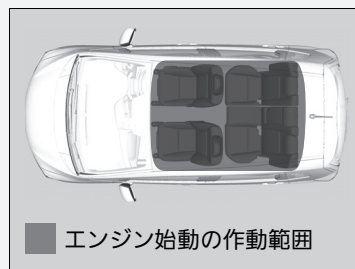
ENGINE START/STOP スイッチ

パワーモードの切り換えかた



ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合エンジンを始動できます。エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、エンジンの始動ができることがあります。

ON モード:

エンジンが始動しているときは、インジケーターが消灯します。

パワーモードが OFF モードからアクセサリモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。ハンドルロックが解除されます。

■ パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが **P** (無段変速オートマチック車) でパワーモードがアクセサリモードのときに 30 分～ 60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードと同様になります。

このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーおよび Honda スマートキーによる施錠 / 解錠ができなくなります。

ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■ パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリモードのとき

※ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

▶ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.253

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー（ピーッ
ピーッピーッピーッピーッ）と車外警告
ブザー（ピピピピピピ）の2種類があります。
警告状態が続くときは、Honda スマート
キーの携帯位置を変更してください。

■ パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドア
を閉めると、メーター内に警告を表示する
とともに、車内警告ブザーと車外警告ブ
ザーが鳴ります。

■ パワーモードがアクセサリモード のとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドア
を閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

☒ Honda スマートキー持ち去り警告

エンジン始動の作動範囲内に Honda スマート
キーを戻してドアを閉めると、警告が解除さ
れます。

Honda スマートキーを、インストルメントパ
ネル、グローブボックスなどに置いた場合、
電波状態により警告ブザーが鳴ることがあり
ます。

**Honda スマートキーを持ち出した状態で、パ
ワーモードを OFF モードにすると、パワー
モードの操作ができなくなります。**
パワーモードを操作するときは、Honda ス
マートキーを持っていることを確認してくだ
さい。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー
持ち去り警告は作動しません。

**Honda スマートキーがエンジン始動の作動範
囲内にあっても、周囲の環境や電波状態によ
り Honda スマートキー持ち去り警告が行われ
ることがあります。**

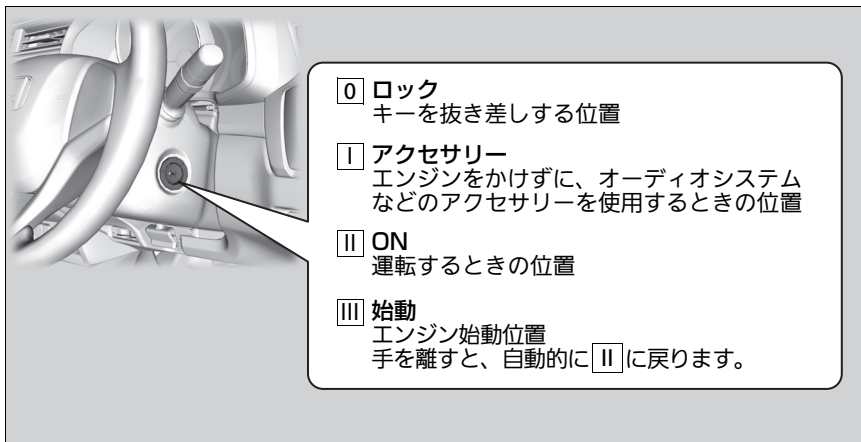
故障ではありませんので、Honda スマート
キーを持っていることを確認してください。

エンジンスイッチとパワーモードの比較

エンジンスイッチ位置	0 ロック 	I アクセサリー 	II ON 	III 始動 
Honda スマートキーシステム非装備車	<ul style="list-style-type: none"> キーを抜き差しする位置 ハンドルがロックされる位置 アクセサリ使用不可 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリを使用するときの位置 	<ul style="list-style-type: none"> 運転するときの位置 すべてのアクセサリが使用可能 	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの始動位置手を離すと自動的に II に戻り、エンジン始動
パワーモード	OFF モード 	アクセサリモード 	ON モード   インジケータ 点灯 消灯	始動 
Honda スマートキーシステム装備車	インジケータ：消灯 <ul style="list-style-type: none"> エンジン OFF ハンドルがロックされる位置 アクセサリ使用不可 	インジケータ：点灯/点滅 <ul style="list-style-type: none"> エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリを使用するときの位置 	インジケータ：点灯 - エンジン OFF 消灯 - エンジン始動中 <ul style="list-style-type: none"> すべてのアクセサリが使用可能 	インジケータ：消灯 <ul style="list-style-type: none"> エンジンの始動位置始動したら ON モードに自動的に戻ります。

Honda スマートキーシステム非装備車

エンジンスイッチ



✕エンジンスイッチ

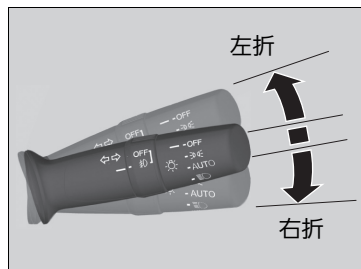
エンジンスイッチが**0**または**1**のときにキーを差し込んだまま運転席ドアを開けると、キー抜き忘れ警告ブザーが鳴ります。キーを抜いてください。ブザー音が止まります。

エンジンスイッチが**0**から**1**に回らないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながらキーを回してください。ハンドルロックが解除され、キーが回ります。

セレクトレバーを**P**に入れないとキーを抜くことができません。

方向指示器(ウィンカースイッチ)



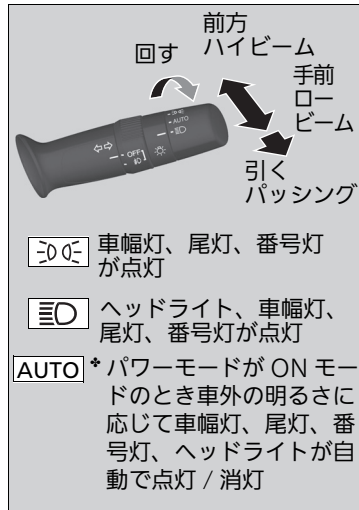
エンジンスイッチが **II**※¹ のときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

ライトスイッチ



スイッチを回すとパワーモードやエンジンスイッチの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押しします。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

▶▶ ライトスイッチ

ライトを点灯したままエンジンスイッチからキーを抜く、またはパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

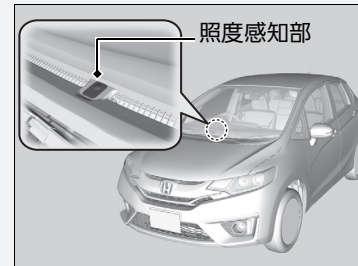
ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

▶▶ 表示灯 P.65

エンジンが止まっているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

オートライトコントロール装備車

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



■ヘッドライトオートオフ機能

エンジンスイッチを **0** ※1 にして、キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキーですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

ライトスイッチを **AUTO** * にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

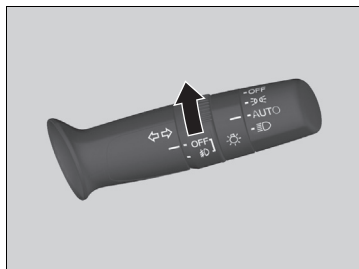
▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フォグライトスイッチ*



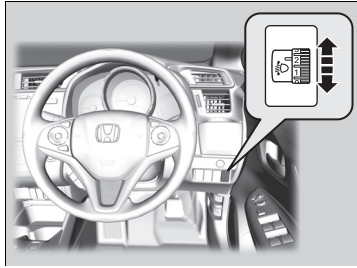
ライトスイッチが[OFF]以外のとき(ライトスイッチを[AUTO]にしているときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

☒ フォグライトスイッチ*

フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☒ 表示灯 P.65

ヘッドライトレベリングダイヤル*



エンジンスイッチが **II** ※1 のとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	1
5名乗車時	2
5名乗車でカーゴスペース満載時	3
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※ヘッドライトレベリングダイヤル*

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを **0** の位置に戻してから行ってください。

LED ヘッドライト装備車

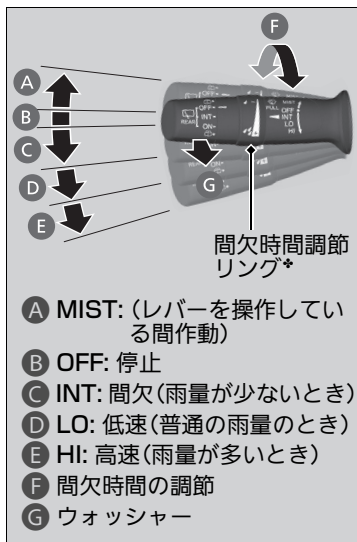
重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

ワイパー/ウォッシャー

エンジンスイッチが **II**※1 のときに使用できます。

■フロントワイパー/ウォッシャー



■MIST

レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパーズスイッチ(OFF、INT、LO、HI)

雨量により適切な位置を選択して使用します。

■間欠時間の調節*

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

● 間欠間隔が長い

● 間欠間隔が短い

■ウォッシャーズスイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※ワイパー/ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線*でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

間欠時間調節リング装備車

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが1回作動します。

間欠時間を短いほうにいっぱい回している状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

■ リヤワイパー / ウォッシャー*



エンジンスイッチが ※1 のときに使用できません。

■ リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

ワイパーは数回動作後、間欠あるいは低速動作します。

■ ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーまたはチェンジレバーを に入れるとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT(間欠)	間欠作動
LO(低速)	連続作動
HI(高速)	

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに が適用されています。

❖ ワイパー / ウォッシャー

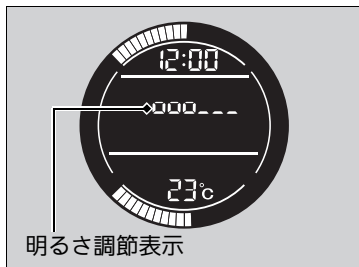
ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、エンジンスイッチを または ※1 にしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

イルミネーションコントロール



エンジンスイッチが **II**^{※1} で、ライトスイッチが **OFF** 以外するとき(オートライト装備車は、ライトスイッチが **OFF** 以外で周囲が暗いとき)、セレクト/リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

暗くする：ノブを左に回す

明るさが最大/最小になると電子音が鳴ります。

また、明るさの調節後、数秒経過するとディスプレイが元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

セレクト/リセットノブを回すとディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。

0 が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。

※イルミネーションコントロール

オートライト非装備車

ライトスイッチが **OFF** 以外するとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

オートライト装備車

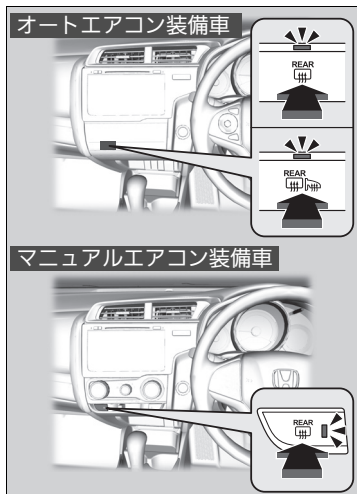
ライトスイッチが **OFF** 以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

インストルメントパネル照明が減光しているときに明るさ調節ができます。

- インストルメントパネル照明が減光しているときに **0** が全て表示されるまでセレクト/リセットノブを右に回すと、「ピッ」という音が出て車幅灯点灯時の減光が解除されます。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

リヤデフロスター/ヒートッドアミラー*



エンジンスイッチが **II**※1 のときに、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとりたいときに使用します。

オートエアコン装備車

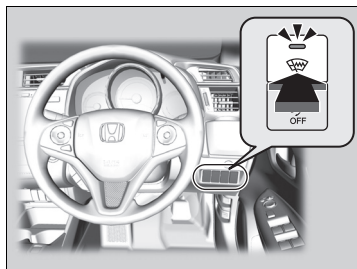
REAR アイコンを押すとシステムがONになります。

外気温に応じて約 10 ~ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

マニュアルエアコン装備車

スイッチを押すとシステムが ON になります。

フロントガラス熱線スイッチ*



パワーモードがONモードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

スイッチを押すと、フロントガラス熱線がONになります。

約 15 分経過後、自動的に停止します。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

リヤデフロスター/ヒートッドアミラー*

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。

必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいため、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使用しないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

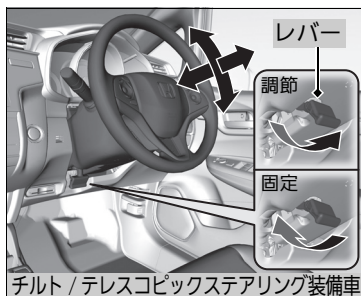
フロントガラス熱線スイッチ*

この装置は消費電力が大きいため、長時間使用しないでください。

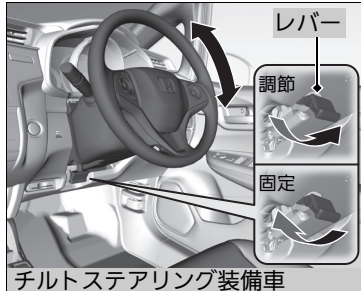
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使用するとバッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバナーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。



※ハンドルの調節

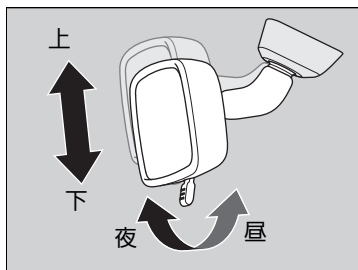
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

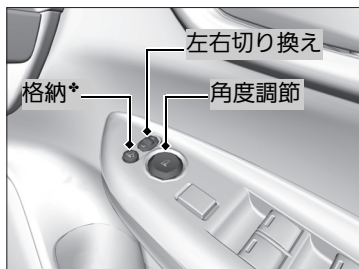
■防眩式ルームミラー

ルームミラーは夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

※ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

ドアミラー



ドアミラーの操作は、エンジンスイッチが **II***1 のときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

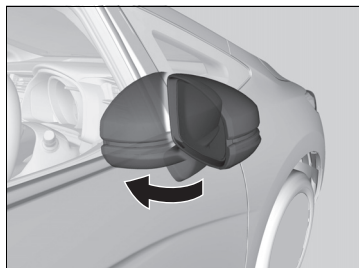
電動格納ドアミラー装備車

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

電動格納ドアミラー非装備車

ミラーを車両後方に折りたたみます。走行するときは必ず元に戻してください。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		



※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▶▶ ドアミラー

電動格納ドアミラー装備車

エンジンスイッチが **0** または **I***1 のときは、手動で格納、開放をすることもできます。

■オートリトラミラー*

キーレスエントリーや Honda スマートキーでのドアの施錠や解錠に連動して、エンジンスイッチが OFF※1 の状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

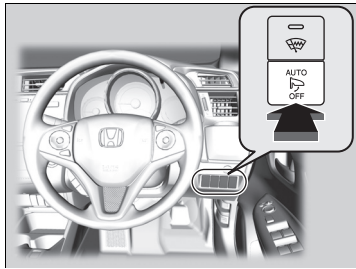
格納するとき：

- キーレスエントリーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルやテールゲートのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- キーレスエントリーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押す。
- エンジンスイッチを **II**※1 にする。

■オートリトラミラーOFFスイッチ



オートリトラミラー機能をOFFにするには、AUTO OFF スイッチを押してください。機能をONにもどすには、再度スイッチを押してください。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※オートリトラミラー*

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、キーレスエントリー/Honda スマートキーでドアミラーを格納状態から、元の位置に戻せません。

シートの調節

フロントシート

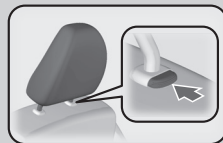
運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくブレーキペダル(マニュアル車はクラッチペダル)を十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■フロントシート/ヘッドレストの動かしかた

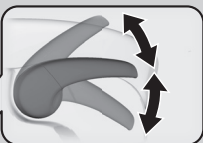
■ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる



■高さの調節*

レバーを繰り返し引き上げ/引き下げし、高さを調節



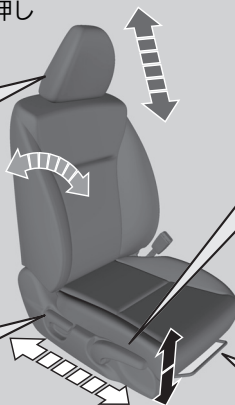
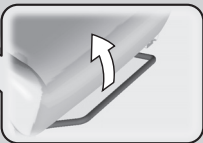
■背もたれの角度調節

レバーを引き上げながら調節



■前後位置の調節

レバーを引き上げながら、前後位置を調節



※フロントシート/ヘッドレストの動かしかた

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下にもものを置かない。

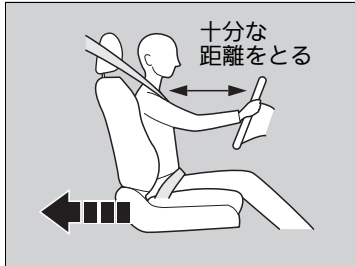
ものはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けしないでください。

■ フロントシートの調節

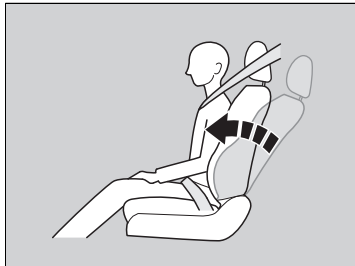


■ シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

▶ フロントシートの調節



警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。



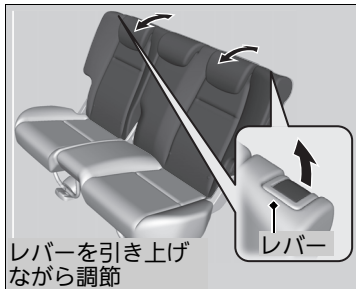
注意

背もたれと背中の上にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■ 背もたれの調節*



背もたれは、左右別々に操作することができます。レバーを引いて、背もたれの角度を調節します。

☒ リヤシート

⚠ 警告

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠ 注意

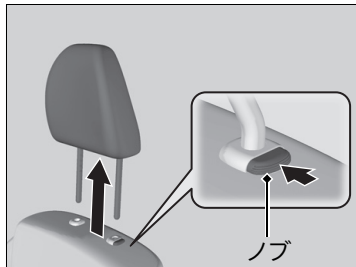
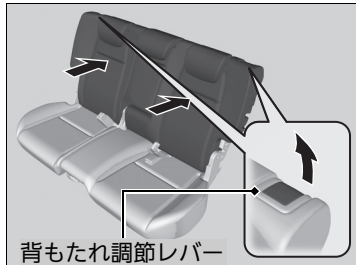
走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

■フラットシート*

フロントシート（運転席、助手席）の背もたれを倒すと、リヤシートとフラットな状態にできます。



1. リヤシートの背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを後ろへ倒して固定する。
2. ノブを押したままフロントシートのヘッドレストを外す。

※フラットシート*

⚠ 注意

フラットな状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。

ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フラットな状態で、シートの上を走り回らない。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動する。

シートの上を歩いたり、足で踏むと、シートが破損するおそれがあります。

背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作する。

背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。

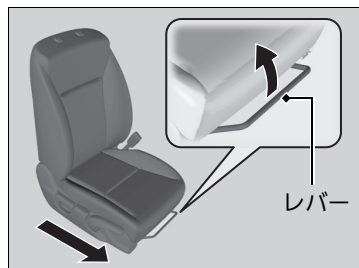
アームレスト装備車

アームレストは収納する。

リヤシートアームレスト装備車

アームレストは収納する。

つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。



3. レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱい動かす。



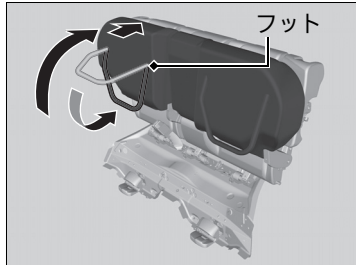
4. 背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。

■フラットシートを元に戻すとき
元に戻すときは逆の手順で行います。

※フラットシート*

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

座面をはね上げて固定する(チップアップ)*



座面は、左右別々にはね上げることができます。

■ 座面のはね上げかた

左側

1. アームレスト* を収納する。

共通

2. 座面を引き上げる。

3. 座面を背もたれに押しつけながらフットを格納して、固定する。

※座面をはね上げて固定する(チップアップ)*

⚠ 注意

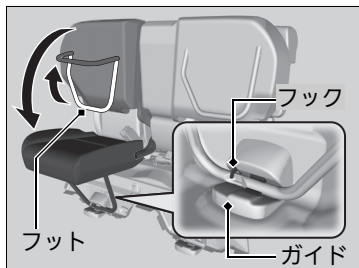
座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆずって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

座面を戻すときは、以下のことを確認する。

- ガイド周辺に異物がないか
- フロアマットがズレて、ガイドに乗り上げていないか
- 座面の下にもものやシートベルトを置いていないか

異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんとしていないと座面が確実に固定されず、走行中に座面がはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。



■戻しかた

1. 座面を押さえながら、フットをいっぱい
に開く。
▶ 座面が前に倒れ込むので必ず手を添え
て操作してください。
2. 座面を静かに前方に倒して、フットをガ
イドに入れる。
▶ ガイドからフックが出ていることを確
認してください。

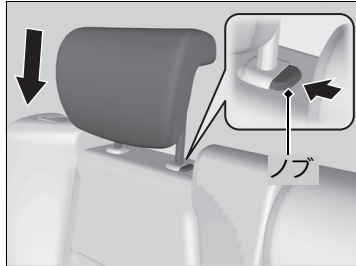
※座面をはね上げて固定する(チップアップ)*

フットを格納した状態で座面を倒さないでく
ださい。

アドバイス

座席を戻すときは、シートベルトやバックル
をはさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。
シートベルトやバックルが破損することがあ
ります。

背もたれの倒しかた



リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。

リヤセンターヘッドレスト装備車

片側ずつ独立して行えます。

■倒しかた

1. 中央の三点式シートベルトを分離・収納する。
 ❑分離収納式シートベルト P.31
2. ヘッドレストを下げ、アームレスト*を元に戻す。

❑背もたれの倒しかた

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

以下のような場合、ヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。

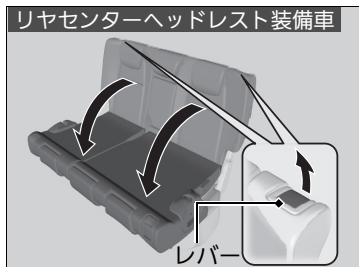
- フロントシートの背もたれを後ろに倒したとき
- シートバックポケットにもものが入ったままりヤシートを格納するとき

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にもものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。

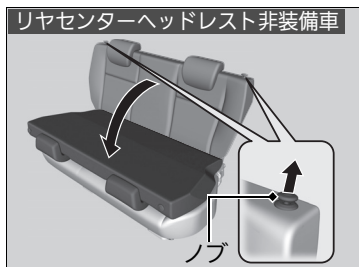
シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。



リヤセンターヘッドレスト 装備車

3. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。



リヤセンターヘッドレスト 非装備車

3. 背もたれのノブを引き、前方に倒す。

■戻しかた

背もたれを起こして固定します。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

※背もたれの倒しかた

背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。

急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

リヤセンターヘッドレスト 装備車

シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

共通

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

はさまれると正しく着用できません。
シートベルトが破損することがあります。

ヘッドレスト

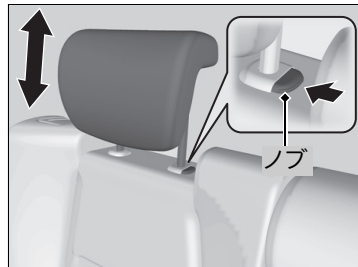
■ フロントシートヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる
低くするとき：ノブを押しながら下げる

■ リヤシートヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる
低くするとき：ノブを押しながら下げる

▣ ヘッドレスト



ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

▣ リヤシートヘッドレストの位置変更



ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト*

■ フロントシートアームレスト*



■ リヤシートアームレストの操作*



前に倒して使います。

※アームレスト*

⚠ 注意

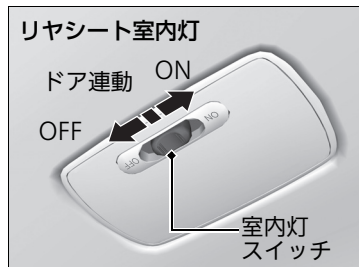
シートベルト着用時にアームレストに引っ掛けない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アームレストに腰をかけたたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

室内灯スイッチ



■ON(リヤシート室内灯)

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき

Honda スマートキーシステム装備車

- パワーモードを OFF モードにしたとき

Honda スマートキーシステム非装備車

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。

- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき

Honda スマートキーシステム装備車

- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

Honda スマートキーシステム非装備車

- キーを抜いてドアを開けなかったとき

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席のドアを施錠したとき

Honda スマートキーシステム装備車

- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき

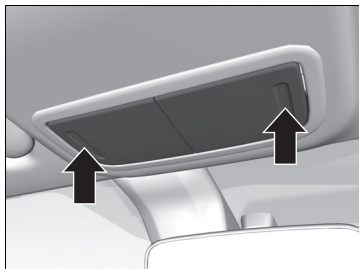
- パワーモードを ON モードにしたとき

Honda スマートキーシステム非装備車

- エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき
- エンジンスイッチを **II** にしたとき

ライトを点灯させたまま、エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態、またはパワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

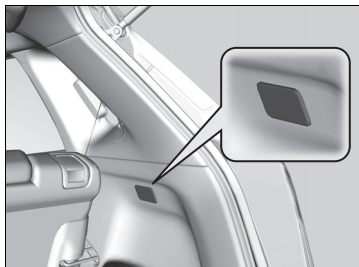
■ マップランプ*



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

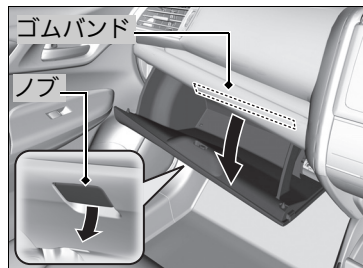
■ カーゴスペース照明灯*



テールゲートを開けると点灯します。

室内装備品

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

内側にゴムバンドが付いています。

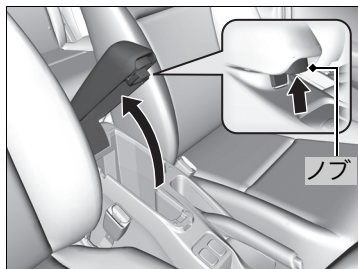
※グローブボックス



警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

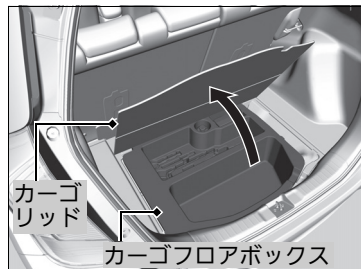
■ センターコンソールボックス*



ノブを引くと開きます。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ カーゴフロアボックス



カーゴリッドを開けます。

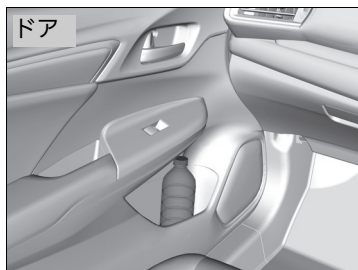
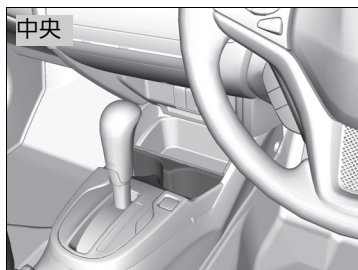
☒ カーゴフロアボックス



走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ドリンクホルダー



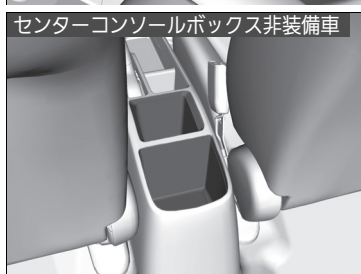
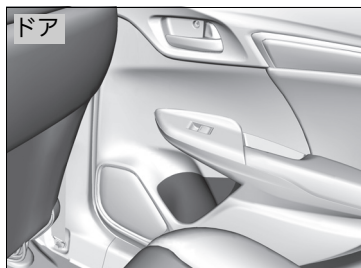
■ フロントシート用ドリンクホルダー
側面のドリンクホルダーは前面部分を手前に引いて使用します。

☒ ドリンクホルダー

⚠ 注意

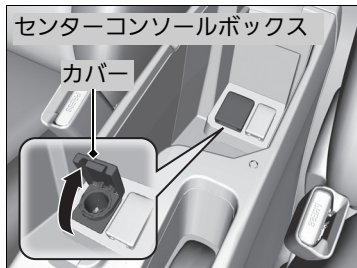
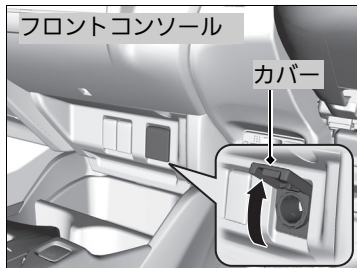
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



■リヤシート用ドリンクホルダー

アクセサリースOCKET



エンジンスイッチが **I** または **II**※1 のときに使用できます。

■フロントコンソールのアクセサリースOCKET

カバーを開けて使います。

■センターコンソールボックス内のアクセサリースOCKET*

ノブを引いてセンターコンソールボックスを開け、カバーを開けて使います。

※アクセサリースOCKET

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。

アクセサリースOCKETを両方同時に使用する場合は、それぞれの消費電力が 180W(15A)を超えないようにしてください

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■コートフック*



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

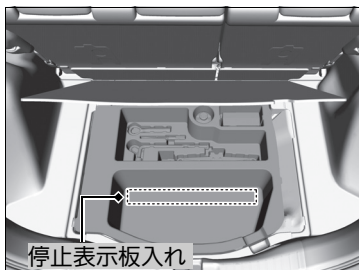
※コートフック*

⚠ 注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

停止表示板入れ



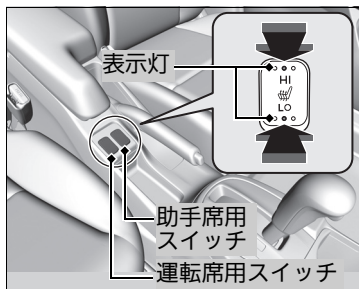
カーゴリッドの下に停止表示板入れがあります。

☒ 停止表示板入れ

収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ ...427mm 以下
- 高さ ...116mm 以下
- 幅 ...48mm 以下

■シートヒーター*



パワーモードがONのときに使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

スイッチの **HI** 側か **LO** 側を押します。シートを早く暖めたいときは **HI** 側を押します。暖まったら **LO** 側にしてください。作動中、押ししている側の表示灯が点灯します。

スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

※シートヒーター*



警告

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

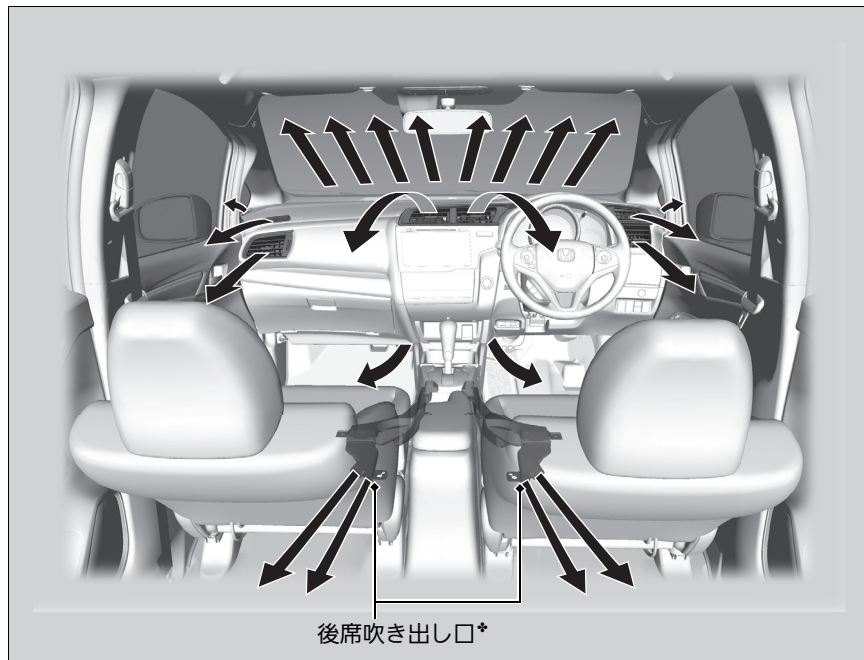
この装置は消費電力が大きいので、エンジンが停止しているときは長時間使わないでください。

バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアコン

エアコンの吹き出し口

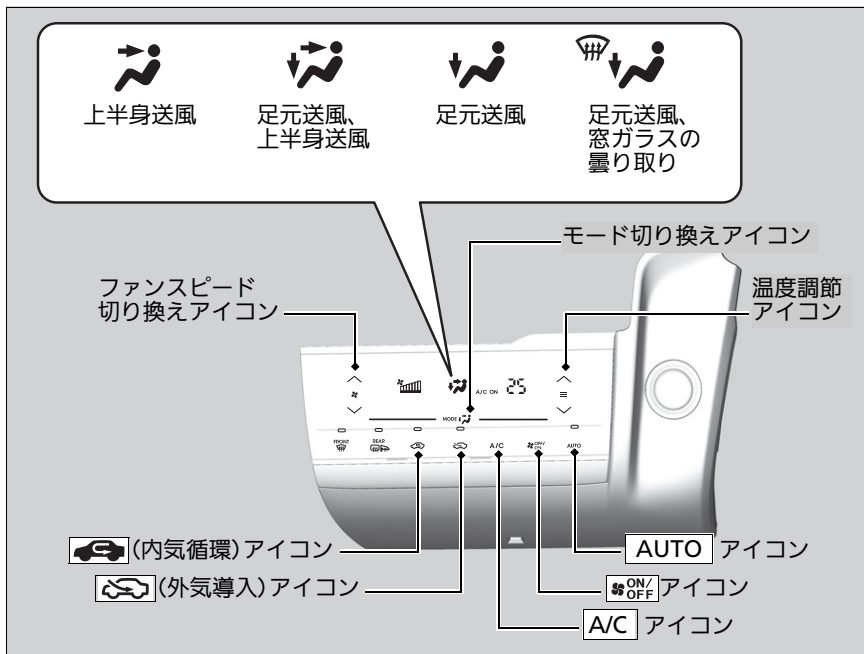


※エアコン

Honda インターナビシステム装備車

音声操作の詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた*



エンジンを始動してから使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 温度調節アイコン(∧/∨)を押して温度を調節する。
3. 停止するときには、**ON/OFF** を押す。

☒ オートエアコンの使いかた*

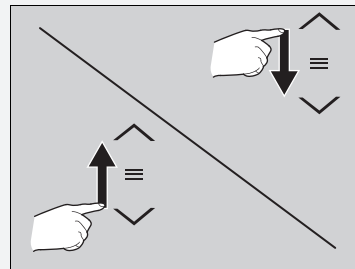
オート(AUTO)で使用しないずれかのアイコンを押すと、そのアイコンの機能が優先されます。このとき**AUTO**の表示灯は消灯しますが、選択したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO**を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。



設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

温度調節アイコンやファンスピード切り換えアイコン部分を指でスライドさせると、設定値を変更できます。



■内気 / 外気の切り換え


状況に合わせて 、 を押して、内気 / 外気を切り換えます。

-  内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
-  外気(表示灯点灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に  を押すと、除湿暖房となります。

※オートエアコンの使いかた*


 を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻りません。


アイドリングストップ中は送風に切り換わります。

急な上り坂などでは、走行性能を優先させるため、エアコンが作動しないことがあります。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた



 を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

 をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■ 急速に霜を取りたいとき

1.  を押す。
2.  を押す。

▶▶ 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。


冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。


内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■ 無段変速オートマチック車

アイドリングストップ中に  を押すと、エンジンが自動的に再始動します。

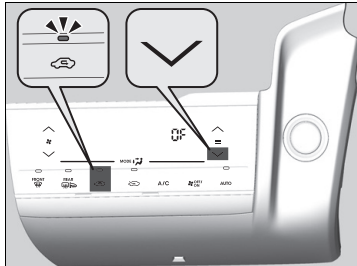
■ マニュアル車



アイドリングストップ中に曇り止めを使うときは、以下の手順により、エンジンを自動的に再始動させてください。

1. チェンジレバーを **N** (ニュートラル) にしていることを確認する。
2. クラッチペダルをいっばいに踏み込む。
3.  を押す。

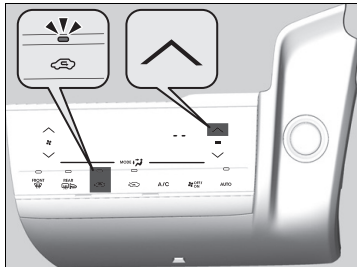
タッチパネル操作音の ON と OFF



エアコンのタッチパネルを操作すると、確認のため音が鳴ります。この音を OFF にしたい場合は、下記の手順で設定してください。



1. パワーモードを ON モードにする。
2.  を押したまま、温度下方調節アイコン(∨)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「-」が 5 回点滅した後、「OFF」が表示されたことを確認してから  を離す。

OFF から ON に戻す場合は、下記の手順で設定してください。

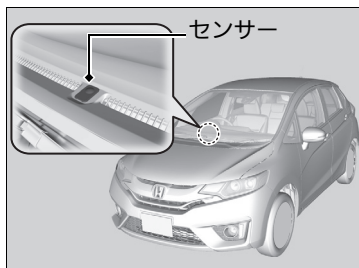


1. パワーモードを ON モードにする。
2.  を押したまま、温度上方調節アイコン(∧)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「OFF」が 5 回点滅した後、「-」が表示されたことを確認してから  を離す。

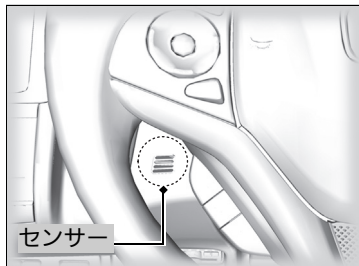
※タッチパネル操作音の ON と OFF

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

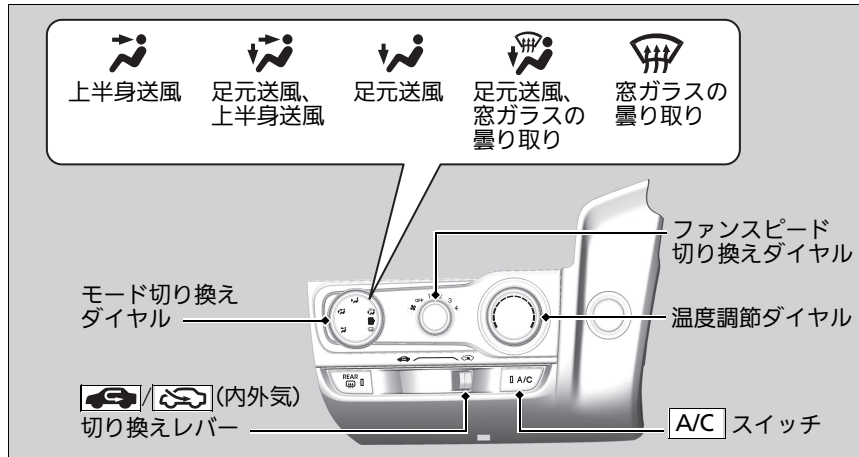
オートエアコンのセンサー*



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



マニュアルエアコンの使いかた*



エンジンを始動してから使用します。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで風量を調節する。
2. モード切り換えダイヤルで吹き出し口を選ぶ。
3. 温度調節ダイヤルで吹き出し風の温度を調節する。
4. 冷房や除湿暖房をするときは、**A/C** を押す。
5. 停止するときは、ファンスピード切り換えダイヤルを **OFF** にする。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて、内外気切り換えレバーを操作して内気 / 外気を切り換えてください。

- 内気：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気：換気を行う場合

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

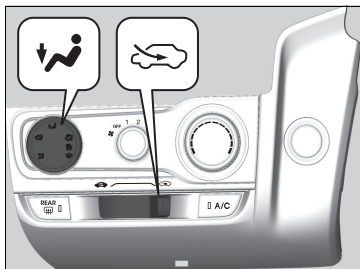
次ページに続く

※マニュアルエアコンの使いかた*



アイドリングストップ中でも、エアコンを連続して効かせたい場合は、 を押してシステムを OFF にしてください。

■ **アイドリングストップシステムOFFスイッチ**
P.164




■暖房のしかた



暖房はエンジンの熱を利用して、車内の空気を暖めます。




1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4.  に切り換える。

■急速に車内を暖めたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強()にする。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大温風にする。
4.  に切り換える。

■曇り止め暖房をしたいとき

エアコンをONにすると除湿暖房ができます。外気が除湿され、乾燥した空気で車内を暖めるので、曇り止めに役立ちます。

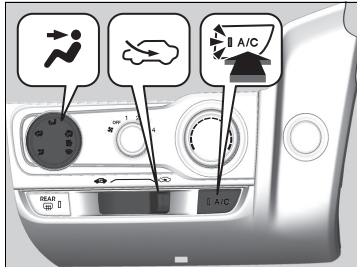
1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4.  を押す。(表示灯点灯)
5.  に切り換える。



※暖房のしかた

急速暖房で車内が暖まったら、ただちに外気導入に切り換えてください。



内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

冷房のしかた

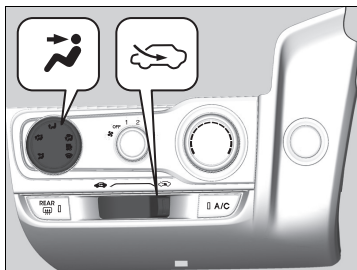


1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. **A/C** を押す。(表示灯点灯)
5.  に切り換える。



■急速に車内を冷やしたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強 (**4**) にする。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大冷風にする。
4. **A/C** を押す。(表示灯点灯)
5.  に切り換える。

換気のしかた



空気取り入れ口から外気を取り込み、車内の空気を循環させて後部のサイドパネル付近の排出口から排出し、換気します。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大冷風付近にする。
4.  に切り換える。

❖冷房のしかた

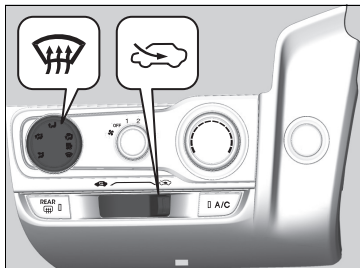
急な上り坂などでは、走行性能を優先するため、エアコンが作動しないことがあります。



炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら冷房を開始してください。

急速冷房で車内が冷えたら、ただちに外気導入に切り換えてください。




内気循環で使い続けると車内の空気が汚れます。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた






1. ファンスピード切り換えダイヤルを回し、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4.  に切り換える。

■ 急速に霜を取りたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強 () にする。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大温風にする。
4.  に切り換える。

■ 湿度の高いとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4.  を押す。(表示灯点灯)
5.  に切り換える。


※ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

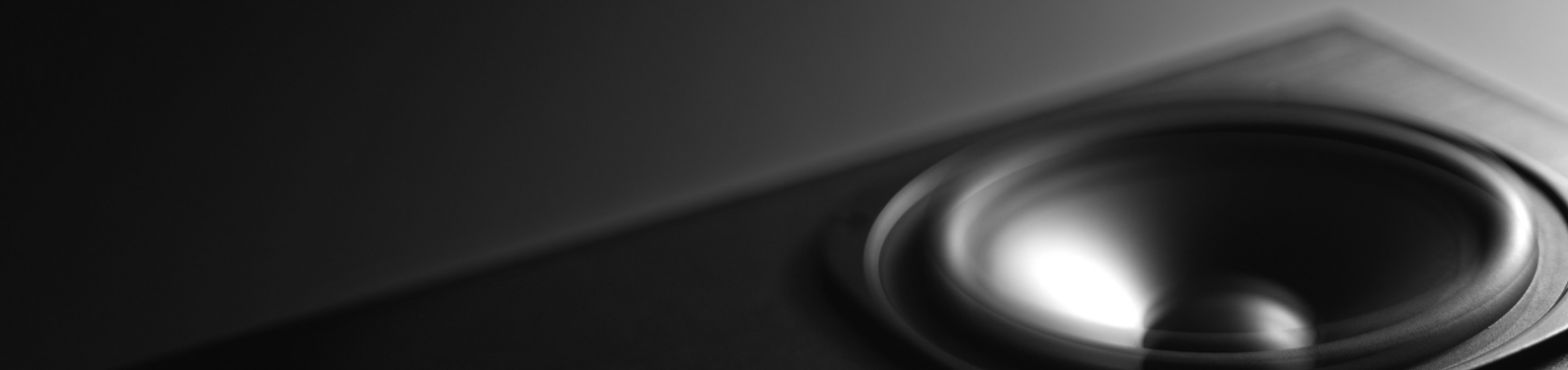
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

エアコンをONにしているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。

冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

アイドリングストップ中にファンスピードをOFF以外、モード切り換えダイヤルを  にすると、エンジンが自動的に再始動します。

オーディオ



オーディオ装置*	
アンテナ	145

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

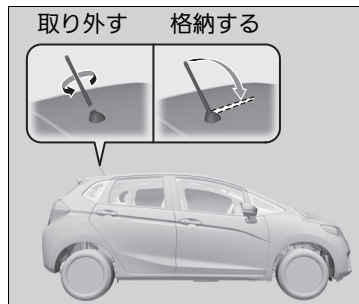
オーディオ装置*

Honda インターナビシステム装備車

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

アンテナ

■ マイクロアンテナ



マイクロアンテナは格納、取り外しができません。
ラジオを受信するときは、アンテナを節度感のあるところまで立ててください。

※ マイクロアンテナ

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリなどについて記載しています。



運転の前に.....	147	クルーズコントロール*	173	リヤワイドカメラシステム*	192
運転操作		VSA(ビークルスタビリティアシスト)	176	給油	
エンジンの始動.....	149	4WD(四輪駆動機構)*	177	指定燃料について	193
走行時の注意点.....	152	ブレーキ操作		給油のしかた	193
無段変速オートマチックについて	155	ブレーキシステム	178	アクセサリと改造	196
シフト操作.....	156,160,162	ABS(アンチロックブレーキシステム)	180		
アイドリングストップシステム(無段変速 オートマチック車).....	164	電子制御ブレーキアシスト	181		
アイドリングストップシステム(マニユ アル車)	168	エマージェンシーストップシグナル ..	182		
ECON スイッチ*	172	シティブレーキアクティブシステム*	183		
		駐停車操作			
		駐車する	190		

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
■ **タイヤの点検と整備** P.219
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？

※車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

※車内での確認項目

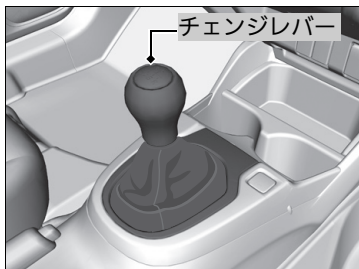
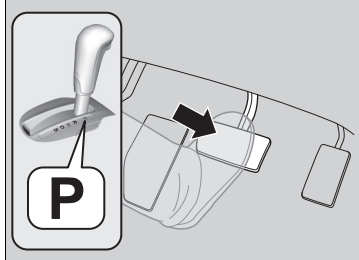
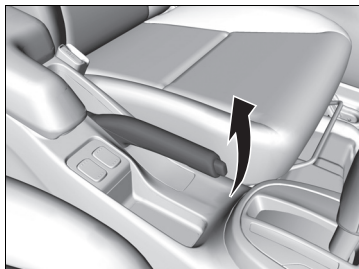
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車にあったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
☒ **シートの調節** P.110
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
☒ **ミラー類の調節** P.107
☒ **ハンドルの調節** P.106
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
☒ **シートベルトの着用** P.28
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが確実に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
☒ **車内での施錠 / 解錠** P.85
- エンジンかけたとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
☒ **警告灯** P.58

エンジンの始動



共通操作

1. パーキングブレーキをかける。

無段変速オートマチック車

2. セレクトレバーが **P** であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
▶ **N** でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される **P** で行ってください。

マニュアル車

2. チェンジレバーが **N** (ニュートラル) であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。
▶ 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。

※エンジンの始動

警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

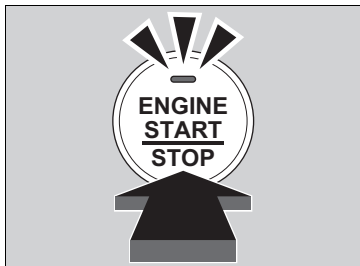
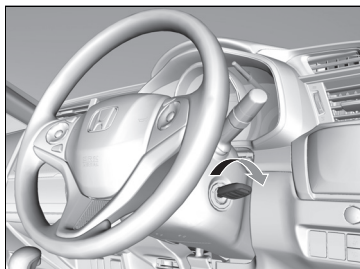
バッテリーが破裂するおそれがあります。

注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリをOFFにしてから行います。

寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリをすべてOFFにしてから行ってください。



Honda スマートキーシステム非装備車

3. アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチを **III** に回す。

Honda スマートキーシステム装備車

3. アクセルペダルを踏まずに、**ENGINE START/STOP** を押す。

エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. セレクトレバーを **P** にする (無段変速オートマチック車)。

Honda スマートキーシステム装備車

2. **ENGINE START/STOP** を押す。

Honda スマートキーシステム非装備車

2. エンジンスイッチを、ゆっくりと **0** まで回す。
▶ エンジンスイッチを **0** にすると、ハンドルがロックされます。

※エンジンの始動

エンジンがかからない場合は、10秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。

▶ イモビライザーシステム P.89

Honda スマートキーシステム装備車

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **ENGINE START/STOP** に触れてください。

▶ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.253

Honda スマートキーシステム非装備車

エンジンスイッチを 15 秒以上 **III** にしないでください。

エンジンスイッチを **III** にしたらすぐに、手を離してください。自動的に **II** に戻ります。エンジンスイッチはエンジンが始動するまで回し続ける必要はありません。

発進時の操作

無段変速オートマチック車

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを **D** にする。
 - ▶ 後退する場合は **R** にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
 - ▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
 - ❏ **パーキングブレーキ** P.178
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

❏発進時の操作



注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

■マニュアル車

エンストした後、約3秒以内にクラッチペダルをいっぱい踏み込むとエンジンが自動的に再始動します。

ただし、車両状態によっては、自動的に再始動しないことがあります。

❏ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを **N にしないでください。**

エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

下り坂を利用した移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

☒雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■ その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

※ その他の注意点



注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。

- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車

無段変速オートマチックについて

■ クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると動力が繋がった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■ キックダウン

セレクトレバーが **D** **S** **L** で走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

☒ クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。

エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

☒ キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。

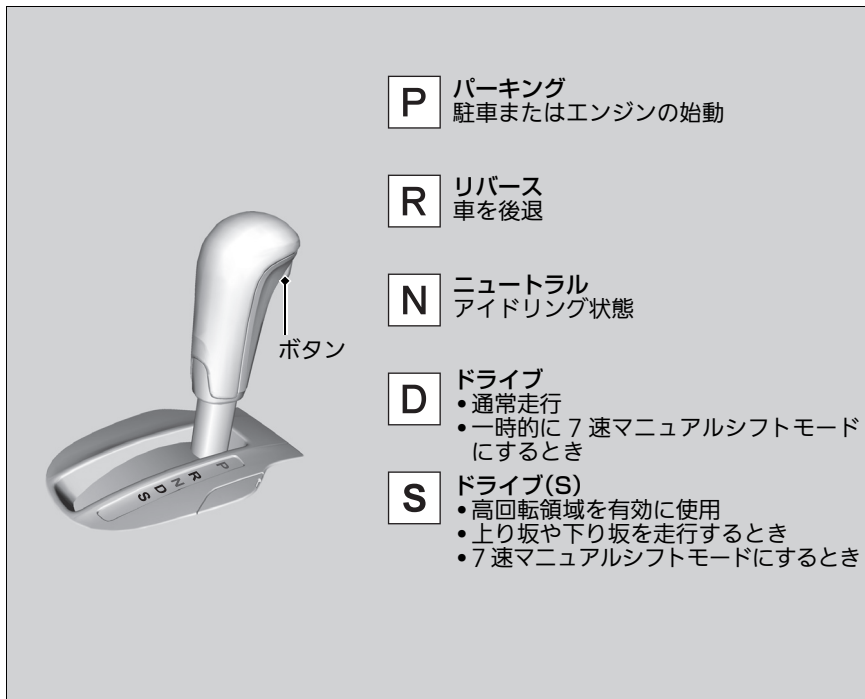
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

7速マニュアルシフトモード装備車

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



※シフト操作

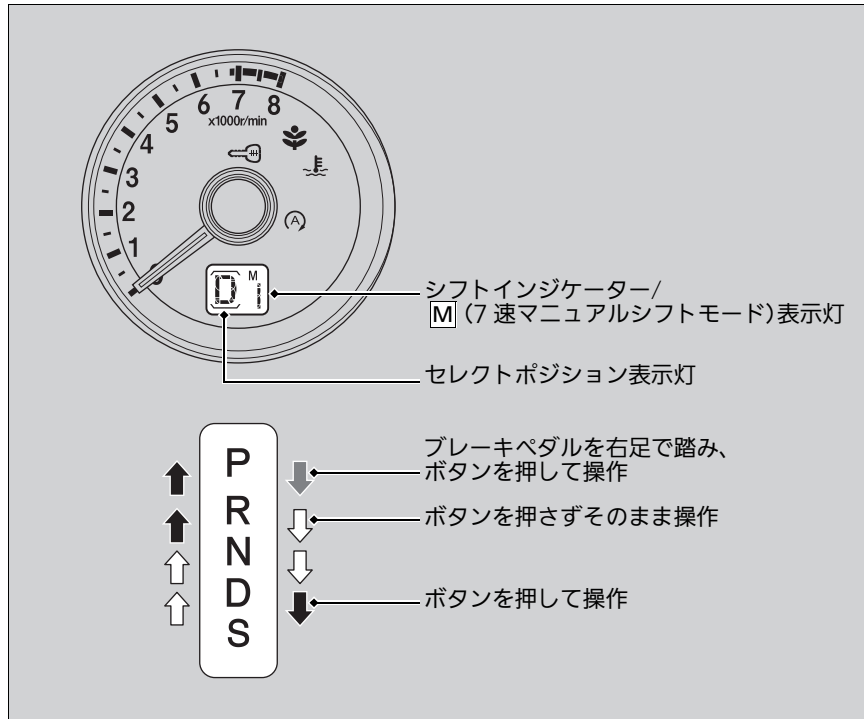
セレクトレバーが **P** 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが **R** に入っていることを知らせます。

N のときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にセレクトレバーポジション表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い (マイナス 30 度以下) と
き、セレクトポジションの表示の切り替わり
が少し遅れることがあります。走行前は必ず
セレクトポジションを確認してください。

■ 7速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジブレーキが必要なときにも、使用してください。

■セレクトポジションが **D** のとき

一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケータが点灯します。

一定速走行や加速の状態になると、7速マニュアルシフトモードは自動的に解除されます。また、**+**のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けることでも解除することができます。

カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■セレクトポジションが **S** のとき

7速マニュアルシフトモードとなり、**M**表示灯とシフトインジケータが点灯します。

シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると1速にシフトダウンします。

車速が上がりエンジン回転数が限界回転数(レッドゾーン)に近づくと、自動的に1段シフトアップします。

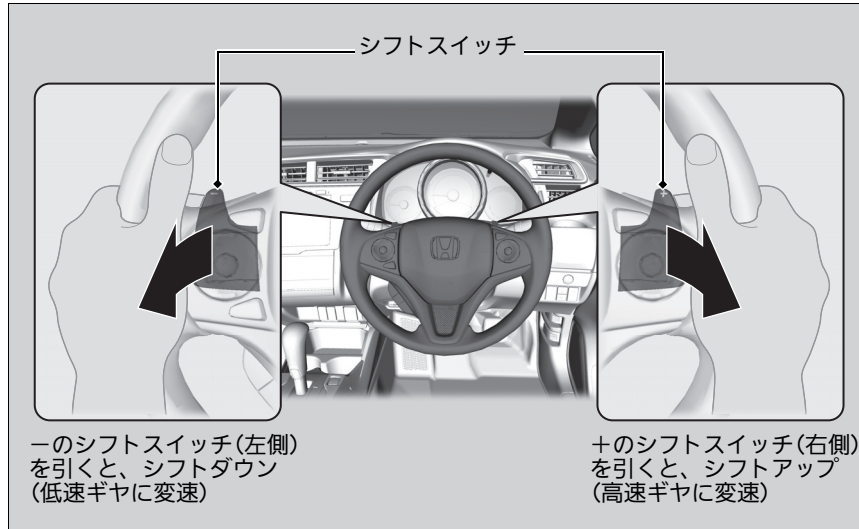
発進は1速でのみ行うことができます。

モードを解除する場合は、セレクトレバーを**S**から**D**に動かしてください。

7速マニュアルシフトモードが解除され、**M**表示灯とシフトインジケータが消灯します。

■ 7速マニュアルシフトモードの操作

1回のシフトスイッチ操作で、ギヤは1段変速します。



※7速マニュアルシフトモードの操作

シフトスイッチを操作したとき、操作後のエンジン回転数が許容範囲外になる場合は、変速せず表示灯が点滅します。

エンジン保護する為に、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。

滑りやすい路面でシフトスイッチを操作したときに、タイヤがロックするような場合、7速マニュアルシフトモードから通常走行に戻る場合があります。

低速時にシフトスイッチを操作したとき、トランスミッションを保護するため、変速せずに表示灯が点滅することがあります。

シフト操作

7 速マニュアルシフトモード非装備車

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
アイドリング状態

D ドライブ
通常走行

S ドライブ(S)
• 高回転領域を有効に使用
• 上り坂や下り坂を走行するとき

L ロー
強いエンジンブレーキが必要なとき

※シフト操作

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが **R** に入っていることを知らせます。

N のときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

Honda スマートキーシステム装備車

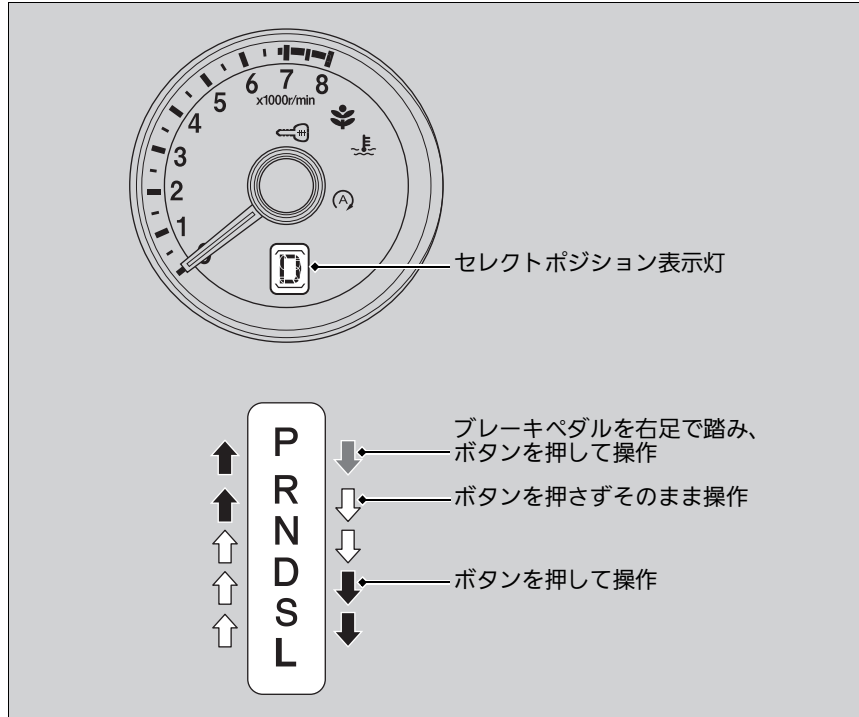
セレクトレバーが **P** 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

Honda スマートキーシステム非装備車

セレクトレバーが **P** 以外のときは、エンジンスイッチが **0** まで回らないため、キーを抜くことはできません。

■ セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



☒ セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にセレクトレバーポジション表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い (マイナス 30 度以下) ととき、セレクトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずセレクトポジションを確認してください。

シフト操作

マニュアル車

チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。

6MT車



5MT車



チェンジレバーの操作

アドバイス

車が完全に止まらないうちは **R** に入れないでください

トランスミッション破損の原因となります。

6MT車

誤動作を防ぐため、一定車速以上では **R** へ直接チェンジレバーを切り換えることはできません。

停車しても **R** に入らないときは、一度 **N** (ニュートラル) へ戻し、**1**、**2** 側へ倒してから **R** に入れてください。

5MT車

誤操作を防ぐため、**5** から **R** へ直接チェンジレバーを切り換えることはできません。

一度 **N** (ニュートラル) へ戻してから **R** に入れてください。

シフトダウンする際は、タコメーターのレッドゾーンに入らないように適切な車速で操作してください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じるがありますが、異常ではありません。

Rに入らないとき**6MT車**

一度 **N** (ニュートラル) へ戻し、**1**、**2** 側へ倒してから **R** に入れても入らない場合は下記の操作をしてください。

**5MT車**

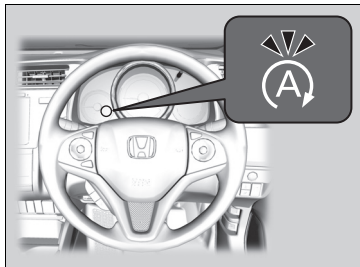
誤動作を防ぐため、**5** から **R** へ直接シフトを操作することはできません。最初に **N** (ニュートラル) へ入れてから **R** に入れてください。

※ **R**に入らないとき

この操作を毎回しないと **R** に入らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯が点灯します。



表示灯が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

❑ アイドリングストップシステム(無段変速オートマチック車)

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。

指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は指定されたバッテリーを使用してください。

詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

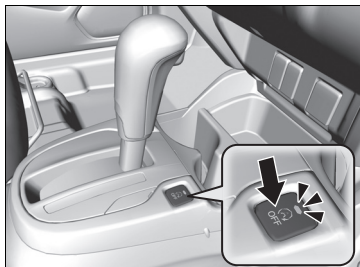
❑ **仕様** P.278, P.280, P.282

オートエアコン装備車

ECON スイッチを ON にしていると、エアコン使用中のアイドリングストップ時間が長くなります。

❑ **ECON スイッチ*** P.172

■ アイドリングストップシステム OFF スイッチ



アイドリングストップシステムをOFFにするには、**(A)**を押してください。

スイッチ内の表示灯が点灯し、システムがOFFになります。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的にONになります。

❑ アイドリングストップシステム OFF スイッチ

アイドリングストップ中に**(A)**を押すと、エンジンが再始動します。

■ アイドリングストップをする

停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。


■ アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
- セレクトレバーを **[D]** 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
 - ▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5℃ 以下のとき


■ キャパシタ電源システム装備車

- キャパシタ（短時間に大容量の電力の充放電ができる蓄電器）の状態が良好でないとき

■ オートエアコン装備車

- 外気温が -20℃ 以下または 40℃ 以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
-  が ON のとき

■ マニュアルエアコン装備車

- エアコンの風量が 1 段階以上で、モード切り換えダイヤルを  にしたとき

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

[ENGINE START/STOP] が適用されています。

※ アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。

ボンネットを開けたときは、セレクトレバーを **[P]** にして、エンジンスイッチ※1でエンジンを再始動させてください。

▶ **エンジンの始動** P.149

■ Honda スマートキーシステム装備車

アイドリングストップ中に、

[ENGINE START/STOP] を押すとアクセサリモードになり自動で再始動しません。

通常のエンジンの始動操作をしてください。

▶ **エンジンの始動** P.149

■ Honda スマートキーシステム非装備車

アイドリングストップ中に、エンジンスイッチを **[III]** にしてもエンジンは始動しません。

■アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- エアコン風量が多いとき
- 標高が高いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき


オートエアコン装備車

- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高いとき


■ エンジンが自動的に再始動する

ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。


■ ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件

- を押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- セレクトレバーを **R**、**L**、**S** にしたとき、または **N** から **D** に操作したとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき

■ オートエアコン装備車

- を押したとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高くなったとき

■ マニュアルエアコン装備車

- エアコンの風量が1段階以上で、モード切り換えダイヤルを  にしたとき

■ 発進補助ブレーキ機能

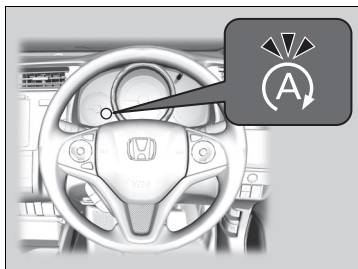
アイドリングストップからの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持し、坂道で車を下がりやすくします。

※ エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

アイドリングストップシステム(マニュアル車)

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯が点灯します。



表示灯が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

※アイドリングストップシステム(マニュアル車)

車から離れるときは、エンジンを停止してください。

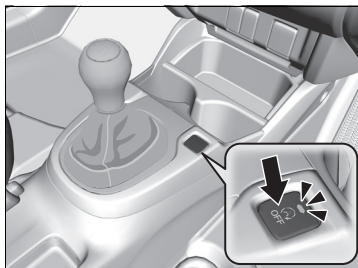
アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。

指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は指定されたバッテリーを使用してください。

詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

■仕様 P.278, P.282

■アイドリングストップシステム OFF スイッチ



アイドリングストップシステムをOFFにするには、**OFF**を押してください。

スイッチ内の表示灯が点灯し、システムがOFFになります。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的にONになります。

※アイドリングストップシステム OFF スイッチ

アイドリングストップ中に**OFF**を押すと、エンジンが再始動します。

■ アイドリングストップをする

停車時に、クラッチペダルをいっばいに踏み込み、チェンジレバーを **[N]** (ニュートラル) にします。その後、クラッチペダルから足を離すとアイドリングストップします。

▶ エンジンの自動再始動のため、停車時はチェンジレバーを **[N]** にしてください。

■ アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、3km/h に達しないまま停車したとき
- チェンジレバーを **[N]** 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
 - ▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5℃ 以下のとき
- 外気温が -20℃ 以下または 40℃ 以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
- **[FRONT]** が ON のとき

⊗ アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。

ボンネットを開けたときは、

[ENGINE START/STOP] でエンジンを再始動させてください。

▶ **エンジンの始動** P.149

アイドリングストップ中に、

[ENGINE START/STOP] を押すと OFF モードになり自動で再始動しません。通常のエンジンの始動操作をしてください。

▶ **エンジンの始動** P.149

■アイドリングストップしないことがある条件

- エアコンの風量が多いとき
- ハンドルを動かしているとき
- 標高が高いとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高いとき

■エンジンが自動的に再始動する

クラッチペダルをいっばいに踏み込むとエンジンが自動的に再始動します。

■クラッチペダルを踏まなくてもチェンジレバーが **N** (ニュートラル) の位置で、エンジンが自動的に再始動する条件

- **A**を押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき

■エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップシステムに異常があるときは再始動ができません。

通常のエンジン始動操作をしてください。

■ エンジンの始動 P.149

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

アイドリングストップ中に、以下の操作をすると、エンジンが自動で再始動しません。

- 運転者がシートベルトを外す
アイドリングストップを継続させるには、すぐにシートベルトを着用してください。
- チェンジレバーを **N** 以外に動かす
チェンジレバーを **N** に戻してください。

■ チェンジポジション **N** 移動警告灯 P.63

システムが停止した場合、通常のエンジンの始動操作をしてください。

■ エンジンの始動 P.149


■ アイドリングストップ中に表示灯(グリーン)が点滅したとき

クラッチペダルをいっぱいに踏んでください。

- ▶ エンジンが自動的に再始動します。

☒ アイドリングストップ中に表示灯(グリーン)が点滅したとき


以下のような状態になると、表示灯が点滅します。

- 窓ガラスが曇る可能性があるとき
- 快適性が維持できないとき(エアコンが必要なとき)
- を押したとき

ECON スイッチ*



スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、オートエアコン*、クルーズコントロール* の作動を制御して、省エネ運転をしやすいように制御します。

エンジンスイッチが *1 のときにスイッチを押すと、ECON モードが ON になりメーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

※ECON スイッチ*

オートエアコン装備車

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

クルーズコントロール*

高速道路のような加速/減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。

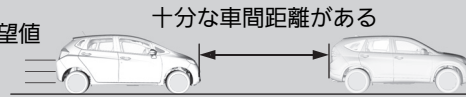
こんなときに

■使用できるシフトポジション

D [S] のとき(無段変速オートマチック車)

■使用できる車速

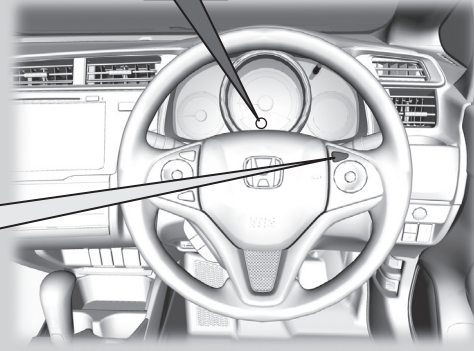
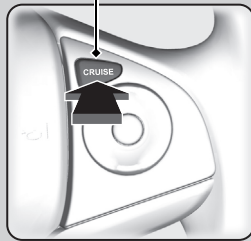
約 30 ~ 100km/h の範囲の希望値



操作

■ハンドルの [CRUISE] スイッチを押す

[CRUISE]
スイッチ



点灯

CRUISE
MAIN

メーターの CRUISE
MAIN が点灯
クルーズコントロール
が ON になります。

⚠ クルーズコントロール*



下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

● 混んでいて、車間距離が十分にとれない道路

道路状況に合った速度で走行できません。

● 急な下り坂のある道路

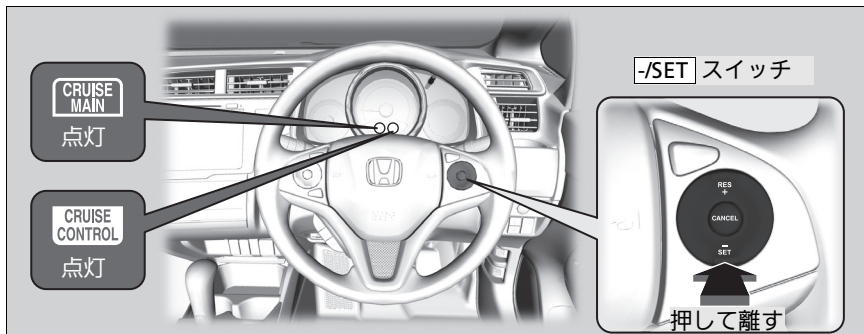
エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。

● 凍結や積雪などで滑りやすい道路

タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

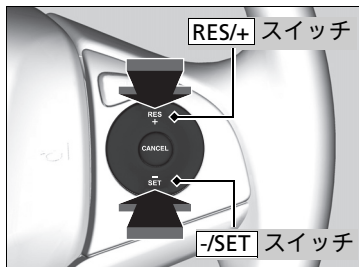
車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、**[-/SET]** を押します。
[-/SET] を離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。
同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が点灯します。

車速を調節するには

手元の **[RES/+]** と **[-/SET]** の操作で、車速を上げ / 下げすることができます。



[RES/+] スイッチ

- 1回押すごとに約1.5km/hずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離れたときの車速に固定

[-/SET] スイッチ

- 1回押すごとに約1.5km/hずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離れたときの車速に固定

※クルーズコントロール*

ECON スイッチ 装備車

ECON モードのときは、よりスムーズな加速となります。

マニュアル 車

エンジン回転数が下がったときは、シフトダウンをしてください。
クラッチペダルを踏んでから5秒以内にシフトチェンジすれば、設定した車速を維持できません。

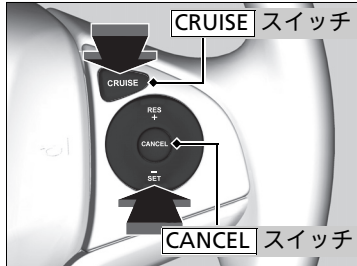
※車速をセットするには

自動定速走行をしないとき

安全のため **[CRUISE]** を押して OFF にしてください。
パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにすると、**[CRUISE]** は自動的に OFF になります。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

解除するには



次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- **CANCEL** を押す
- **CRUISE** を押す
- ブレーキペダルを踏む

マニュアル車

- 5 秒間以上クラッチペダルを踏み続ける
- チェンジレバーを **N** (ニュートラル) にする

解除するには

解除前の設定車速を復帰させる

自動定速走行を解除したあとも、30km/h 以上の車速で走行中に **RES/+** を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 30km/h 未満になったとき
- **CRUISE** で OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると、自動的に自動定速走行が解除になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ㊦ P.180

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

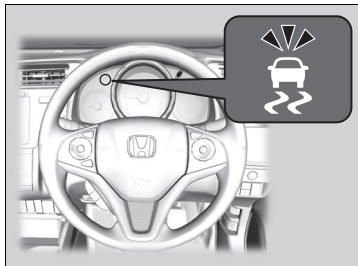
■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

㊦ 電子制御ブレーキアシスト P.181

VSA の作動と警告灯




TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

㊦ VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。

VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

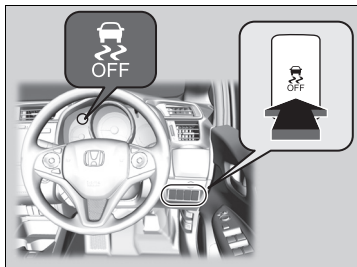
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。


タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときはシステムの異常が考えられます。


通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ VSA OFF スイッチ



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなり、VSA OFF 警告灯が点灯します。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

※VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※4WD(四輪駆動機構)*

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

4WD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため4WD から2WD に切り換わることがあります。

しばらくして油温が下がると、4WD に復帰します。

4WD(四輪駆動機構)*

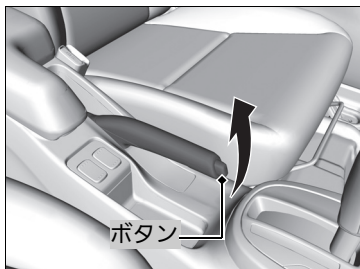
4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

ブレーキシステム

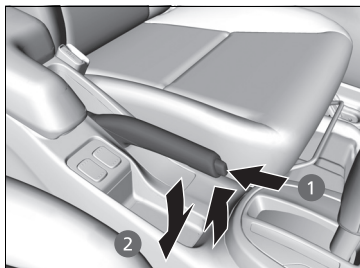
■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

ボタンを押さずにレバーをいっぱい引く。



■ パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

※ パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴ります。

完全に解除すると、ブザーは止まります。停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

❏ 電子制御ブレーキアシスト P.181

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.180

❏ フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。


■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

エンジンスイッチを  ※1 にすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

※ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなる場合があります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがあります。異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■ 電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■ 電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

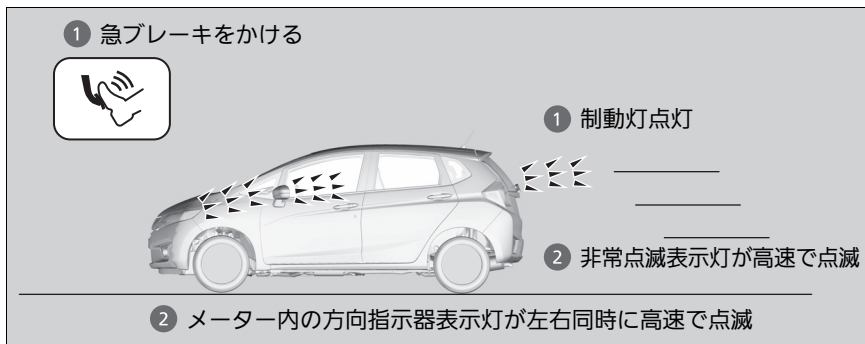
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

❖ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.176

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動の仕組み



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

※エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

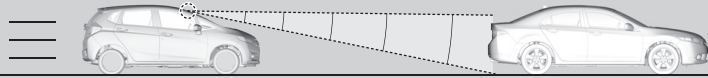
ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

シティブレーキアクティブシステム*

低速走行時に、自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突の衝撃を軽減する装置です。

システム作動条件

自車の車速が 5km/h ~ 30km/h のとき、レーザーセンサーが前方の車両を検知。



フロントガラス上部に、シティブレーキアクティブシステムのレーザーセンサーを装備



自車との速度差が 5km/h ~ 30km/h の車両に対して衝突のおそれがあるときに、システムが作動します。

⚠ シティブレーキアクティブシステム*



シティブレーキアクティブシステムは、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。

正しく運転しないと衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

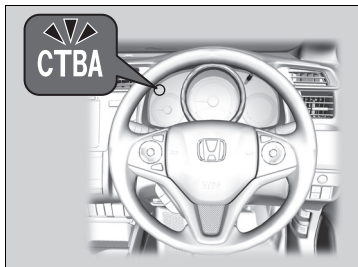
- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときは取り除く
- ガラスを拭くときは、レーザーセンサーに衝撃を与えない
- センサーを取り外さない

マニュアル車

システム作動により停車したときは、エンジンが停止することがあります。エンジンが停止したときは、通常操作でエンジンを再始動してください。

▶ エンジンの始動 P.149

システムの作動のしかた



衝突のおそれがある状態になると、ブザー（ピピピ）がなり、**CTBA**表示灯が点滅し、ブレーキが強くなります。

システムが作動し、停車した後に、自動ブレーキは解除されます。

安全のため、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

また、車が停止してから、**CTBA**表示灯が10数秒間点滅します。

なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

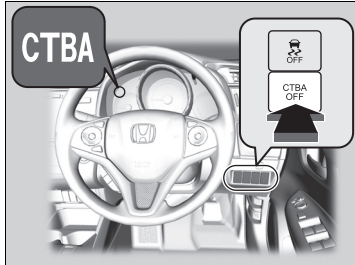
※シティブレーキアクティブシステム*

次のような場合には、車両を正しく検知できず、システムが作動しない場合があります。

- 前方の車両が斜め、横向き、対向の場合で、車両を検知しにくいとき
- 前方の車両との車間距離が極端に短いとき
- 自車と前方の車両との相対速度差が大きいとき
- 自車の前方に別の車両が割り込み、急な減速を行ったとき
- 急加速を行い、前方の車両に接近しているとき
- 自車の前方に対向車が急に飛び出したとき
- 自車が対向車の前に急に飛び出したとき
- 交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- カーブなどの道路状況のとき
- 前方車両が著しく汚れているなど、レーザーの反射が弱く検知しにくいとき
- キャリアカーなど特殊な形状の車、自転車、二輪車などや、物の材質、形状、大きさなどにより、レーザーセンサーが検知しにくいとき
- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき
- 衝突を回避しようとして運転者がブレーキやハンドルを操作したとき

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

システムの ON と OFF



CTBA OFF を約 1 秒押し、システムの ON と OFF を切り換えます。

シティブレーキアクティブシステムが OFF に切り替わったとき、**CTBA** 表示灯が点灯します。

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

※シティブレーキアクティブシステム*

以下の場合、システムが自動的に停止し、**CTBA** 表示灯が点滅することがあります。

- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近の温度が高くなったとき
- フロントガラス上部にあるレーザーセンサー付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき
- ボンネットに雪などが積もっているとき
安全な場所に車を止めて、以下の対処を行ってください。
- レーザーセンサー付近の温度が高くなっているときは、エアコンを使用して車内の温度を下げる
- レーザーセンサー付近の汚れなどの遮蔽物やボンネット上の雪などがあるときは、取り除く

システムが作動できる状態になると、システムは自動復帰します。

以下の場合、システムを OFF にしてください。

- シャーシダイナモやフリーローラーを使用する場合
- 草の生い茂っているオフロードなどの悪路や、木の葉がかかるような山道などを走行する場合

■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、システムが作動することがあります。周囲の状況に注意して、走行してください。

- 追い越しや交差点などで前方の車両や対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどに接近して走行するとき
- 駐車時等、停止している車両や壁に接近するとき

※シティブレーキアクティブシステム*

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーザーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントガラス周辺の修理を行うとき

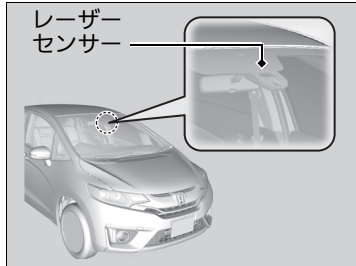
サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄、および磨耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や磨耗度合いの異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

- カーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき

レーザーセンサーについて



シティブレーキアクティブシステムと誤発進抑制機能のレーザーセンサーは、フロントガラス上部に装備されています。

以下は、このレーザー等級の仕様データです。同様のことがIEC60825-1のラベルに規定されています。

レーザー等級	
最大平均出力	45mW
パルス幅	33ns
波長	905nm
出力角度(水平 × 垂直)	28° × 12°

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

次ページに続く

レーザーセンサーについて



警告

レーザーセンサーにより目を損傷するおそれがあるため、次のことを守る。

- センサーを取り外さない。
- センサーから 100 mm 以内の距離で、拡大鏡、顕微鏡、対物レンズなど拡大機能がある光学機器を使用して、センサーをのぞきこまない。

シティブレーキアクティブシステム装備車

無段変速オートマチック車

誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。

なお、急な坂道やセレクトレバーが **P**、**R**、**N** のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)がなり、**CTBA** 表示灯が点滅します。



アクセルペダルを踏む
アクセルペダルの踏み込み量が
少ないときは作動しません。



アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキ
ペダルを踏んでください。

※誤発進抑制機能



警告

あらゆる状況でアクセルペダルの踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

正しく運転しないと追突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。その時は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、シティブレーキアクティブシステムを OFF にして遮断機を押し除けてください。

誤発進抑制機能は、シティブレーキアクティブシステムの機能のひとつです。そのため、シティブレーキアクティブシステムを OFF にしているときは、この機能は作動しません。また、機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーザーセンサーの取り扱いなども、シティブレーキアクティブシステムと同じです。

■機能解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ステアリングを操作して、衝突を避けようとしたとき

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。

無段変速オートマチック車

3. セレクトレバーを **P** に入れる。

マニュアル車

3. チェンジレバーを **R** または **1** に入れる。

共通

4. エンジンを停止する。
 - ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

※駐停車操作



注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で **P** **N** 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。

無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

※駐車する

⚠ 注意

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーが[P][N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

積雪時は、ワイパーアームを起こしてください。

雪の重みでアームの取り付け部が破損することがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、石など輪留めをしてください。

リヤワイドカメラシステム*

リヤワイドカメラの取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

Honda スマートキーシステム装備 2WD 車

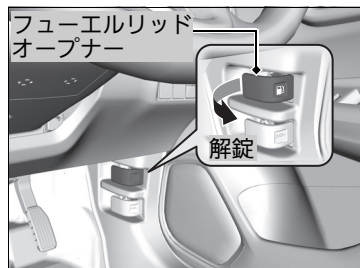
4WD 車

40 リットル

Honda スマートキーシステム非装備 2WD 車

32 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元のフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

※指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

※給油のしかた

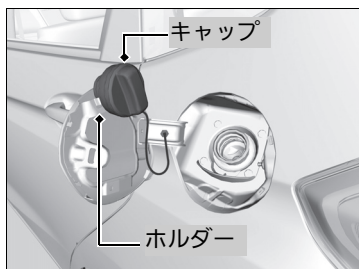
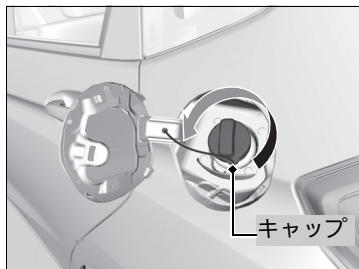


燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

5. キャップをホルダーにかける。

6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。

▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

給油のしかた

警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

☒ 給油のしかた

 **注意**

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

※車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に

- 点検整備について 198
- メンテナンスを安全に行うために 199
- メンテナンスに関する注意事項 199

エンジンルーム内のメンテナンス

- エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 200
- ボンネットを開ける 201
- 推奨エンジンオイル 202
- ウィンドウォッシャー液の補給 202

電球の交換 203

ワイパーブレードラバーの点検と整備 215

タイヤの点検と整備

- タイヤの点検 219
- タイヤのローテーション 221
- 冬期のタイヤ 222

キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキー

- キーレスエントリー一体キー/Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 223

エアコンのお手入れ

- エアクリンフィルター 225

清掃

- 日常のお手入れ 227
- 車内の清掃 227
- 車外の清掃 229

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。

車についての安全事項

- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
 - ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
 - ▶ 指示されたとき以外は、エンジンをかけないでください。
 - ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンスに関する注意事項

メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

⚠️ メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

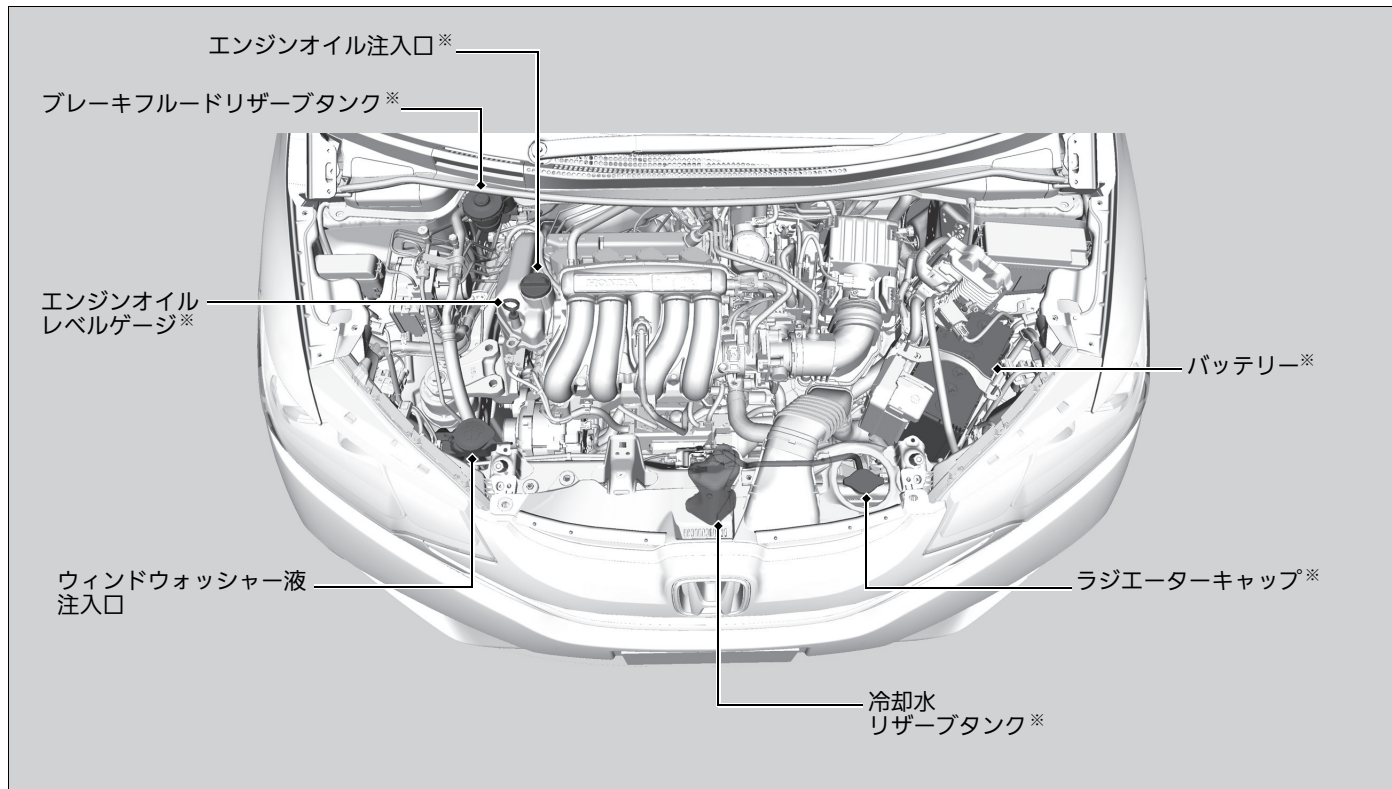
必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

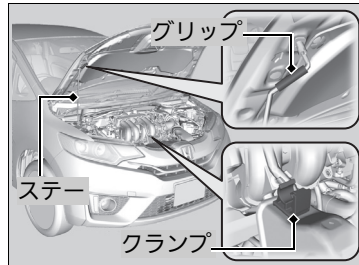
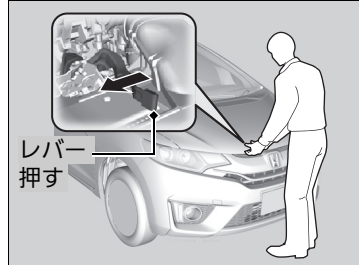
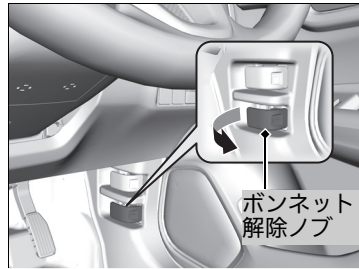
エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。

▶ ボンネットが少し浮き上がります。

3. ボンネット中央のレバーを押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

☒ ボンネットを開ける

⚠ 注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる場合があります。



推奨エンジンオイル：

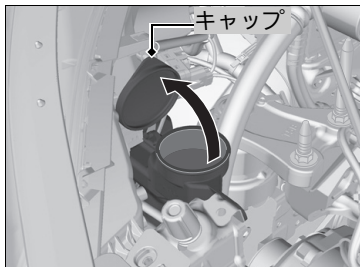
Honda 純正エンジンオイル

▶ Honda 純正エンジンオイル P.279、281、283

API SM 級または SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

ウィンドウォッシャー液の補給

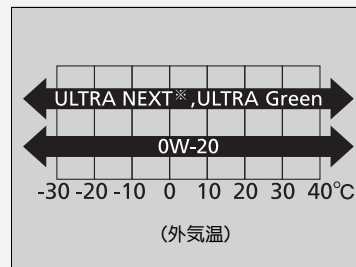
ウォッシャー液の量は、キャップを外して確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

▶▶ 推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

▶▶ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

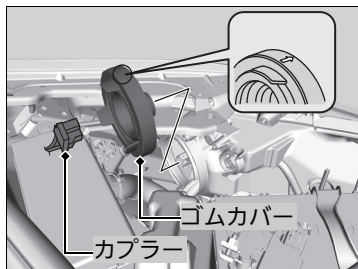
ヘッドライト電球

■ハロゲンヘッドライト

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイ/ロービームハロゲンヘッドライト : 12V-60/55W

ハイビームハロゲンヘッドライト : 12V-60W



■ハイ/ロービームハロゲンヘッドライト装備車

1. カプラーを抜き取る。
2. ゴムカバーを取り外す。

※ハロゲンヘッドライト

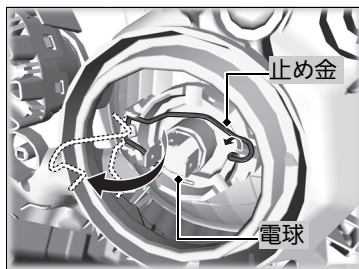
■アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

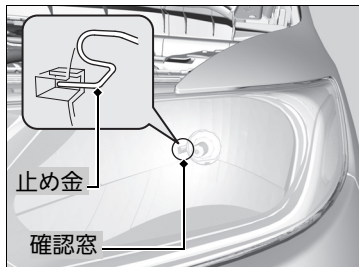
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

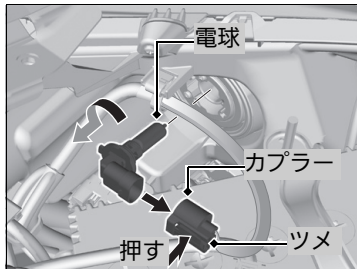
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



3. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
4. 新しい電球を取り付ける。
5. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
 - ▶ 止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
6. カプラーを取り付ける。



**ハイビームハロゲンヘッドライト装備車**

1. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

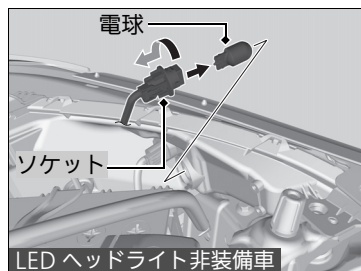
LED ヘッドライト*

電球の点検、交換は、必ず Honda 販売店に依頼してください。

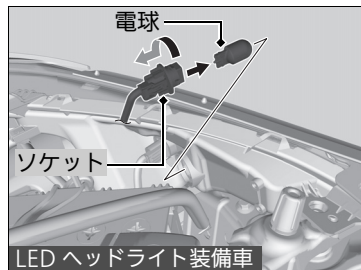
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

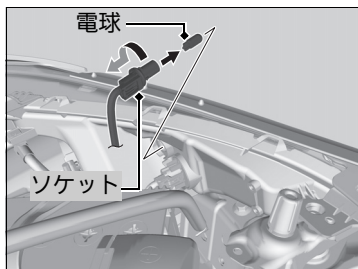


車幅灯電球

電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V-5W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

LEDタイプ

車幅灯はLEDを使用しています。電球の点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

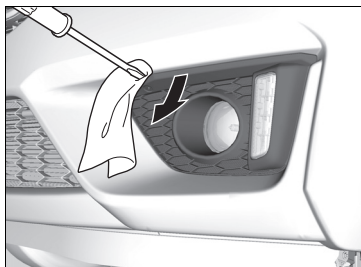
フォグライト電球*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

フォグライト：12V-35W



1. ネジを外す。



2. バンパーとカバーのすき間にマイナスドライバーの先端を差し込み、取り外す。
▶ バンパーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



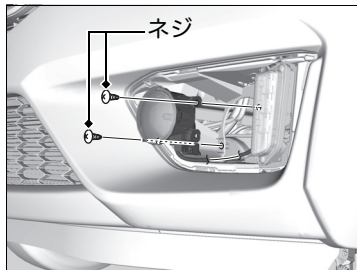
※フォグライト電球*

アドバイス

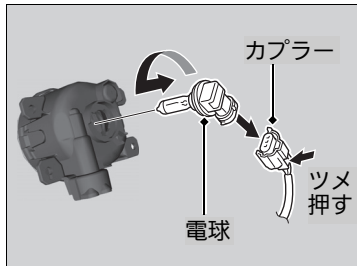
ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱いときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



3. ネジを外してライト本体を取り外す。



4. カプラーを外す。

▶ カプラーはツメを押しながら外します。

5. 古い電球を左に回して抜き取る。

6. 新しい電球を右に回して固定する。

7. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

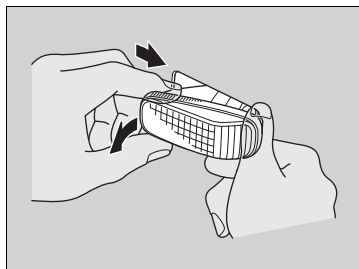
ドアミラーウィンカー装備車

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

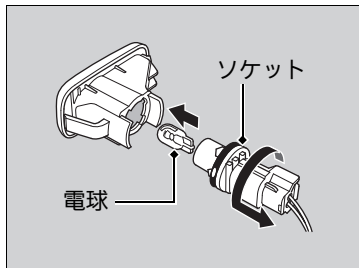
ドアミラーウィンカー非装備車

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：12V-5W



1. ランプ本体を後方にずらして取り外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

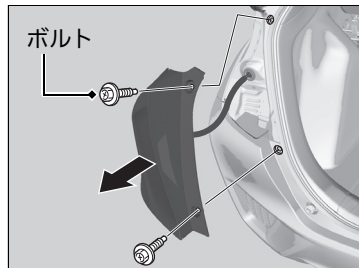
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

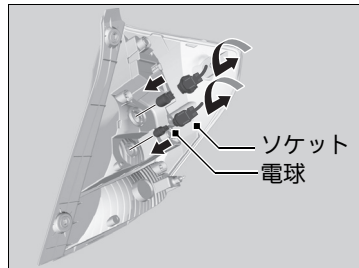
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V-21W(橙色)
後退灯	: 12V-16W



1. ボルトを外す。
2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

テールゲートガイドランプ電球*

テールゲートガイドランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

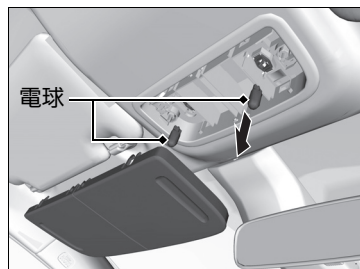
■ マップランプ電球*

下記の電球をご使用ください。

マップランプ：12V—8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

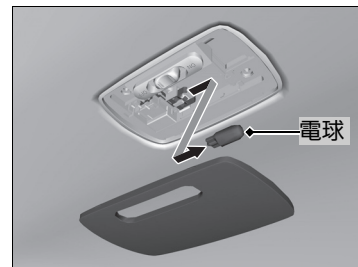
■ 室内灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯：12V—8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

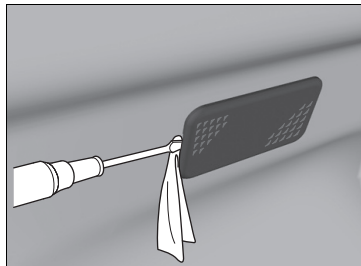


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

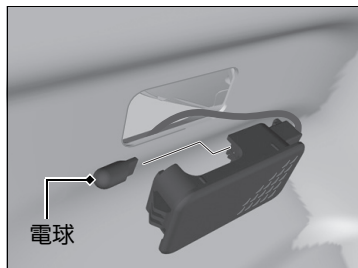
■ カーゴスペース照明灯電球*

下記の電球をご使用ください。

カーゴスペース照明灯：12V-5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



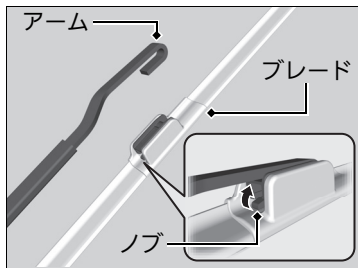
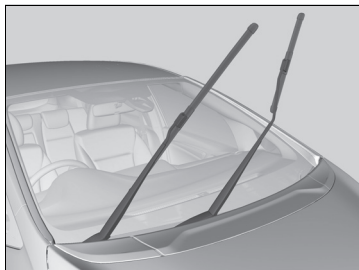
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードドラバーの点検と整備

ワイパーブレードドラバーの点検

ワイパーブレードドラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードドラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードドラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。

2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

※フロントワイパーブレードドラバーの交換

アドバイス

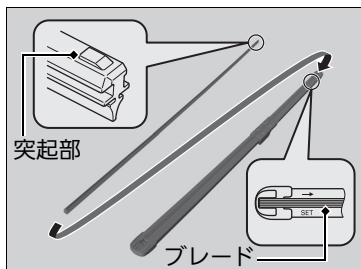
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

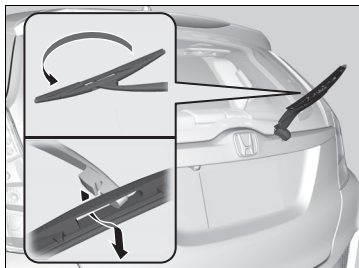


4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

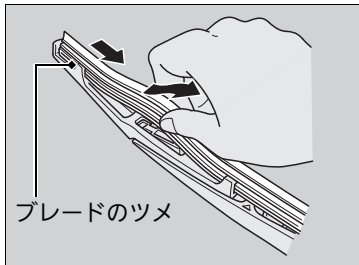
※フロントワイパーブレードラバーの交換

ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

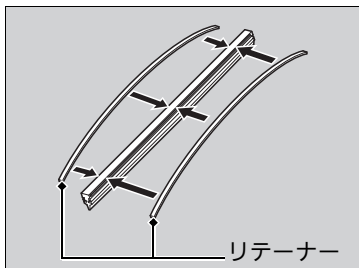
リヤワイパーブレードラバー*の交換



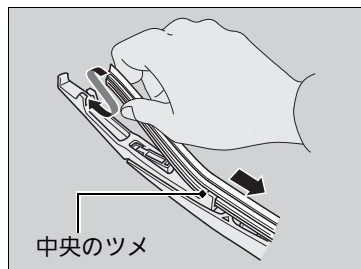
1. ワイパーアームを起こす。
2. ワイパーブレードの底部を回転させ、アームから取り外す。



3. ラバーを引いて先端部をブレードのツメから外す。
4. ラバーをブレードから引き抜く。



5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。



6. ブレード中央部のツメからラバーを挿入し、ブレード両端のツメにラバーを通す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■タイヤの点検について



**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

**必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用
する。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってある
ラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元がない場合は、車のラ
ベルをご覧ください。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種
類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお
使ってください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタ
イヤを使用すると、ABS、VSA、4WD* など
が正常に機能しなくなったり、動力伝達装置
に悪影響を与えたりします。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

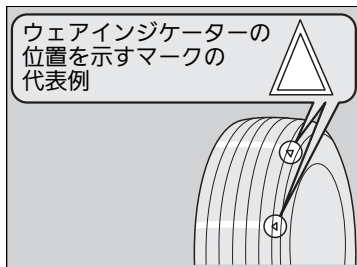
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➤資料 P.279, 281, 283

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

☒タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

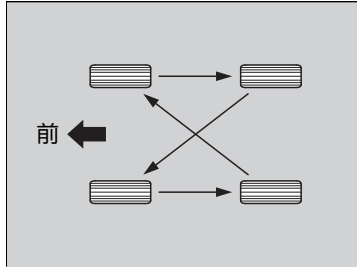
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

タイヤのローテーション

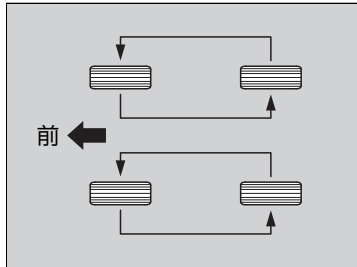
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
 タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■ 回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■ 回転指示マークがあるタイヤの場合

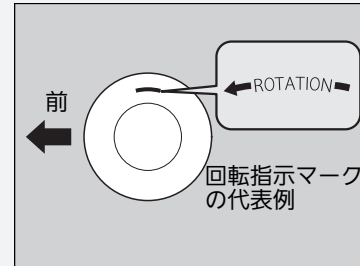


図のように、タイヤをローテーションさせます。

☒ タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、**タイヤ回転指示マーク**があります。

図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク

108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

■スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

■タイヤチェーン

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

※冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは、2WD 車、4WD 車ともに前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

キーレスエントリー—体キー/Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

取り扱いについて

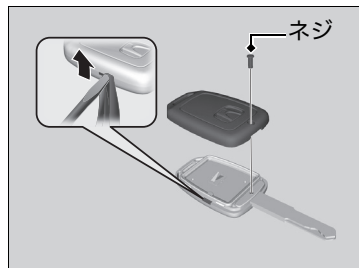
キーレスエントリー—体キー/Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■キーレスエントリー—体キー*



ボタン電池 CR1620

1. 発信機下部のネジを外し、カバーを開く。
 - ▶ カバーに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いてカバーを取り外します。

※取り扱いについて

キーレスエントリー—体キー/Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

※電池交換のしかた

⚠ 注意

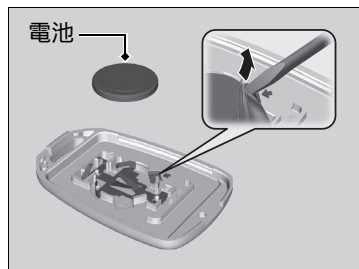
電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。
飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

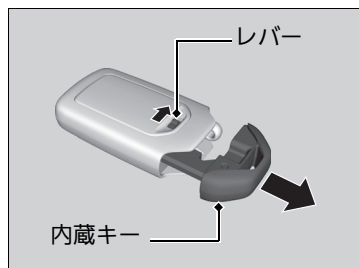
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。



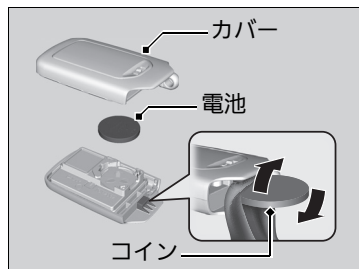
2. 電池を取り外す。
▶ ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。
▶ 交換後、もとのように組み立て、ネジをしっかり締めてください。

■Honda スマートキー*



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアークリーンフィルター

■エアークリーンフィルターの交換時期

エアークリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。

粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

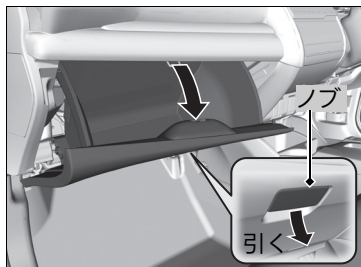
❖エアークリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

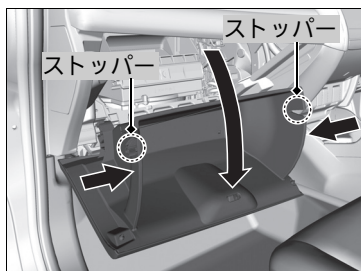
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉、粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

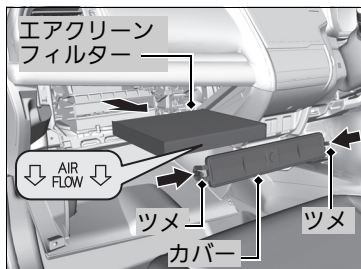
■ エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。



2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。

4. エアクリーンフィルターケースからエアクリーンフィルターを取り出す

5. 新品と交換する。

▶ 「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

日常のお手入れ

走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。

以下の場合、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

※洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

※車内の清掃

室内に水をかけないでください。

オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起こすことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ 本革*のお手入れ

本革巻ハンドルなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。

汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ スーパーUV カット*/IR カット* ガラスのお手入れ

前席ウィンドーの車内側に UV カット膜(ドアガラス)や IR カット膜(フロントウィンドーとドアガラス)がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

※ ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。

傷付けないように、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

■ スーパーUV カット /IR カットガラス装備車

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、前席ウィンドーの開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。

汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

自動洗車機を使うとき

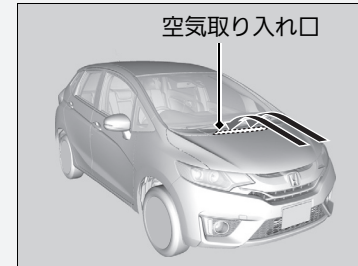
- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- マイクロアンテナを取り外す

高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。
故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

※ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

※バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適當な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ はっ水ガラス* について

前席ウィンドー(ドアガラス)には水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなるがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ アルミホイール* のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落とししてください。

※ ガラスのお手入れ

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことを守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取り等を行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

※ アルミホイール* のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■アクアクリンミラー*

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
 - ▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗淨後、十分な水で洗い流してください。
3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

▶▶ アクアクリンミラー*

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

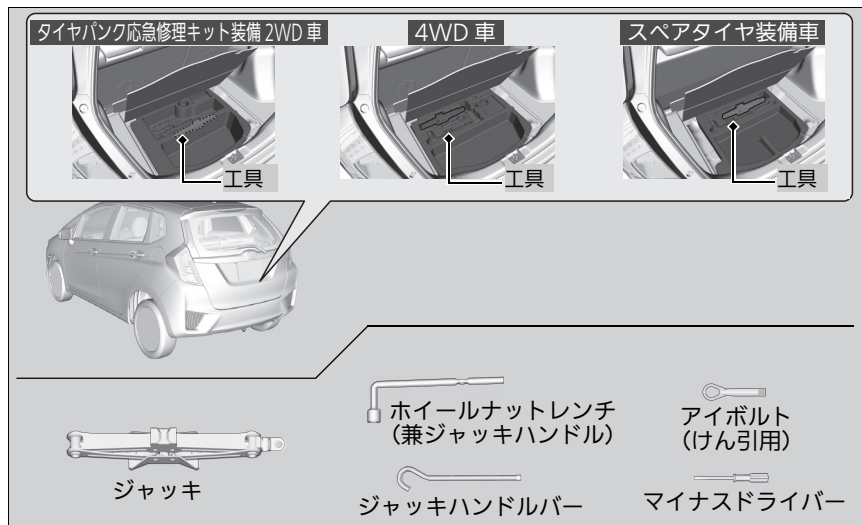
- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....	234	ジャンプスタート.....	255
パンクしたとき.....	235	セレクトレバーが動かない.....	257
タイヤパンク応急修理キット装備車		オーバーヒート.....	258
パンクしたタイヤの応急修理.....	235	警告灯の点灯 / 点滅.....	259
スペアタイヤ装備車		ヒューズ	
パンクしたタイヤの交換.....	245	ヒューズの設置場所.....	262
エンジンが始動しない		ヒューズの点検と交換.....	271
エンジン状態の確認.....	252	けん引.....	272
Honda スマートキーの電池が切れたとき.....	253	テールゲートが開かないとき.....	275
緊急時のエンジン停止方法.....	254		

工具の種類



万
一
の
場
合
に
は

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

▶ 発炎筒 P.2

▶ 工具の種類

工具類はカーゴルーム内に収納されています。

▶ 発炎筒

⚠ 警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたとき

タイヤパンク応急修理キット装備車

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物を牽引する必要があります。

単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を止め、パーキングブレーキをかける。

無段変速オートマチック車

2. セレクトレバーを **P** に入れる。

マニュアル車

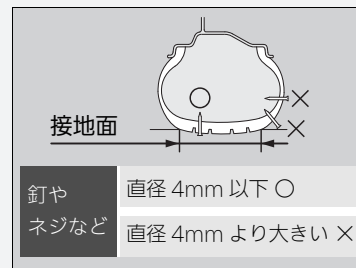
2. チェンジレバーを **R** に入れる。
3. 非常点滅表示灯を点滅させ、エンジンスイッチを **0** ^{*1} にする。

※1：Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

※パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、**タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。**

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクするとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

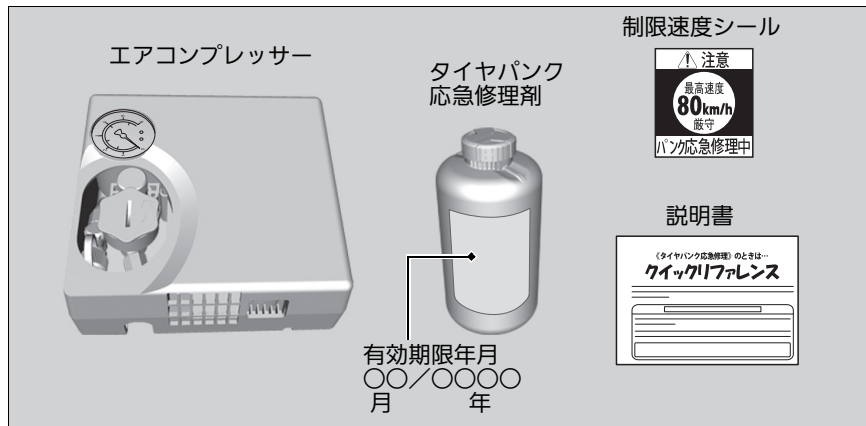


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。

抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備



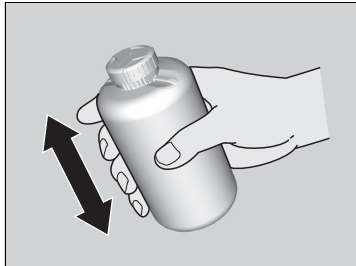
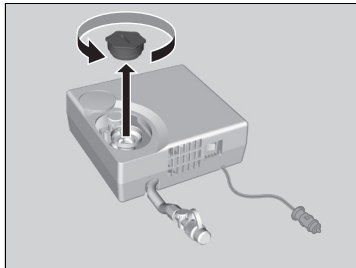
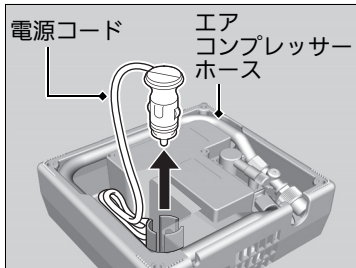
1. カーゴリッドをあけて、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
2. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。



☒タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

応急修理剤とエアの注入



1. エアコンプレッサーからエアコンプレッサーホースと電源コードを取り出す。

2. エアコンプレッサーキャップを外す。

3. 応急修理剤のボトルをよく振る。

応急修理剤とエアの注入



警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさん水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

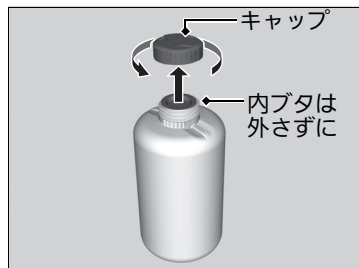
目に入ったり皮膚に付いた場合

- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

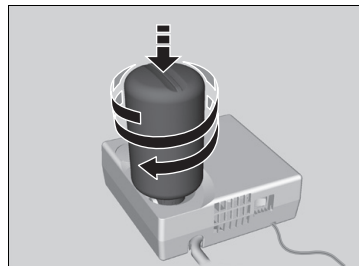
お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれませんが、車内で温めると流れやすくなります。

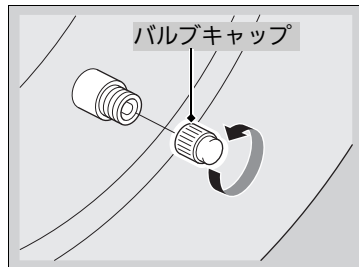
応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



4. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。



5. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態
で、ボトルをエアコンプレッサーにねじ
込む。
▶ ボトルがゆるまないようしっかりねじ
込んでください。

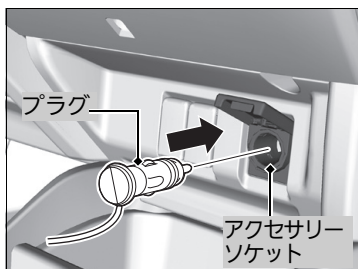
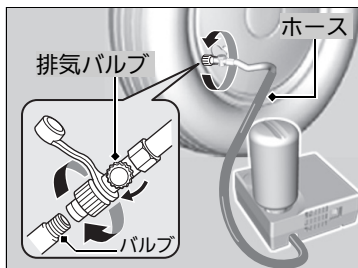


6. バルブからバルブキャップを取り外す。

☒ 応急修理剤とエアの注入

注入が終わった空ボトルはエアコンプレッサーから取り外さないでください。

ボトルは取り外さずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。



7. エアコンプレッサーホースをバルブにねじ込む。

▶ 排気バルブが閉まっていること、エアコンプレッサースイッチがOFFであることを確認してください。

8. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。

9. エンジンを始動する。

▶ 一酸化炭素について P.56

⚠ 応急修理剤とエアの注入



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

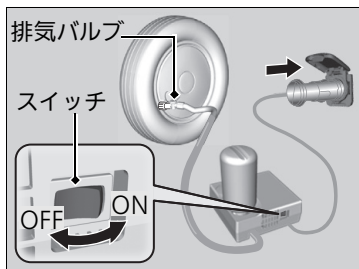
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。



10. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、空気圧を、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)まで高める。
11. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
 - ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
 - ▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
12. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットから外す。
13. エアコンプレッサーホースを取り外し、ホースキャップを取り付ける。
 - ▶ エアコンプレッサーホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
 - ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。
14. タイヤパンク応急修理キットをカーゴルームに格納する。
 - ▶ ボトルはエアコンプレッサーから外さないでください。

※応急修理剤とエアの注入

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

10分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

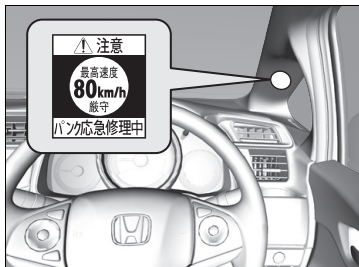
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
 - ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では80 km/h以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。

点検走行

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

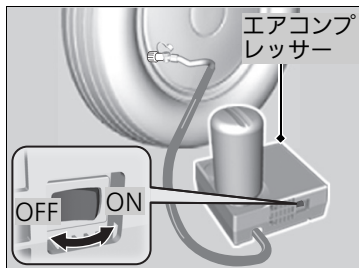
注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。

安全運転の妨げとなります。



4. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。

▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。

- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：

応急修理剤では修理はできません。

運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

- 空気圧が、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)の場合：

応急修理は完了です。

- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)以下の場合：

エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。

Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 4 までを繰り返す。

▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

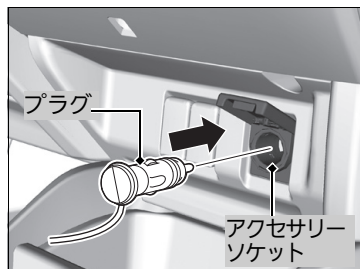
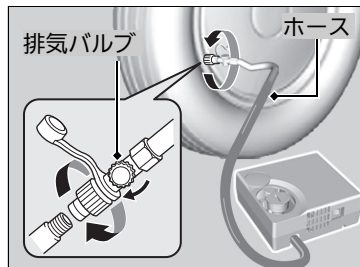
5. エアコンプレッサーなどをカーゴルームに収納する。

点検走行

走行前に、空ボトルの取り付けられたエアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。
▶ 排気バルブが閉まっていることを確認してください。
5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
6. エンジンを始動する。
▶ 一酸化炭素について P.56

☒タイヤ空気圧の補充



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

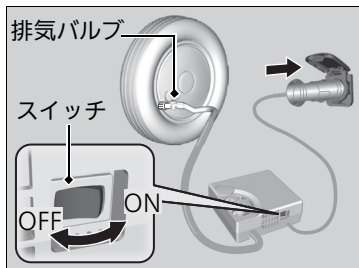
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。



7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、空気圧を、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)まで高める。
8. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
 - ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
 - ▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。
9. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットから外す。
10. エアコンプレッサーホースを外す。
11. エアコンプレッサーをカーゴルームに収納する。

※タイヤ空気圧の補充

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

スペアタイヤ装備車

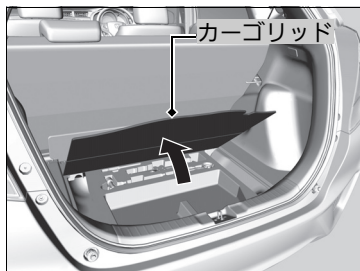
パンクしたタイヤの交換

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、応急用スペアタイヤに交換します。パンクしたタイヤの点検や交換は、Honda 販売店に依頼してください。

走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを **P** に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、エンジンスイッチを **0** にする。

タイヤ交換の準備



1. カーゴリッドを開ける。

※パンクしたタイヤの交換



タイヤを交換するときはエンジンを切る。
エンジンをかけたままにすると排気管でやけどを負うおそれがあります。

思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。

指定空気圧：420kPa(4.2kgf/cm²)

応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h 以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用用品です。

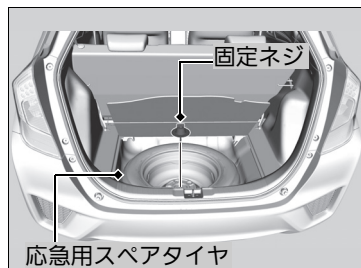
他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。

応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。

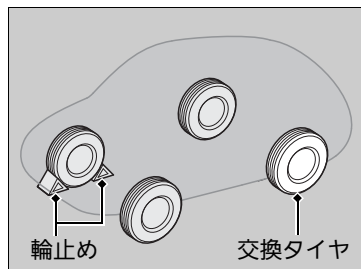
チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪を前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。



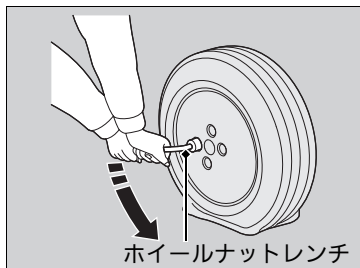
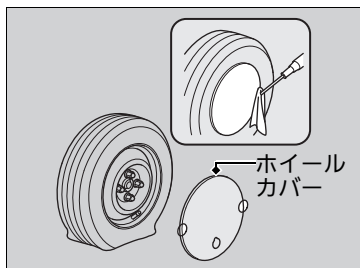
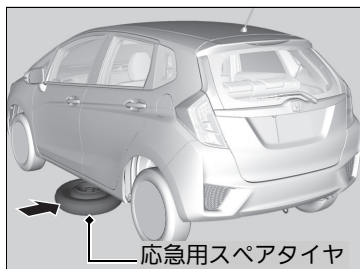
2. カーゴフロアボックスを取り出す。
3. ジャッキと工具を取り出す。



4. 固定ネジを外し、応急用スペアタイヤを取り出す。



5. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。



6. 応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に、ホイール表面を上にして置く。

7. ホイールカバーの端にマイナスドライバーの先端を差し込み、タイヤ側にこじって取り外す。

▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

▶ 場所を変えて2カ所繰り返すと外れやすくなります。

8. ホイールナットをホイールナットレンチで約1回転ゆるめる。

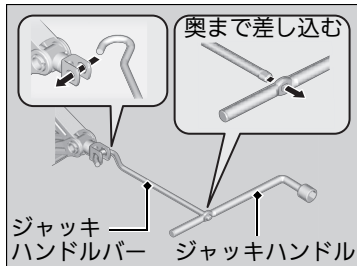
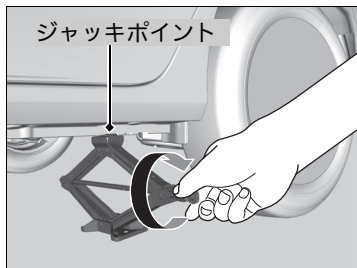
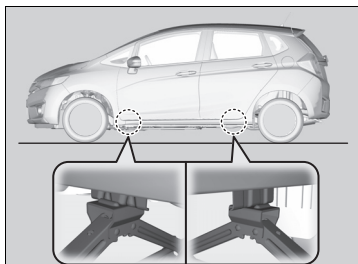
▶▶パンクしたタイヤの交換



注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などはさまないように十分注意する。

ジャッキのかけかた



1. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

2. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を実印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

3. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

注意

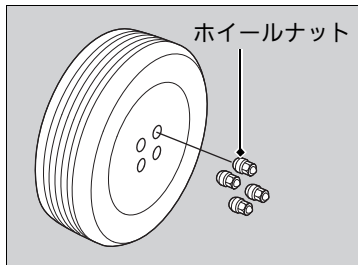
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをつけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にもものを入れたりしない

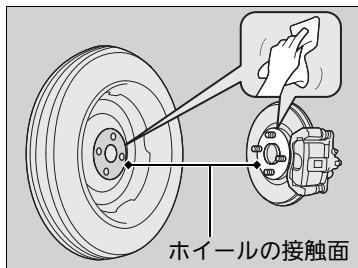
この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

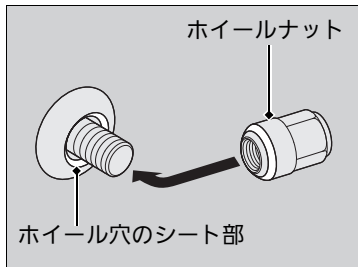
■タイヤの交換



1. ホイールナットを外し、タイヤを外す。

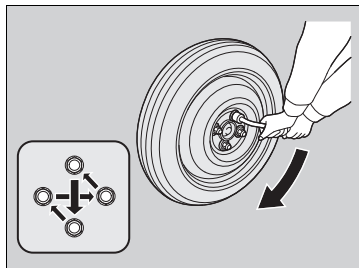


2. ホイールの接触面を拭き取る。



3. 応急用スペアタイヤを取り付ける。

4. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締める。

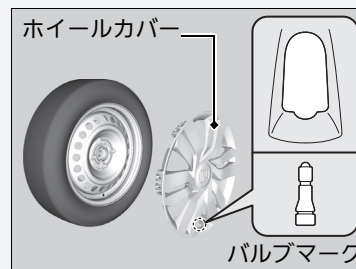


5. ジャッキをおろし、左図の順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付ける。

締め付けトルク：98～118 N・m
(10.0～12.0 kgf・m)

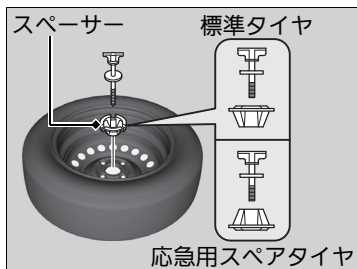
☒タイヤの交換

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けしないでください。



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

■パンクしたタイヤの収納



- 1.パンクしたタイヤを収納する。
- 2.スペーサーを応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定する。

☒パンクしたタイヤの収納

パンクした標準タイヤを収納したときは、カーゴフロアボックスはカーゴリッドの上に収納してください。

エンジンが始動しない

エンジン状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

☒エンジン状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

☒ ジャンプスタートの方法 P.255

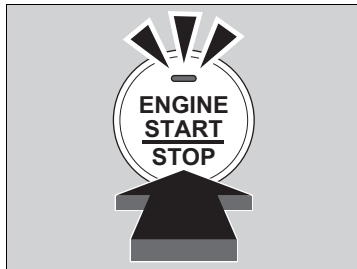
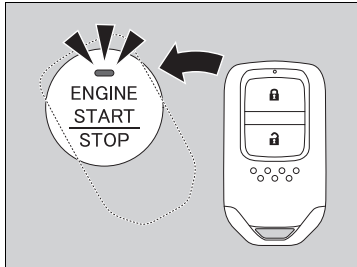
スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ スターターの回転が非常に遅い！ バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	室内灯などの明るさを確認する 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 <ul style="list-style-type: none">室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合室内灯などの明るさに問題がない場合 ☒ヒューズの点検と交換 P.271 Honda スマートキーシステム装備車 <ul style="list-style-type: none">エンジン始動の作動範囲を確認します。 ☒ ENGINE START/STOP スイッチ P.93ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ☒ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.253
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	エンジン始動の手順を実行する もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ☒エンジンの始動 P.149 イモビライザーシステム表示灯を確認する イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ☒ イモビライザーシステム P.89 燃料の量を点検する 燃料が入っているか確認してください。 ☒燃料計 P.74 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ☒ヒューズの点検と交換 P.271

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーシステム装備車

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. **ENGINE START/STOP** を押す。
 - ▶ 「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、インジケーターが約 30 秒間点滅します。
2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
 - ▶ 「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。
3. インジケーターが点灯している間に、ブレーキペダル(無段変速オートマチック車)/クラッチペダル(マニュアル車)を踏みながら、**ENGINE START/STOP** を押す。
 - ▶ ブレーキペダル(無段変速オートマチック車)/クラッチペダル(マニュアル車)を踏んでいないときは、アクセサリモードになります。

Honda スマートキーシステム装備車

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP スイッチは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。

エンジンを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください。

- **ENGINE START/STOP** を約 2 秒以上押す。
- **ENGINE START/STOP** を 2 回連続して押す。

このとき、ハンドルはロックしません。

無段変速オートマチック車

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリモードになります。パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください：

1. シフトレバーを **P** に入れる
2. ブレーキペダルを踏まずに **ENGINE START/STOP** を 2 回連続して押す

マニュアル車

パワーモードは OFF モードになります。

- 車両が完全に停止後、クラッチペダルを踏まずに **ENGINE START/STOP** を 3 回連続して押す。
 - ▶ ハンドルがロックされます。

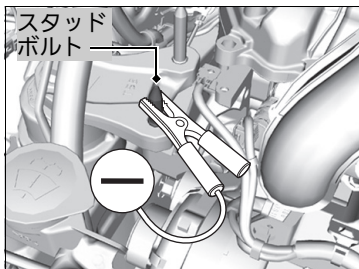
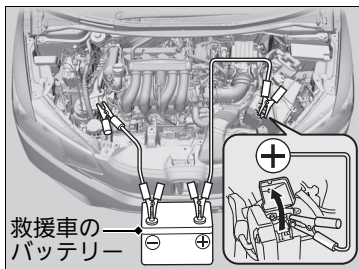
※緊急時のエンジン停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に **ENGINE START/STOP** を押さないでください。

ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

1. 自車と救援車のエンジンスイッチを **0** ※1 にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
 - ▶ 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
 - ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

ジャンプスタートの方法



警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊖端子から外す。
3. 自車のバッテリーの⊕端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⊠エンジン始動後の作業



警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

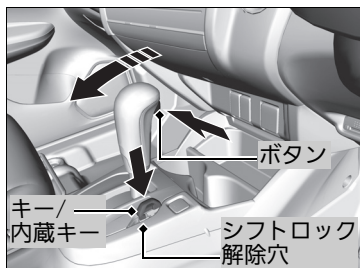
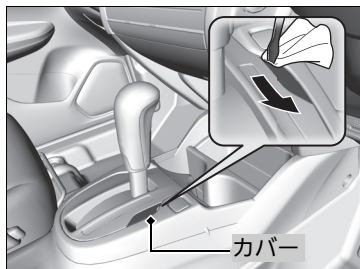
ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

無段変速オートマチック車

セレクトレバーが、**P**の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。

Honda スマートキーシステム装備車

2. パワーモードを OFF モードにする。

Honda スマートキーシステム非装備車

2. エンジンスイッチからキーを抜く。

3. 細いマイナスドライバーの先端に布を巻き、シフトロック解除穴のカバーを外す。

▶ マイナスドライバーの先端を、図のように切り欠きに入れて外します。

4. シフトロック解除穴にキー/ 内蔵キーを差し込む。

5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを**N**に入れる。

▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

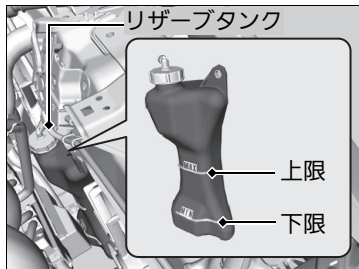
1. ただちに車を安全な場所に停める。

- ▶ セレクトレバーを[P]に入れ(無段変速オートマチック車)、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままボンネットを開ける。

蒸気が出ている場合：エンジンを止め、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを止める。
 - ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを止めます。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
 - ▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

ⓧオーバーヒートしたときの対処方法



蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐのこと

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを止め、3分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
 - ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
 - ▶ 消灯した：運転を再開してください。
 - ▶ 10秒以内に消灯しない：エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを止めないでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

※PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

※ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

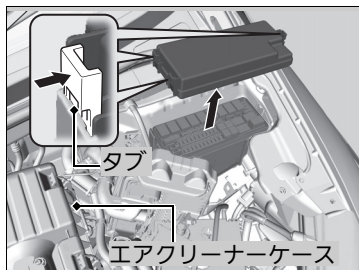
- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、エンジンスイッチを **0**※1 にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



■メインヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いているエアクリナーケースの隣にあります。タブを押して開けてください。

※エンジンルーム内のヒューズボックス

■メインヒューズボックス


















ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

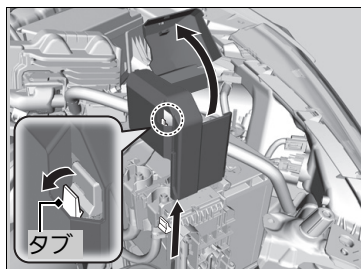
表示	装備	容量
1 	ヘッドライト	20A
2 	キャパシタ*	(30A)
3 	非常点滅表示灯	10A
4 	ドライブバイワイヤ	15A
5 	ワイパー	(30A)
6 	制動灯	10A
7 	PGM-FI	15A
8 	イグニッションコイル	15A
9 	キャパシタ*	(10A)
10 	インジェクション	(20A)
—※1	—	—
11 	DCDC コンバーター2	(30A)
12 	冷却ファン	30A
13 	オートスターター	(30A)
14 	MG クラッチ	7.5A
15 	バッテリーセンサー	(7.5A)
16 —	—	—
17 —	—	—
18 	ホーン	10A
19 	フォグライト*	(15A)
20 —	—	—

表示	装備	容量
21 	バックアップ(メイン)	15A※1 10A※2
22 	室内灯	7.5A
23 	サブファン	(30A)
—※1	—	—
24 	DCDC コンバーター1	(30A)
25 	オートスターター	(7.5A)
26 	ECU	(7.5A)
27 —	—	—
28 —	—	—
29 	バックアップ	(10A)※1 (30A)※2
30 	LAF センサー	(10A)
31 	PGM-FI サブ	(7.5A)
32 	右側ヘッドライト ロービーム	10A
33 	左側ヘッドライト ロービーム	10A

※1 : アイドリングストップシステム専用
バッテリー非装備車

※2 : アイドリングストップシステム専用
バッテリー装備車

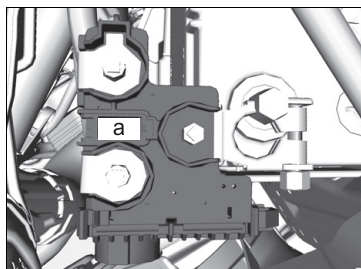
万
一
の
場
合
に
は



■サブヒューズボックス

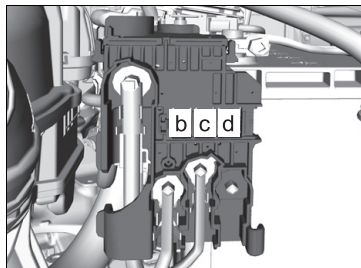
エンジンルーム内の助手席側に付いている、バッテリーの ⊕ 端子の隣にあります。

1. ⊕ 端子部分のフタを開ける。
2. タブを引いてカバーを取り外す。



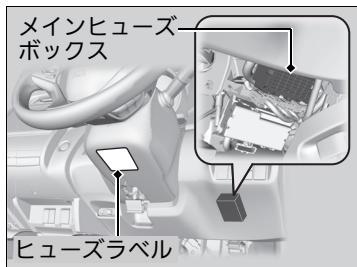
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
a		バッテリーメイン	100A
b		RB メイン 1	70A
c		RB メイン 2	80A
d		CAP メイン	70A



万
一
の
場
合
に
は

室内運転席側のヒューズボックス



■メインヒューズボックス

ハンドル右側のインストールパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

※室内運転席側のヒューズボックス

■メインヒューズボックス

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

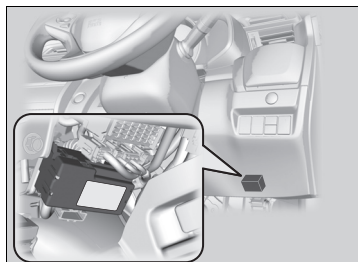
表示	装備	容量
1	ドアロック	20A
2	—	—
3	Honda スマートキーシステム	(10A)
4	左側ドアアンロック	15A
5	右側ドアアンロック	15A
6	—	—
7	—	—
8	運転席 パワーウィンドー	20A
9	助手席 パワーウィンドー	20A
10	助手席側 リヤパワーウィンドー	20A

表示	装備	容量
11	運転席側 リヤパワーウィンドー	20A
12	左側ドアロック	15A
13	右側ドアロック	15A
14	—	—
15	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
16	STS*	(7.5A)
17	—	—
18	—	—
19	シートヒーター*	(20A)
20	—	—
21	—	—
22	ウォッシャー	15A
23	リヤワイパー	(10A)
24	エアコン	7.5A
25	—	—
26	スターター	(7.5A)
27	ABS/VSA	7.5A
28	SRS エアバッグシステム	10A
29	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
30	オルタネータ	10A

表示	装備	容量
31	パワーウィンドー	10A
32	フューエルポンプ	15A
33	—	—
34	メーター	7.5A
35	ミッションソレノイド	7.5A
36	アクセサリーソケット	20A
37	ACC	7.5A
38	ACC キーロック	7.5A
39	オプション	(10A)
40	リヤワイパー*	(10A)
41	—	—
42	—	—

万
一
の
場
合
に
は

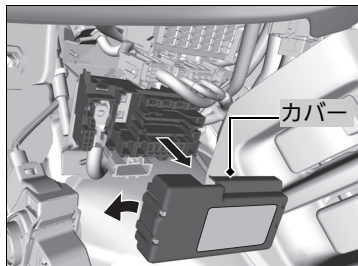
* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



■サブヒューズボックス

室内のメインヒューズボックス下にあります。

カバーを開けてください。



☒サブヒューズボックス

ヒューズボックスのカバーに、ヒューズ的位置が表示してあります。

ヒューズ番号とカバーの番号で、該当するヒューズ的位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		EPS	60A ^{※1} 70A ^{※2}
		イグニッション(メイン)	50A ^{※3} 30A ^{※4}
		ヒューズボックス(メイン2)	50A
		ABS/VSA	40A
		ヒューズボックス(メイン)	30A
		ヒューズボックス(メイン3)	40A
	—	—	—
2	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—

	表示	装備	容量
3		ヒーターモーター	30A
	— ^{※3}	—	—
4		イグニッション(メイン)	30A
5		+B ABS/VSA	30A
6		デフロスター	(10A)
7		オートリトラミラー [*]	(7.5A)
8	—	—	—
9		スモールライト	10A
10		アクセサリソケット (コンソール)	(20A)
11		リヤデフロスター	30A
12		キーロック	(7.5A)
	— ^{※4}	—	—
13		ヒータードドアミラー	(10A)
14		A/C ブLOWER	(7.5A)
15		フロントワイパー	30A
	— ^{※4}	—	—

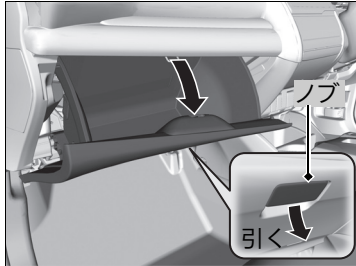
※1 : 13G, 15XL (4WD)

※2 : 15XL (2WD), RS

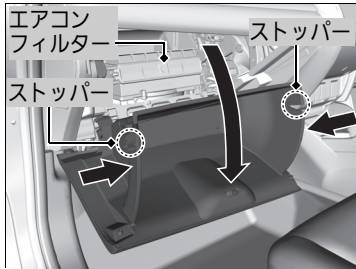
※3 : Honda スマートキー非装備車

※4 : Honda スマートキー装備車

室内助手席側のヒューズボックス*



1. グローブボックスを開ける。

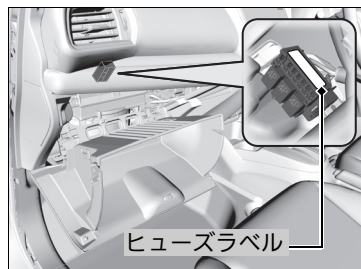


2. グローブボックスの両端に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

▶ エアコンフィルターの上にあります。

室内助手席側のヒューズボックス*

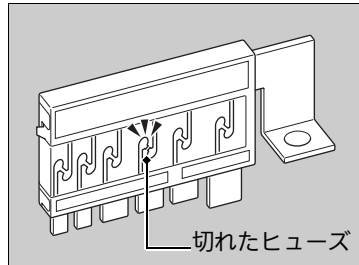
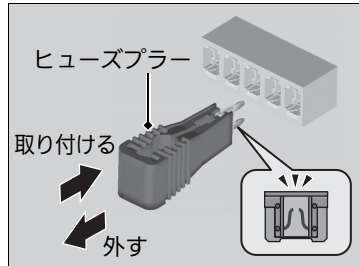
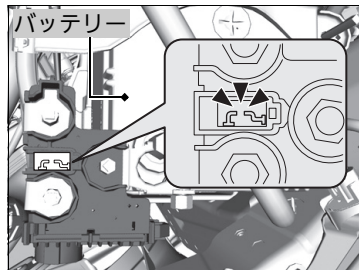
ヒューズボックス側面に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。



■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	—	—	—
2		IG1-2	7.5A
3		電動オイルポンプ	(10A)
4	—	—	—
5		アクセサリー	7.5A
6		IG1-1	7.5A
7		バックアップ	15A

ヒューズの点検と交換



1. エンジンスイッチを **0** ※1 にし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. バッテリーの ⊕ 端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
 - ▶ 切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。
4. エンジンルーム内のメインヒューズボックスのフタを取り外す。
5. 内部のヒューズを点検する。
 - ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。
6. 室内の大きいヒューズを点検する。
 - ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
7. 室内の小さいヒューズを点検する。
 - ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに **ENGINE START/STOP** が適用されています。

ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

各ヒューズの装備と容量

P.263, 264, 266, 268, 270

エンジンルーム内のメインヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。

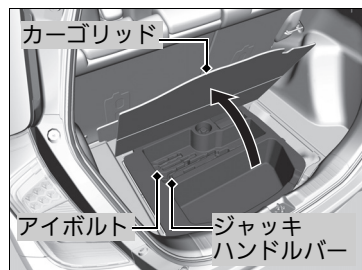
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引は、専門業者に依頼して2WD車は四輪または前輪、4WD車は四輪を持ち上げて行ってください。

やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



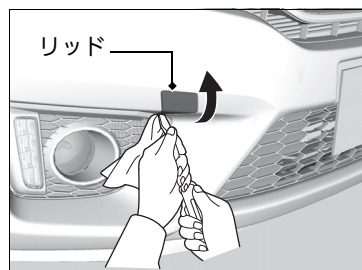
1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード(オイル)などが漏れていないことを確認する。

▶ 異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。

2. カーゴリッドを開けて、マイナスドライバー、ジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。

3. マイナスドライバーの先でリッドを開ける。

▶ バンパーが傷つかないように、マイナスドライバーの先に布などを巻き付けてください。

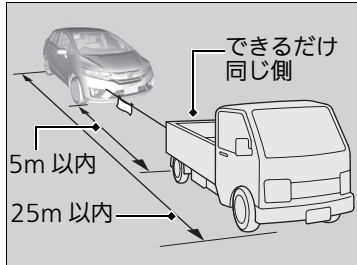
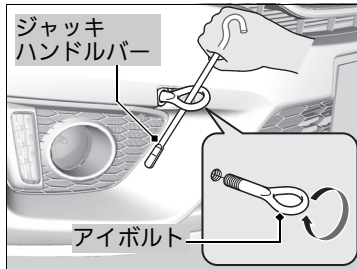


※非常時のけん引

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD車は四輪または前輪、4WD車は四輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。



4. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

5. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。

6. マニュアル車は、エンジンをかける。無段変速オートマチック車は、エンジンをかけてセレクトレバーを **D** にし、約 5 秒間保持する。

▶ エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを **I** または **II**^{※1} にします。

7. セレクトレバーまたはチェンジレバーを **N** (ニュートラル) にする。

8. パーキングブレーキを解除する。

9. けん引する。

▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

▶ 無段変速オートマチック車は、速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引してください。

※1 : Honda スマートキーシステム装備車はエンジンスイッチの代わりに

ENGINE START/STOP が適用されています。

※非常時のけん引

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

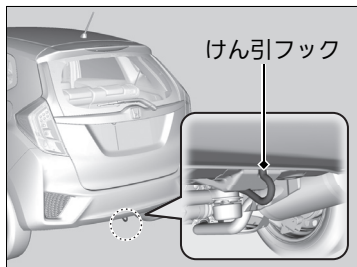
長い下り坂では、ブレーキの温度が上がリブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車は、トランスミッションが破損するおそれがある
- マニュアル車は、パワーモードをOFFモードにすると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるため、事故につながるおそれがある

■ やむをえず他車をけん引する場合



やむをえず他車のけん引を行う場合、リアバンパー下にあるけん引フックにロープをかけてください。

☒ やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

けん引フック以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

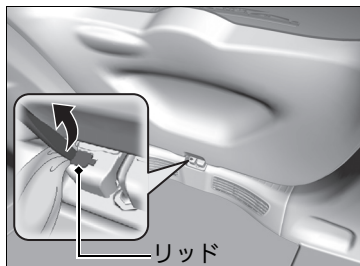
自車より重い車のけん引は避けてください。

アイドリングストップシステムを OFF にしてください。

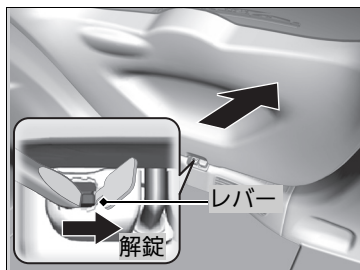
☒ アイドリングストップシステム OFF スイッチ
P.164, 168

開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを外す。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



Honda スマートキーシステム装備車

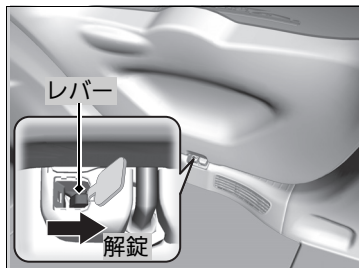
2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。

開かないときの対処方法

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。



Honda スマートキーシステム非装備車

2. レバーを右に動かし、テールゲートを解錠する。
3. テールゲートを開ける。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

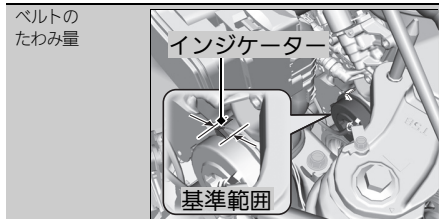
仕様：13G	278
仕様：15XL	280
仕様：RS	282

仕様：13G

仕様

名称	フィット
排気量	1,317 cm ³
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	5名

調節



点火プラグ	NGK	DILZKAR7C11S
	DENSO	DXE22HCR11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

確認

ブレーキペダル (無段変速オート マチック車)	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	91mm以上 ^{※1} 95mm以上 ^{※2} [約200N(20kgf)の力]
	カーペットとの すき間 (参考値)	81mm以上 ^{※1} 84mm以上 ^{※2} [約200N(20kgf)の力] (ペダル踏面右端)

ブレーキペダル (マニュアル車)	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	97mm以上 [約200N(20kgf)の力]
	カーペットとの すき間 (参考値)	85mm以上 [約200N(20kgf)の力] (ペダル踏面右端)

クラッチペダル	遊び	6-16mm
	床板とのすき間	91mm以上 (クラッチが切れたとき)
	カーペットとの すき間(参考値)	76mm以上 (クラッチが切れたとき)

パーキング ブレーキ	引きしろ	8~10ノッチ [約200N(20kgf)の力]
---------------	------	-----------------------------

※1：Honda スマートキーシステム非装備車
※2：Honda スマートキーシステム装備車

燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	32ℓ ^{※1} 40ℓ ^{※2 ※3}

※1：Honda スマートキーシステム非装備 2WD 車
※2：Honda スマートキーシステム装備 2WD 車
※3：4WD 車

エアクリナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

バッテリー

容量 / タイプ	M42 ^{※1 ※4} N55 ^{※2 ※4} 36Ah(5)/55B24L ^{※3}
----------	--

※1：Honda スマートキーシステム非装備 2WD 車
※2：4WD 車、2WD マニュアル車
※3：Honda スマートキーシステム装備 2WD 無段変速
オートマチック車
※4：アイドリングストップシステム専用バッテリー

ウォッシャー液

タンク容量	1.1ℓ ^{※1} 2.0ℓ ^{※2}
-------	--

※1：Honda スマートキーシステム非装備車
※2：Honda スマートキーシステム装備車

■電球

ヘッドライト※1	ロービーム	LED
	ハイビーム	12V-60W
ヘッドライト※2		12V-60/55W
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
車幅灯		12V-5W※3
		LED※4
フォグライト*		12V-35W
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯		LED※5
		12V-5W※6
制動灯/尾灯		LED
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
後退灯		12V-16W
ハイマウントストップランプ		LED
番号灯		LED
マップランプ*		12V-8W
室内灯		12V-8W

- ※1：オートライト装備車
- ※2：オートライト非装備車
- ※3：フォグライト非装備車
- ※4：フォグライト装備車
- ※5：ドアミラーウィンカー装備車
- ※6：ドアミラーウィンカー非装備車

■デファレンシャルオイル 4WD車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.34 ℓ (交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■クラッチフルード マニュアル車のみ

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ HCF-2※1	2WD車	3.4 ℓ (交換時)
		4WD車	3.9 ℓ (交換時)
	Honda 純正 ウルトラ MTF-III※2		1.4 ℓ (交換時)

- ※1：無段変速オートマチック車
- ※2：マニュアル車

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジン オイル	ULTRA NEXT※1 ULTRA Green		
	ULTRA LEO	API SN 級 SAE 0W-20	
規定量	オイル交換時		3.1 ℓ
	オイル、オイルフィ ルター同時交換時		3.3 ℓ

- ※1：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.48 ℓ ※1 (交換時：リザーブタンク 0.40 ℓ 含む)
	3.35 ℓ ※2 (交換時：リザーブタンク 0.40 ℓ 含む)

- ※1：無段変速オートマチック車
- ※2：マニュアル車

■タイヤ

標準 タイヤ	サイズ	175/70R14 84S※1
		185/60R15 84H※2 ※3
	空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪 220[2.2]/後輪 210[2.1]
	リムサイズ	15X6J※2 ※3
		14X5.1/2J※1
スペア タイヤ*	サイズ	T135/80D15 99M
	空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	420[4.2]
	リムサイズ	15X4T

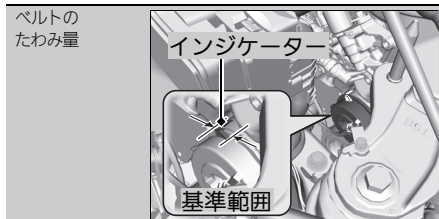
- ※1：2WD アルミホイール非装備車
- ※2：2WD アルミホイール装備車
- ※3：4WD 車

仕様：15XL

■仕様

名称	フィット
排気量	1,496 cm ³
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	5名

■調節



点火プラグ	NGK	DILZKAR7C11S
	DENSO	DXE22HCR11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	95mm 以上 [約 200N (20kgf) の力]
カーペットとのすき間 (参考値)	84mm 以上	[約 200N (20kgf) の力] (ペダル踏面右端)
	引きしろ	8~10 ノッチ [約 200N (20kgf) の力]
パーキングブレーキ		

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン
	レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	40 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■バッテリー

容量 / タイプ	N55 ^{※1}
----------	-------------------

※1：アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	2.0 ℓ
-------	-------

■電球

ヘッドライト	ロービーム	LED
	ハイビーム	12V-60W
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯		12V-21W (橙色)
車幅灯		LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯		LED
制動灯 / 尾灯		LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯		12V-21W (橙色)
後退灯		12V-16W
ハイマウントストップランプ		LED
テールゲートガイドランプ		LED
番号灯		LED
カーゴスペース照明灯		12V-5W
マップランプ		12V-8W
室内灯		12V-8W

仕様：15XL

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4		
-----	-----------------------------------	--	--

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正	2WD 車	3.4 ℓ (交換時)
	ウルトラ	4WD 車	3.9 ℓ (交換時)
	HCF-2		

■デファレンシャルオイル **4WD 車のみ**

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ		
規定量	0.34 ℓ (交換時)		

■推奨エンジンオイル

Honda 純正	ULTRA NEXT ^{※1}	
エンジン	ULTRA Green	
オイル	ULTRA LEO	API SN 級 SAE 0W-20
	オイル交換時	3.1 ℓ
規定量	オイル、オイルフィ ルター同時交換時	3.3 ℓ

※1：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント	
規定濃度	50%	
規定量	3.48 ℓ ^{※1} (交換時：リザーブタンク 0.40 ℓ 含む)	
	3.78 ℓ ^{※2} (交換時：リザーブタンク 0.42 ℓ 含む)	

※1：2WD 車

※2：4WD 車

■タイヤ

サイズ	185/60R15 84H	
空気圧	前輪 220[2.2]/後輪 210[2.1] (kPa[kgf/cm ²])	
リムサイズ	15X6J	

仕様：RS

■仕様

名称	フィット
排気量	1,496 cm ³
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	5名

■調節



点火プラグ	NGK	DILZKAR7C11S
	DENSO	DXE22HCR11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル (無段変速オート マチック車)	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	90mm 以上 [約 200N (20kgf) の力]
	カーペットとの すき間 (参考値)	80mm 以上 ^{※1} 79mm 以上 ^{※2} [約 200N (20kgf) の力] (ペダル踏面右端)

ブレーキペダル (マニュアル車)	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	91mm 以上 ^{※1} 89mm 以上 ^{※2} [約 200N (20kgf) の力]
	カーペットとの すき間 (参考値)	80mm 以上 ^{※1} 78mm 以上 ^{※2} [約 200N (20kgf) の力] (ペダル踏面右端)

クラッチペダル	遊び	6-16mm
	床板とのすき間	91mm 以上 ^{※1} 89mm 以上 ^{※2} (クラッチが切れたとき)
	カーペットとの すき間(参考値)	76mm 以上 ^{※1} 74mm 以上 ^{※2} (クラッチが切れたとき)

パーキング ブレーキ	引きしろ	7~9 ノッチ [約 200N (20kgf) の力]
---------------	------	--------------------------------

※1： ノーマルパッドタイプ
※2： スポーツパッドタイプ

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	40 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■バッテリー

容量 / タイプ	N-55 ^{※1}
※1： アイドリングストップシステム専用バッテリー	

■ウォッシャー液

タンク容量	2.0 ℓ
-------	-------

■電球

ヘッドライト	ロービーム	LED
	ハイビーム	12V-60W
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)	
車輪灯	LED	
フォグライト	12V-35W	
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED	
制動灯 / 尾灯	LED	
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)	
後退灯	12V-16W	
ハイマウントストップランプ	LED	
番号灯	LED	
カーゴスペース照明灯	12V-5W	
マップランプ	12V-8W	
室内灯	12V-8W	

仕様：RS

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■クラッチフルード **マニュアル車のみ**

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ HCF-2 ^{※1}	3.4 ℓ (交換時)
	Honda 純正 ウルトラ MTF-III ^{※2}	1.4 ℓ (交換時)

※1：無段変速オートマチック車

※2：マニュアル車

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジン オイル	ULTRA NEXT ^{※1}	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN 級 SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	3.1 ℓ
	オイル、オイルフィ ルター同時交換時	3.3 ℓ

※1：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント	
規定濃度	50%	
規定量	3.48 ℓ ^{※1} (交換時：リザーブタンク 0.40 ℓ含む)	
	3.35 ℓ ^{※2} (交換時：リザーブタンク 0.40 ℓ含む)	

※1：無段変速オートマチック車

※2：マニュアル車

■タイヤ

サイズ	185/55R16 83V
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪 220[2.2]/後輪 210[2.1]
リムサイズ	16×6J

数字

4WD(四輪駆動機構).....	177
7速マニュアルシフトモード.....	158
シフトインジケータ/M(7速マニュアルシフトモード)表示灯.....	67

A

A/C(エアコン).....	133, 225
ABS(アンチロックブレーキシステム).....	180
ABS警告灯.....	60, 180
AVG(平均燃費表示).....	73

C

CRUISE CONTROL (クルーズコントロール).....	173
CVT(無段変速オートマチックトランスミッション).....	155

E

ECONスイッチ.....	172
ECON表示灯.....	67
ENGINE START/STOPスイッチ.....	93
エンジンスイッチとの比較.....	96
パワーモードの切り換えかた.....	93
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯.....	62, 261
ETC車載器.....	1

H

Hondaスマートキー.....	77, 78, 79
Hondaスマートキーシステム警告灯.....	60
Hondaスマートキー電池消耗警告灯.....	63
Hondaスマートキー持ち去り警告灯.....	64
緊急時のエンジン停止方法.....	254
電池交換のしかた.....	223
Hondaスマートキー持ち去り警告灯.....	64

I

ISOFIX.....	52
-------------	----

M

M(7速マニュアルシフトモード)表示灯.....	157
MIST.....	102

P

PGM-FI警告灯.....	59, 260
----------------	---------

R

RANGE(航続可能距離表示).....	73
----------------------	----

S

SRSエアバッグ.....	35
エアバッグシステム警告灯.....	42, 60

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト).....	176
VSA OFF警告灯.....	61
VSA警告灯.....	61, 176

W

W(ワット)数.....	279, 280, 282
--------------	---------------

ア

アームレスト.....	121
フロントシート.....	121
リヤシート.....	121
アイドリングストップシステム	
オートマチック車.....	164
マニュアル車.....	168
アイドリングストップシステム警告灯.....	63
アイドリングストップ表示灯.....	68
アイボルト.....	234, 273
アクアクリンミラー.....	232
アクセサリー.....	196
アクセサリーソケット.....	129
安全なドライブのために.....	23
安全に関する表示.....	19
安全のための確認事項.....	23
アンチロックブレーキシステム(ABS)	
ABS警告灯.....	60, 180
アンテナ.....	145

マイクロアンテナ	145
アンピエントメーター	5

イ

一酸化炭素の危険性	56
イモビライザーシステム	89
イモビライザーシステム表示灯	66
イルミネーションコントロール	104
インフォメーションディスプレイ	72

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)	98
ウインドウォッシャー	
ウインドウォッシャー液の補給	202
ウインドウォッシャースイッチ	102
ウィンドーの開閉	91
ウェアインジケーター	220
運転	

エンジンの始動	149
クルーズコントロール	173
シフト操作	156, 160, 162
ブレーキ操作	178

エ

エアクリーナエレメント	278, 280, 282
エアコン	133, 225
エアクリーンフィルター	225

オートエアコンの使いかた	134
窓の曇りや霜の取りかた	136, 142
マニュアルエアコンの使いかた	139
モード切り換えダイヤル	139

エアバッグ

SRSエアバッグ	35
エアバッグシステム警告灯	42
エアバッグシステム故障診断記録装置	20
エアバッグのお手入れ	43
サイドエアバッグ	38
サイドカーテンエアバッグ	40

エコアシストシステム

エマージェンシーストップシグナル	182
------------------	-----

エンジンオイル

推奨エンジン オイル	202, 279, 281, 283
油圧警告灯	58, 259

エンジンスイッチ

パワーモードとの比較	96
------------	----

エンジンの始動

エンジンが始動しない	252
ジャンプスタート	255

エンジンルーム内のメンテナンス

ウインドウォッシャー液の補給	202
エンジンルーム内のメンテナンス項目	200
推奨エンジンオイル	202
ボンネットを開ける	201
冷却水の点検と補給	258

エンジン冷却水	279, 281, 283
---------	---------------

オ

追越合図(パッシング)	99
応急修理剤(タイヤパンク)	235
応急用スペアタイヤ	245
オーディオ装置	144
オートエアコン	134
オートライトコントロール警告灯	61
オートリトラミラー	109
オーバーヒート	258
オドメーター	73

カ

カーゴスペース照明灯	123
電球の交換	214
カーゴフロアボックス	126
外気温表示	74
鍵(かぎ)	77
ガソリン	193, 278, 280, 282

キ

キー

Hondaスマートキー	77, 78, 79
キーが0から1に回らない	17
キーが1から0に回らない	17
キー閉じ込み防止装置	84
キーナンバータグ	78
キーの種類と機能	77

キーレスエントリー	80
キーレスエントリー一体キー	77
キーレスエントリーでドアが開かない	18
後席ドアが開かない	17
電池交換のしかた	223
内蔵キー	77
Hondaスマートキーの電池が切れたとき	253
キー閉じ込み防止装置	84
キーナンバータグ	78
キーレスエントリー	80
キーレスエントリー一体キー	
電池交換のしかた	223
キックダウン	155
給油	193
給油のしかた	193
指定燃料	193, 278, 280, 282
燃料計	74
燃料残量警告灯	60

ク

空気圧	279, 281, 283
空気圧測定器による点検	220
クラッチフルード	279, 283
グラブレール	3
クリーブ現象	155
クルーズコントロール	173
クルーズコントロール表示灯	67

クルーズメイン表示灯	67
車の改造	196
グローブボックス	124

ケ

計器	57
警告灯	58
ABS警告灯	60, 180
EPSシステム警告灯	62, 261
Hondaスマートキーシステム警告灯	60
Hondaスマートキー電池消耗警告灯	63
Hondaスマートキー持ち去り警告灯	64
PGM-FI警告灯	59, 260
VSA OFF警告灯	61
VSA警告灯	61
アイドリングストップシステム警告灯	63
エアバッグシステム警告灯	60
オートライトコントロール警告灯	61
高水温警告灯	62
シートベルト非着用警告灯	59
充電警告灯	59, 259
スタータシステム警告灯	62
セレクトポジションP移動警告灯	63
チェンジポジションN移動警告灯	63
ドア/テールゲート開閉警告灯	61
トランスミッション警告灯	59
燃料残量警告灯	60
ブレーキ警告灯	58, 260

油圧警告灯	58, 259
警告灯の点灯/点滅	259
けん引	272

コ

交換	
カーゴスペース照明灯電球	214
後退灯電球	211
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	211
室内灯電球	213
車幅灯電球	207
制動灯/尾灯電球	211
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球	206
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球	210
テールゲートガイドランプ電球	212
ハイマウントストップランプ電球	212
番号灯電球	212
フォグライト電球	208
ヘッドライト電球	203
マップランプ電球	213
ワイパーブレードドラバー	215, 217
工具	234
高水温警告灯	62
航続可能距離表示	73
後退灯	211
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	211

コートフック	130
コンソールボックス	
センターコンソールボックス	125

サ

サービス診断記録装置について	20
サイドエアバッグ	38
サイドカーテンエアバッグ	40
サンバイザー	3

シ

シートの調節	110
アームレスト	121
フロントシート	110
ヘッドレスト	119
リヤシート	112
シートヒーター	132
シートベルト	25
アンカーポイント	34
シートベルトの着用	28
シートベルトの点検	34
シートベルト非着用警告灯	59
シートベルトプリテンショナー	27
シートベルトリマインダー	26
妊娠中のかたのシートベルト 着用のしかた	33
時刻の設定	76
室内装備品	124

室内灯	122
指定燃料	193, 278, 280, 282
シティブレーキアクティブシステム	183
シティブレーキアクティブ表示灯	69
シフトインジケーター	157
シフトインジケーター/M (7速マニュアルシフトモード) 表示灯	67, 157
シフトスイッチ	159
シフト操作	156, 160, 162
車外の清掃	229
ジャッキ	234
ジャッキハンドルバー	234
ジャッキハンドル (ホイールナットレンチ)	234
車内の清掃	227
車幅灯	207
ジャンプスタート	255
充電警告灯	59, 259
瞬間燃費表示	73
仕様	278, 280, 282
衝撃感知ドアロック解除システム	86
ショルダアンカー	30

ス

スイッチ	
ECONスイッチ	172
イルミネーションコントロール	104
セレクト/リセットノブ	104

フォグライトスイッチ	100
フロントガラス熱線スイッチ	105
ヘッドライトレベリングダイヤル	101
方向指示器(ウィンカースイッチ)	98
ライトスイッチ	99
リヤデフロスター	105
ワイパー/ウォッシャー	102
スタータシステム警告灯	62
ステアリング	106
スノータイヤ	222
スパークプラグ	278, 280, 282
スピードメーター	71

セ

清掃	227
制動灯	211
セキュリティシステム	89
イモビライザーシステム	89
セキュリティアラームシステム	89
セレクトポジション	156, 160
セレクトポジション 表示灯	67, 157, 161
セレクトポジションP移動警告灯	63
セレクトレバー	
セレクトレバーが動かない	257
セレクトレバーの操作	157, 161
センターコンソールボックス	125
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	206

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 210

タ

タイヤ	219
ウエアインジケータ	220
応急用スペアタイヤ	245
指定空気圧	279, 281, 283
タイヤの点検	219
タイヤのローテーション	221
タイヤパンク応急修理キット	235
冬期のタイヤ	222
パンク	235, 245
タイヤチェーン	222
タコメーター	71

チ

チェーン	222
チェンジポジションN移動警告灯	63
チェンジレバーの操作	162
チャイルドシート	44
ジュニアシート	54
乳児のチャイルドシート	45
幼児のチャイルドシート	46
チャイルドブルーフ	86
駐停車操作	190

テ

テールゲートガイドランプ	212
停止表示板入れ	131
低水温表示灯	65
データの開示について	20
テールゲートの開閉	87
テールゲートが開かないとき	275
ドア/テールゲート開閉警告灯	23, 61
デフロスター	136, 142
リヤデフロスター	105
点火プラグ	278, 280, 282
電子制御ブレーキアシスト	181
電池交換	223

ト

ドアの施錠と解錠	77
Hondaスマートキー	77
キー閉じ込み防止装置	84
キーナンバータグ	78
キーの種類と機能	77
キーレスエントリー	80
キーレスエントリー一体キー	77
キーレスエントリーでドアが開かない	18
後席ドアが開かない	17
車外でのドアの施錠/解錠	80
車内での施錠/解錠	85
衝撃感知ドアロック解除システム	86
チャイルドブルーフ	86

ドア/テールゲート開閉警告灯	23, 61
ドアミラー	108
冬期のタイヤ	222
スノータイヤ	222
タイヤチェーン	222
時計	76
トップテザーアンカレッジ	53
トップテザーアンカレッジシンボル	53
トップテザーストラップ	53
ドライバー	234
トラブルシューティング	
パンクした	245
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	18
エンジンが始動しない	252
オーバーヒートした	258
キーが0から1に回らない	17
キーが1から0に回らない	17
キーレスエントリーでドアが開かない	18
警告灯が点灯/点滅した	259
けん引してもらいたい	272
後席ドアが開かない	17
ジャンプスタートしたい	255
セレクトレバーが動かない	257
走行するとブザーが鳴る	18
ハイオクガソリンは使える?	18
パンクした	235
ヒューズが切れた	262
ブレーキを踏むと音がする	18
ブレーキを踏むと振動する	17

トランスミッション警告灯	59
トランスミッションフルード	279, 281, 283
トリップメーター	73
ドリンクホルダー	127

ナ

内蔵キー	77
------	----

ネ

燃料	193, 278, 280, 282
燃料計	74
燃料残量警告灯	60

ハ

パーキングブレーキ	178
排気ガスの危険性	56
ハイビーム	99
電球の交換	203
ハイビーム表示灯	65
ハイマウントストップランプ	4, 212
ハザードスイッチ	0
発炎筒	234
パッシング	99
発進補助ブレーキ機能	167
バッテリー	
ジャンプスタート	255

充電警告灯	59, 259
容量	278, 280, 282
パニティミラー	3
パワーモード	
エンジンスイッチとの比較	96
パワーモードオートオフ機能	94
パワーモード警告ブザー	94
パワーモードの切り換えかた	93
パワーウィンドーの開閉	91
パンク	235, 245
番号灯	212
ハンドル	106
ハンドル位置調整レバー	106
ハンドル操作表示灯	68
ハンドルロック	97
汎用型ISOFIXチャイルドシート	49

ヒ

非常点滅表示灯スイッチ	0
尾灯	211
ヒューズ	262
ヒューズの設置場所	262
ヒューズの点検と交換	271
表示灯	65
ECON表示灯	67
アイドリングストップ表示灯	68
イモビライザーシステム表示灯	66
クルーズコントロール表示灯	67

クルーズメイン表示灯	67
シティブレーキアクティブ表示灯	69
シフトインジケーター/M	
(7速マニュアルシフトモード)	
表示灯	67, 157
セキュリティアラームシステム	
作動表示灯	66
セレクトポジション	
表示灯	67, 157, 161
低水温表示灯	65
ハイビーム表示灯	65
ハンドル操作表示灯	68
フォグライト点灯表示灯	65
ブレーキ踏み込み不足表示灯	68
方向指示器表示灯	65
ライト点灯表示灯	65

フ

ブースターケーブル	255
フォグライト	208
フォグライトスイッチ	100
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	18
走行するとブザーが鳴る	18
フューエルリッドの開けかた	193
ブレーキ踏み込み不足表示灯	68
ブレーキ警告灯	58, 260
ブレーキシステム	178
ABS(アンチロックブレーキシステム)	180

エマージェンシーストップシグナル	182
シティブレーキアクティブシステム	183
電子制御ブレーキアシスト	181
パーキングブレーキ	178
フットブレーキ	179
ブレーキ警告灯	58, 260
ブレーキを踏むと音がする	18
ブレーキを踏むと振動する	17
ブレーキフルード	279, 281, 283
ブレーキ警告灯	58, 260
フロントガラス熱線スイッチ	105
フロントシート	110
アームレスト	121
ヘッドレスト	119

へ

平均燃費表示	73
ヘッドライト	99, 232
追越合図(パッシング)	99
電球の交換	203
ハイビーム	99
ハイビーム表示灯	65
ライト点灯表示灯	65
ロービーム	99
ヘッドライトレベリングダイヤル	101
ヘッドレスト	119
フロントシート	119
リヤシート	119

ホ

ホイールサイズ	279, 281, 283
ホイールナットレンチ (ジャッキハンドル)	234
方向指示器(ウィンカースイッチ)	98
方向指示器表示灯	65
ホーンスイッチ	1

マ

マイクロアンテナ	145
マイナスイライバー	234
マップランプ	123
マップランプ電球	213
マニュアルエアコン	139

ミ

ミラー	107
ドアミラー	108
パニティミラー	3
ルームミラー	107

メ

メーター	8, 71
インフォメーションディスプレイ	72
スピードメーター	71
タコメーター	71
燃料計	74

メンテナンス	197
エンジンルーム内のメンテナンス	200
キーレスエントリー一体キー/ Hondaスマートキー	223
清掃	227
タイヤの点検と整備	219
メンテナンスに関する注意事項	199
メンテナンスを安全に行うために	199
ライト類の点検と整備	203
ワイパーブレードラバーの点検と整備	215

モ

モード切り換え(エアコン)	139
---------------	-----

ユ

油圧警告灯	58, 259
有料道路自動料金支払いシステム (ETC)車載器	1

ヨ

四輪駆動機構(4WD)	177
-------------	-----

ラ

ライトスイッチ	99
追越合図(パッシング)	99
ハイビーム	99

ハイビーム表示灯	65
フォグライト点灯表示灯	65
ライト点灯表示灯	65
ロービーム	99

ライト類の点検と整備	203
カーゴスペース照明灯電球	214
後退灯電球	211
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	211
室内灯電球	213
車幅灯電球	207
制動灯/尾灯電球	211
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球	206
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球	210
テールゲートガイドランプ電球	212
ハイマウントストップランプ電球	212
番号灯電球	212
フォグライト電球	208
ヘッドライト電球	203
マップランプ電球	213
ラジエーター	258

リ	
リザーブタンク	258
リムサイズ	279, 281, 283
リヤカメラシステム	192
リヤシート	112

アームレスト	121
ヘッドレスト	119
リヤデフロスター	105

ル

ルームミラー	107
---------------------	-----

レ

冷却水	258, 279, 281, 283
オーバーヒート	258
高水温警告灯	62
低水温表示灯	65
補給	258

ロ

ロアアンカレッジ	52
ロービーム	99
電球の交換	203

ワ

ワイパー/ウォッシャー	102
ワイパーブレードラバー	215

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名